

第 1 回 上越市総合計画審議会 次第

日 時 平成 30 年 5 月 23 日
午後 3 時 45 分から
会 場 上越市役所 401 会議室

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

4 委員紹介

資料No.1

5 会長・副会長の互選

6 諮問

7 議事

(1) 審議会の運営等について

・上越市総合計画審議会 開催計画 (案)

資料No.2、3

(2) 上越市の現状と課題について

① 第 6 次総合計画の概要

② 上越市の現状と課題

資料No.4

③ 「市民の声アンケート」の結果

資料No.5-1、5-2

8 その他

9 閉会

上越市総合計画審議会委員名簿

(委員区分・五十音順、敬称略)

区 分 (上越市総合計画審議会条例 第3条第2項各号)	氏 名	所属機関・団体等
第1号 上越市教育委員会の委員	濱 祐子	上越市教育委員会 委員
第2号 上越市農業委員会の委員	荒川 俊治	上越市農業委員会 会長
第3号 学識経験を有する者	川崎 直哉	上越教育大学 学長
	小泉美佐子	新潟県立看護大学 学長
	平澤 則子	新潟県立看護大学 教授
	松田 曜子	長岡技術科学大学 准教授
	山縣耕太郎	上越教育大学 教授
第4号 関係行政機関の職員	遠藤 正樹	国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 所長
	大野 昇	新潟県上越地域振興局 局長
	金子 幸二	厚生労働省新潟労働局上越公共職業安定所 所長
第5号 関係諸団体の役員及び職員	岡田 龍一	上越市小中学校PTA連絡協議会 会長
	荻谷 賢一	上越市商工会連絡協議会 会長
	小嶋 宏志	上越青年会議所 理事長
	小林 良一	上越市社会福祉協議会 理事
	白石 雅孝	上越市地域公共交通活性化協議会 委員
	杉本 正彦	上越市町内会長連絡協議会 会長
	高橋 信雄	上越商工会議所 会頭
	竹内 靖彦	NPO法人中郷区まちづくり振興会 理事長
	中條美奈子	NPO法人マミーズ・ネット 理事長
	早川 英雄	連合新潟上越地域協議会 事務局長
	早津 正文	上越医師会 会長
	藤山 作次	えちご上越農業協同組合 代表理事理事長
	松川菜々子	NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部 理事
第6号 公募に応じた市民	大堀 みき	市民
	土屋 郁夫	市民
	中村 真二	市民
第7号 その他市長が必要と認める者	倉石 義行	上越市スポーツ推進審議会 副委員長
	斉京 貴子	上越市女性サポートセンター運営委員会 委員長
	武石 雄司	上越観光コンベンション協会 観光振興専門官
	宮下 孝洋	上越市ものづくり振興専門員

平成30年5月23日
第1回総合計画審議会
資料No.2

○上越市総合計画審議会条例

昭和46年7月30日

条例第86号

改正 昭和48年6月30日条例第37号

昭和53年3月27日条例第26号

昭和57年9月28日条例第55号

昭和63年3月24日条例第1号

平成4年3月25日条例第27号

平成7年3月27日条例第3号

平成11年3月24日条例第6号

平成14年3月29日条例第10号

平成14年6月19日条例第35号

平成15年3月27日条例第4号

平成16年12月21日条例第189号

平成22年3月17日条例第1号

平成24年3月26日条例第9号

平成25年12月20日条例第57号

(設置)

第1条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、上越市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、上越市総合計画に関する事項について調査及び審議をする。

(組織)

第3条 審議会は、委員30人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 市教育委員会の委員
- (2) 市農業委員会の委員
- (3) 学識経験を有する者
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 関係諸団体の役員及び職員
- (6) 公募に応じた市民

(7) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、諮問に係る事項について調査及び審議を終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、企画政策部において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和48年条例第37号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、昭和48年7月16日から施行する。

附 則 (昭和53年条例第26号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則 (昭和57年条例第55号) 抄

(施行期日)

この条例は、昭和57年10月1日から施行する。

附 則 (昭和63年条例第1号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 (平成4年条例第27号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成7年条例第3号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成11年条例第6号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から起算して7月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。

(平成11年規則第28号で平成11年7月1日から施行)

附 則 (平成14年条例第10号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年条例第35号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成15年条例第4号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年条例第189号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成17年1月1日から施行する。

附 則 (平成22年条例第1号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年条例第9号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年条例第57号)

この条例は、公布の日から施行する。

○上越市総合計画審議会規則

昭和46年7月30日

規則第43号

(趣旨)

第1条 この規則は、上越市総合計画審議会条例（昭和46年上越市条例第86号）の規定に基づき、上越市総合計画審議会（以下「審議会」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

(部会)

第2条 会長が必要と認めるときは、審議会に専門的事項を分掌させるための部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織し、部会長は、部会に属する委員の互選により定める。

3 部会長は、部会における審議の経過及び結果を審議会に報告しなければならない。

4 前各項に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が会長の同意を得て定める。

(幹事)

第3条 審議会に幹事若干名を置き、本市職員のうちから市長が任命する。

2 幹事は、審議会の能率的かつ有機的な調査審議を図るため、上越市総合計画（以下「計画」という。）の策定及び推進に必要な調査をするとともに、計画の進行管理に当たる。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

上越市総合計画審議会 開催計画（案）

時期	審議内容（予定）	
平成30年5月23日	第1回審議会	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱状交付 ○市長挨拶 ○会長・副会長の互選 ○諮問 ○議事 <ul style="list-style-type: none"> ・審議会の運営等について ・上越市の現状と課題について
7月中旬	まちづくり意見交換会 市内3～4会場	
7月下旬	第2回審議会	<ul style="list-style-type: none"> ○基本計画の骨子案について ○まちづくり意見交換会の開催結果について
8月下旬	第3回審議会	○基本計画の計画案について
10月上旬	市民説明会	
10月中旬	パブリックコメント	
11月下旬	第4回審議会	<ul style="list-style-type: none"> ○基本計画の計画案について <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果と対応について
	審議会（会長）	○答申
12月	12月議会	議案提案・議決
平成31年3月上旬	基本計画の公表（冊子配布）	

上越市の現状と課題

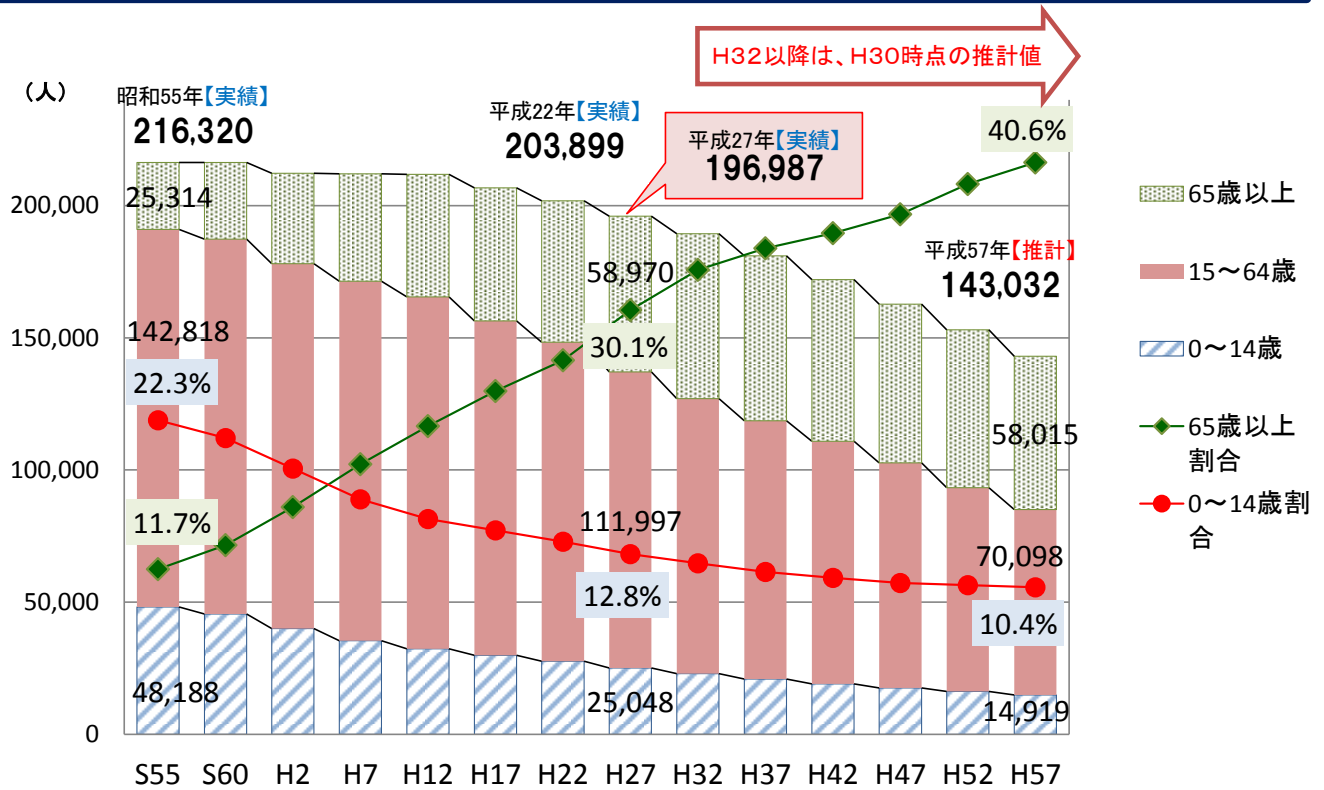
1 人口・世帯の状況

2 政策分野別基本施策の状況

1 人口・世帯の状況

(1) 人口

① 総人口の推移と将来推計人口（S55～H57）



出典 総務省「国勢調査」及び国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成30年3月推計)により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

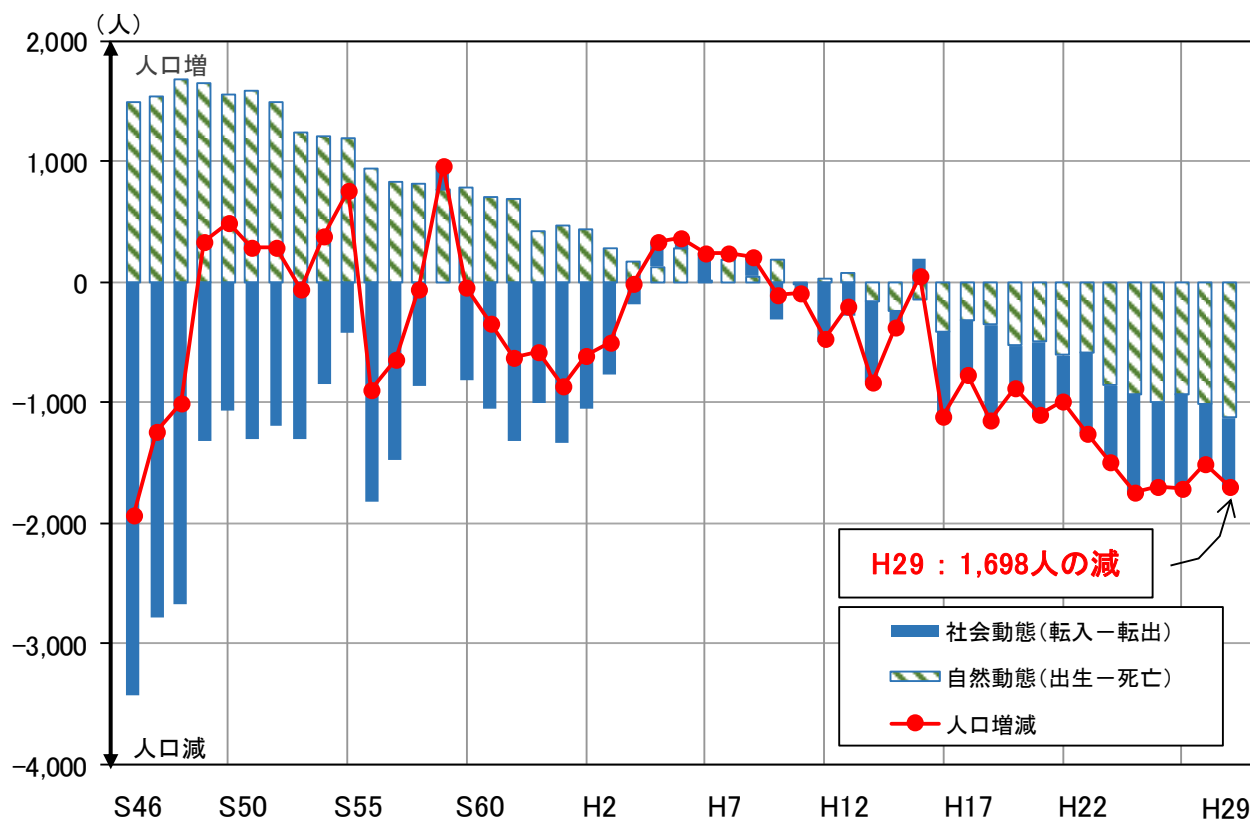
② 地域自治区別の人口の状況

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考
	S55	H22	H27	
高田	41,356	30,421	28,930	70%
新道	6,548	9,684	9,993	153%
金谷	11,011	14,332	14,174	129%
春日	9,401	21,187	21,645	230%
諏訪	1,495	1,223	1,176	79%
津有	4,654	5,038	4,876	105%
三郷	1,373	1,374	1,339	98%
和田	5,200	5,840	5,801	112%
高士	2,169	1,561	1,437	66%
直江津	21,953	19,673	19,248	88%
有田	10,399	14,329	14,966	144%
八千浦	4,815	4,281	3,973	83%
保倉	2,773	2,303	2,178	79%
北諏訪	1,589	1,632	1,540	97%
谷浜・桑取	3,106	1,823	1,639	53%

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考
	S55	H22	H27	
安塚	5,937	2,878	2,491	42%
浦川原	4,980	3,769	3,442	69%
大島	3,939	1,927	1,613	41%
牧	4,559	2,322	2,001	44%
柿崎	13,702	10,660	9,837	72%
大潟	10,751	9,950	9,475	88%
頸城	8,232	9,499	9,267	113%
吉川	7,072	4,764	4,234	60%
中郷	5,957	4,303	3,867	65%
板倉	9,008	7,327	6,831	76%
清里	3,495	3,015	2,780	80%
三和	6,679	5,918	5,625	84%
名立	4,167	2,866	2,609	63%
市全体	216,320	203,899	196,987	91%

出典 総務省「国勢調査」により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

③ 人口動態の推移（S46～H29）

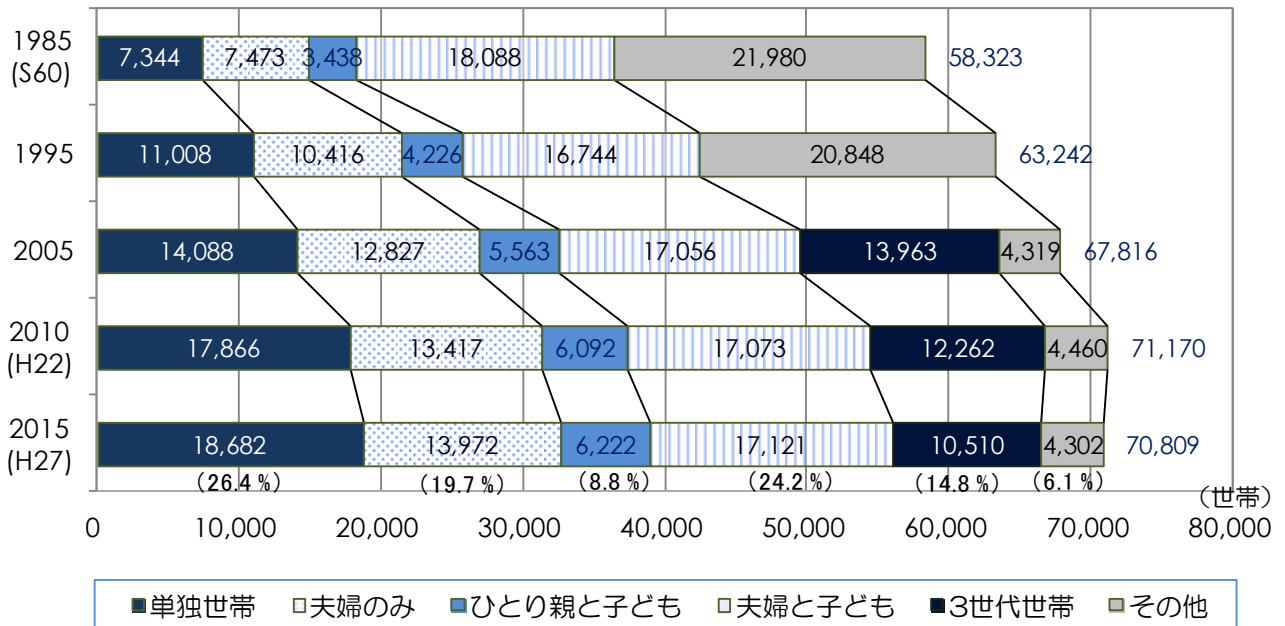


年度	各年度の人口動態							
	出生 ①	死亡 ②	自然動態 ③=①-②	転入 ④	転出 ⑤	社会動態 ⑥=④-⑤	人口増減 ⑦=③+⑥	
近年の推移	H23	1,659	2,237	△ 578	4,409	5,080	△ 671	△ 1,249
	H24	1,545	2,401	△ 856	4,307	4,948	△ 641	△ 1,497
	H25	1,601	2,525	△ 924	4,194	5,013	△ 819	△ 1,743
	H26	1,418	2,419	△ 1,001	4,242	4,943	△ 701	△ 1,702
	H27	1,521	2,449	△ 928	4,154	4,934	△ 780	△ 1,708
	H28	1,427	2,431	△ 1,004	4,333	4,841	△ 508	△ 1,512
	H29	1,347	2,469	△ 1,122	4,225	4,801	△ 576	△ 1,698

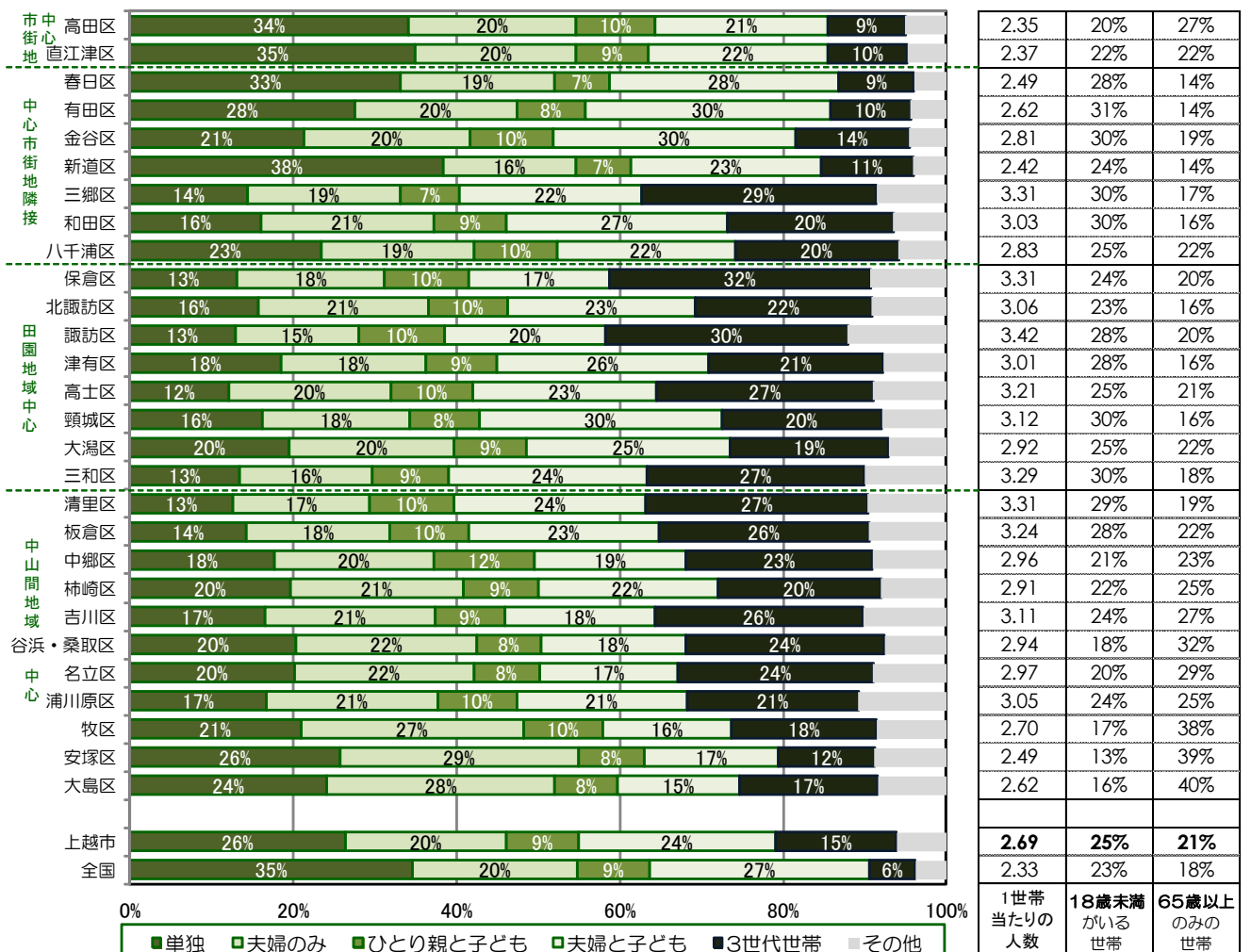
出典 新潟県人口移動調査結果報告により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの
 ※各年度の人口動態データの対象期間は、前年10月から当年9月までのもの

(2) 世帯

① 世帯構成の推移 (S60~H27)



② 地域自治区別の世帯構成 (H27)



出典 総務省「国勢調査」を基に上越市創造行政研究所作成

2 政策分野別基本施策の状況

(1) 市民が主役のまちづくり

○目標

誰もが個性と能力を発揮する機会が保障されており、市民主体のまちづくりが行われ様々な支え合いの仕組みが整っている「人と地域が輝くまち」を目指します。

○主な取組と現状・課題

[1-1 人権尊重・非核平和友好の推進]

- 取組** ・小中学生を対象とした学習会や平和展等を開催し、人権・非核平和の意識啓発や多文化共生の推進に向けて、学校や地域、関係機関等と連携しながら取組を進めてきた。
- 現状** ・児童・生徒のいじめに対する意識の向上や、若い世代等への非核平和の意識啓発が進んだ。
- 課題** ・情報を発信するメディアの多様化やインターネットの普及により、新たな人権・差別問題が表面化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と答えた児童・生徒の割合	小学6年生 87.9% 中学3年生 73.6%	小学6年生 90.0% 中学3年生 80.0%	○ 順調 (H30 目標以上)
平和展来場者数	843/年	843/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-2 男女共同参画社会の形成]

- 取組** ・男女共同参画に向けた各種講座の開催や普及啓発活動、人材育成に、関係団体・機関等と連携して取り組んだ。また、女性相談では、ニーズに応じた支援の充実に努めた。
- 現状** ・新潟県の「ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）」に登録する市内事業所が着実に増えてきている。(H26：555社→H30：878社)
- 課題** ・男女間の役割分担に固定的な意識が根強く残り、男女の地位の平等感が低下傾向にある。
・男性は職場において、依然として育児のための休業が取得しにくい環境にある。
・女性相談について、家族、DV、職場、地域、メンタルヘルスなどの様々な要因が複雑に絡み合うような事案が増加してきている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
男女の地位の平等感	29.2%	39.0%	△ 遅れ (H26 値未満)
配偶者から暴力を受けたことがある女性の割合	40.7%	30.4%以下	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-3 ユニバーサルデザインの推進]

取組

- ・啓発冊子の配布や学校等での出前講座の実施によりユニバーサルデザインの普及・啓発活動を行うとともに、公共施設でのユニバーサルデザイン化を推進した。

現状

- ・女性活躍推進法や子ども・子育て支援法の施行などもあり、様々な立場の人たちが暮らしやすい共生社会の実現に向けた環境整備が全国的に進められている。

課題

- ・市民や事業者に対し、ユニバーサルデザインの認知度を高められていない。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
ユニバーサルデザインの認知度	41.4%	45.0%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-1 市民活動の促進]

取組

- ・様々な分野における公共的課題の解決や、まちづくり活動を市民の自主性とノウハウに基づいて推進していくため、市民活動の支援や人材育成、市民参画に向けた情報提供、人口減少・高齢化が深刻な中山間地域の支え合い体制の構築に取り組んだ。

現状

- ・市民活動団体の登録団体数は増加したものの、新規会員の減少や役員の高齢化が進んでいる。
- ・ICTの活用やSNSの普及により、活動の担い手同士の情報共有やつながりづくり、若者の地方回帰などの効果が表れている。

課題

- ・人口減少や高齢化の進行などにより、市民活動団体の活動は衰退しており、中山間地域では支え合い体制が弱まっている。

※人口減少や少子高齢化、世帯構成の変化を要因とするものに二重線を付しています。以下同様。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域活動や市民活動に参加している市民の割合	42.5%	47.0%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-2 地域自治の推進]

取組

- ・地域協議会による地域課題の抽出や解決策の検討、各地域で活動する様々な団体等との意見交換会の開催等を支援した。

現状

- ・各地区の地域協議会が計画的に開催され、市民の認知度も高まっている。
- ・地域コミュニティ活動を支援した地域では、課題解決に向けた主体的な話し合いや地域の活力につながっている。

課題

- ・中山間地域や中心市街地を中心に、人口減少や高齢化の進展等により地域自治の担い手の確保が困難な地域が拡大している。
- ・中山間地域では、地域における支え合い体制の脆弱化が特に深刻化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域協議会について知っている市民の割合	—	30.0%	○ 順調 (H30 目標以上)

(2) 防災・防犯分野

○目標

日頃から地域全体として災害や犯罪・事故等への備えが整い、安全・安心に暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[1-1-1 大規模災害への対応力の強化]

- 取組**
- ・地域防災計画に基づき、危機管理能力の向上に向けた職員の研修や訓練を行うとともに、洪水等のハザードマップの作成・配布や避難所の物資等の配備、福祉避難所の指定等に取り組んだ。
 - ・原子力災害に係る屋内退避・避難計画の策定と住民周知、資機材の整備を行った。
- 現状**
- ・避難所への大規模災害に備えた発電機等の資機材の配備が完了した。また、福祉避難所へ避難する要支援者の個別避難計画の策定や避難所での福祉スペース設置が進んだ。
- 課題**
- ・県の津波浸水想定公表や今後の洪水想定追加公表、土砂災害計画区域の指定を受け、避難所の見直しやハザードマップの更新等の対応が求められる。
 - ・原子力防災における広域的な避難体制の整備について、県計画の策定が進まず、遅れている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
避難所運営資機材	22.7%	100%	○ 順調 (H30 目標以上)
避難行動要支援者の個別避難計画作成率	33.7%	95%以上	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-1-2 災害に強い都市構造の構築]

- 取組**
- ・橋梁やガス・水道の耐震化や、河川施設の維持管理等の治水対策、地すべり防止区域における巡視活動等の治山対策に取り組んだ。
 - ・旧耐震基準の木造住宅の耐震性の向上や、老朽化した空き家の適正管理の助言・指導を行った。
- 現状**
- ・地域住民による河川除草等の清掃活動が継続できず、行政による対応の要望が増加している。
 - ・木造住宅の居住者の高齢化等により耐震化の意識が低下し、耐震診断件数が減少している。
 - ・人口減少や核家族化等により空き家が増加傾向にある。
- 課題**
- ・木造住宅の耐震化のほか、空き家の除却・適正管理や利活用の促進が必要となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
下水道（雨水幹線）の整備率	66.3%	66.9%	○ 順調 (H30 目標以上)
木造住宅の耐震診断数	396 件	520 件	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-2-1 消防体制の整備]

取組 ・常備消防の機能整備のほか、消防団員の技術向上の訓練や団員の確保、消防備品等の更新・整備を進めた。

現状 ・常備消防では、糸魚川市の大規模火災を受けた市街地における防災・消火対策や、(仮称)消防本部・上越北消防署の移転事業が進んでいる。
 ・消防団員の減少と高齢化が進んでおり、消防団の適正配置の検討に着手している。

課題 ・市街地の家屋連担地域における火災に対する水利等の充実や、常備消防と消防団の連携の強化が必要である。
 ・消防団の適正配置による地域消防力の確保が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
常備消防機能の整備と再配置	整備と再配置の方向性が未定	整備と再配置の方向性が決定	○ 順調 (H30 目標以上)
消防団員数	4,490 人	4,590 人	△ 遅れ (H26 値未満)

[1-2-2 地域防災力の維持・向上]

取組 ・自主防災組織の結成を促進するとともに、自主的な防災訓練、防災士の養成などを支援した。

現状 ・自主防災組織の組織率は上昇しているものの、高齢化や過疎化による防災活動の担い手不足や訓練の形骸化が見られる。

課題 ・自主防災組織の担い手づくりや活動の継続による地域防災力の確保が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
自主防災組織の組織率 (町内会単位)	91.4%	100%	△ 遅れ (H26 値以上)
毎年訓練を行う自主防災組織の割合	66.1%	100%	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-3-1 防犯対策の推進]

取組

・多様化する犯罪に対応するため、出前講座等による犯罪情報の発信や注意喚起、防犯週間等の機会を捉えた地域防犯力の向上に取り組んだ。

現状

・刑法犯認知件数は減少傾向が続いている。

課題

・特殊詐欺等の新たな犯罪の増加や多様化・巧妙化への対応が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
刑法犯認知件数	1,350 件/年	1,280 件/年以下	○ 順調 (H30 目標以上)
犯罪への不安を感じない市民の割合	26.0%	30%	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-3-2 交通安全対策の推進]

取組

・警察、交通安全協会、安全運転管理者協会などの関係機関と連携し、園児から高齢者までの対象に応じた交通安全教育や、地域安全支援員の委嘱や研修会を実施した。

現状

・交通事故発生件数及び死傷者数は減少しているが、当該件数に占める高齢者の割合は増加傾向にある。

課題

・高齢者が被害者や加害者となる交通事故の抑止・減少が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
交通事故発生件数	665 件/年	635 件/年以下	○ 順調 (H30 目標以上)
交通安全対策に満足している市民の割合	35.4%	38%	△ 遅れ (H26 値以上)

(3) 環境分野

○目標

市民一人ひとりに環境に対する意識が根付き、自ら行動することにより、豊かな自然が大切に守られ、良好な環境の中で心地よく暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[2-1-1 ごみ減量・リサイクルの推進]

- 取組**
- ・ごみの分別と減量意識を醸成するとともに、高齢化の進行に対応したごみヘルパーの配置や町内会等によるクリーン活動、環境パトロール等を実施した。
- 現状**
- ・ごみの排出量は、家庭系は減少傾向であるが、事業系は景気動向などにより変動がある。
 - ・スマートフォンなどの電子媒体の普及により紙媒体の普及率が減少傾向にあり、再資源となる新聞紙や雑誌類の排出量が減少している。
 - ・大手スーパーによるレジ袋の有料化や資源物の店頭回収、企業による環境イベントなど企業のCSR（企業の社会的責任）等の取組が増加した。
- 課題**
- ・不法投棄や未分別ごみの排出が依然として見られる。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市民1人当たりのごみ排出量	949 g	948 g / 日以下	△ 遅れ (H26 値未満)
家庭ごみの資源化率	48.1%	50%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-1-2 環境汚染の防止]

- 取組**
- ・地盤沈下などの公害の発生を防止するため、法令等に基づく計測や規制の遵守に向けた監視を行うとともに、必要な改善指導等を行った。
- 現状**
- ・公共下水道と農業集落排水の接続率、合併処理浄化槽の設置率の向上に取り組んだ。
 - ・公共下水道等への接続率が向上し、水質汚濁の防止につながっている。
 - ・地盤沈下注意報の発令までのタイミングが短期化する傾向にある。
- 課題**
- ・人口減少や高齢化に伴う後継者不足を背景に、受益者負担金や排水設備工事費の負担が困難となり、下水道接続を拒否する世帯が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
公害苦情件数	32 件 / 年	30 件 / 年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
汚水衛生処理率	80.3%	83%	○ 順調 (H30 目標以上)

[2-1-3 自然環境の保全]

- 取組**
- ・自然環境保全地域の指定や保全活動、レッドデータブックの普及啓発に取り組んだ。
 - ・ツキノワグマやイノシシなどの大型野生動物による人身や農作物の被害防止を図った。
- 現状**
- ・自然環境ツアーの参加者が増加するなど、自然環境に対する意識高揚の傾向が見られる。
- 課題**
- ・特定外来生物の生息生育エリアが拡大しつつあるほか、大型野生動物が市街地近郊へ出没する頻度が年々高くなってきている。
 - ・イノシシの頭数の急増による水稲被害が拡大している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
イノシシによる水稲の被害面積	3.0ha/年	2.5ha/年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
開発事業者等の届出義務違反の件数	0 件/年	0 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[2-2-1 地球温暖化対策の推進]

- 取組**
- ・公共施設等における再生可能エネルギーの利用促進や照明の LED による省エネルギー化のほか、住宅への太陽光発電システムの設置支援や雪冷熱エネルギーの活用を推進した。
- 現状**
- ・市内の住宅で太陽光発電や LED、エコカーが普及した。
- 課題**
- ・再生可能エネルギーの買取価格が年々低下している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内の住宅用太陽光発電システムによる合計出力	3,630kW	5,070kW	△ 遅れ (H26 値以上)
世帯当たりの年間電力消費量	6,024kWh	6,024kWh/年以下	-

[2-2-2 環境学習の推進]

- 取組**
- ・市民への環境情報の発信や環境学習の機会を提供したほか、市役所において環境マネジメントシステムの定着に取り組んだ。
 - ・全市クリーン活動や環境パトロールによる環境美化の推進に取り組んだ。
- 現状**
- ・環境イベントへの参加者数が増加し、また、各地域で環境保全活動が展開されるなど、環境に対する意識が高まっている。
 - ・社会貢献活動として清掃活動を行う企業や団体が増加している。
- 課題**
- ・新興住宅地やマンション、アパートの集合住宅では、環境に対する意識やごみの分別意識が低い傾向にある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
全市クリーン活動参加者数	58,182 人/年	60,000 人/年	○ 順調 (H30 目標以上)

(4) 健康福祉分野

○目標

誰もが生涯を通じてこころと体の健やかさを保てる環境が整い、安心して自分らしく暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[3-1-1 こころと体の健康の増進]

- 取組**
- ・保健指導、健康講座等を行い、市民が生活習慣病予防を主体的に実践できるよう支援したほか、自殺予防等のこころの健康サポートや公衆衛生環境の保全に取り組んだ。
- 現状**
- ・国保後期高齢者の1人当たり医療費の伸びは鈍化し、要介護認定率も減少している。
 - ・自殺者数は減少傾向にあるが、国・県と比較して自殺死亡率が高い。
- 課題**
- ・市民健診（事業所等による受診機会のない40歳未満の人が対象）の受診率が低い。
 - ・脳血管疾患等の原因となる高血圧や糖尿病の人の割合が増加傾向にある。
 - ・自殺等に関する相談者への支援体制の構築が必要である。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
特定健診受診率と特定保健指導の実施率	特定健診受診率 45.8% 特定保健指導実施率 57.7%	国の目標値以上	△ 遅れ (H26 値以上)
自殺者数	69 人/年	減少傾向へ	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-1-2 地域医療体制の充実]

- 取組**
- ・上越地域医療センター病院の医療機器の整備等の機能強化や、病院と診療所との医療ネットワークの構築、休日や夜間等の救急医療体制の確保に取り組んだ。
- 現状**
- ・地域医療センター病院の利用者は増加し、安定した経営を維持している。
 - ・医師不足により、市内の急性期病院で休床せざるを得ない状況にある。
- 課題**
- ・上越地域医療センター病院の老朽化が進み、改築の方針を検討する必要がある。
 - ・地域の医師不足や市立診療所の医師の高齢化に対応した、医師の確保が必要である。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
市内医療機関等から上越地域医療センター病院への紹介患者数	1,880 人/年	1,880 人/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-2-1 高齢者福祉の推進]

- 取組** ・訪問による個別指導や健康相談等による介護予防や、就労機会の提供や老人クラブ活動の活性化等の生きがいをづくり、地域包括ケアシステムの構築による最適なサービス提供、地域全体で高齢者を見守る体制づくりを進めた。
- 現状** ・要介護認定率がほぼ横ばいを保っており、介護予防の取組に一定の成果が出ている。
 ・老人クラブの会員数や高齢者の趣味講座の受講者は減少傾向にある。
- 課題** ・団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」を見据え、増加が予想される骨折や認知症の予防対策が急務である。
 ・介護サービスを利用していないひとり暮らし高齢者などの孤立死が生じている。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
第1号被保険者(65歳以上)の要介護1以上の認定者数	9,380人	10,576人	△遅れ (H26値以上)
高齢者の訪問指導をした人で、要介護状態へ移行した人の割合	2.0%	2.0%以下	○順調 (H30目標以上)

[3-2-2 個性を尊重した障害者福祉の促進]

- 取組** ・障害のある人の就学・就労支援の充実や、外出・移動支援等による社会参加の推進に取り組んだ。
- 現状** ・上越管内の障害者雇用率(H29.6)は2.03%で、法定雇用率(2.0%)を上回り、就労の意向も増加している。
- 課題** ・生活介護サービスや短期入所サービスの提供施設や、入所施設からの移行が進められるグループホームや放課後等デイサービスの不足が生じている。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
障害者実雇用率	1.51%	1.8%	○順調 (H30目標以上)
福祉事業所就労における平均月額賃金	12,696円	13,416円	○順調 (H30目標以上)

[3-2-3 複合的な課題を抱える世帯への支援]

取組 ・複合的な課題を抱える世帯等の相談体制の強化や、生活保護世帯等の早期の自立へ向けた支援の充実に取り組んだ。

現状 ・複合的な課題を抱え、各種制度の隙間で支援につながらないケースが増加している。
 ・こども食堂など、新たなコミュニティ活動の取組が全国や地域で広がっている。

課題 ・子供から高齢者まで切れ目なく包括的な相談・支援が受けられる仕組みの構築や関係機関との連携対応が必要である。
 ・生活困窮者の支援では、深刻化する前の早い段階での介入が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域が生活困窮者の支援にかかわっている割合	41.5%	50%	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-3-1 子育てに関する負担や不安の軽減]

取組 ・母子保健の充実や、子ども医療費助成の拡大・無料化等による経済的負担の軽減、保護者同士の交流やこどもセンターのリニューアル等による子どもの育ちの充実や子育ての不安感・孤立感の緩和に取り組んだ。

現状 ・少子化の進行や核家族、ひとり親世帯の増加、ライフスタイル・価値観の多様化など、子育て環境が変化している。

課題 ・児童虐待やDVの相談が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
出産や子育てがしやすいと感じる市民の割合	53.8%	53.8%	△ 遅れ (H26 値未満)
合計特殊出生率	1.68	1.68	△ 遅れ (H26 値未満)

[3-3-2 子育て環境の充実]

取組 ・保育園の環境整備や施設の再編・改築、保護者の就労形態やニーズの多様化に対応した延長保育や未満児保育、病児・病後児保育などの多様な保育サービスを提供した。

現状 ・ファミリーヘルプ保育園や病児・病後児保育室などのサービスメニューは、他自治体に比べて充実している。

課題 ・土曜日の保育や、病児保育室の増設などのニーズが高まっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
待機児童数	0 人	0 人	○ 順調 (H30 目標以上)

(5) 産業・経済分野

○目標

力強く自立性の高い地域経済が構築され、生活の糧となる働く場を選択することができ、生きがいをもって暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[4-1-1 ものづくり産業・商業の振興]

- 取組** ・各種制度融資等による中小企業の経営安定化や、新商品・新技術の開発支援、中心市街地や商店街の維持・活性化に取り組んだ。
- 現状** ・平成30年4月、中小企業・小規模企業振興基本条例を施行し、地域を挙げて地元企業を支援する環境が整った。市内経済は回復傾向が続いている。
・メイド・イン上越の認証件数や、企業の設備投資の支援件数は増加傾向にある。
・街なかの回遊やにぎわい創出につながるオーレンプラザや、新水族博物館等の新たな拠点施設の整備が進んでいる。
- 課題** ・小規模な事業者を中心に依然として景気回復を実感できない状況であり、商工会の会員数も減少し、運営環境が厳しくなることが想定される。
・製造業等では人手不足が顕在化し、人材育成やIoT等の普及が求められる。
・商店街では少子高齢化や、居住人口の減少等による空洞化に対応した経営が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
メイド・イン上越認証品数	13 品	96 品	○ 順調 (H30 目標以上)
中心市街地における空き店舗の活用支援件数	2 件/年	4 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-1-2 物流・貿易の振興]

- 取組** ・港湾管理者である新潟県や港湾関係団体との連携の下、直江津港の集荷力増加に向けた取組や、メタンハイドレートの周知活動、物流・貿易の活性化を支援した。
- 現状** ・中部電力(株)の上越火力発電所や国際石油開発帝石(株)の直江津 LNG 基地が稼働し、東北電力(株)の LNG 火力発電所が運転予定であるなど、エネルギーの供給拠点化が進む。
- 課題** ・定期コンテナ船業界の世界的な競争激化や中国経済の減速などにより航路数が減少し、貨物取扱量も減少している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
直江津港の外貿定期コンテナの仕向け地など	4 航路	航路数の増加・コンテナの仕向け地の多様化	△ 遅れ (H26 値未満)
外貿定期コンテナ取扱量	30,058 個/年	50,000 個/年	△ 遅れ (H26 値未満)

[4-1-3 新産業・ビジネス機会の創出]

取組

・企業立地や事業拡大の推進のほか、商工団体や金融機関との連携による起業・創業の総合的な支援や、新たな市場開拓に向けた経済交流を推進した。

現状

・北陸新幹線の開業や上信越自動車道の4車線化は、新しい人の流れを生み、鉄道路線や直江津港との相乗効果により、企業誘致の強みとなっている。
 ・上越市総合支援ネットワークによる創業の支援体制が整い、創業セミナーや創業塾の参加者が増加傾向にあるなど、創業・第二創業の関心が高まっている。

課題

・経営者の高齢化や後継者不足による廃業が増加傾向にあり、市内の民間活力が低下するおそれがある。立地企業でも、人口減少の影響で人材確保が課題となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
産業団地の売却額	5,596 万円/年	2 億円 (H27～H30 合計)	○ 順調 (H30 目標以上)
見本市等への出店を支援した事業者数	8 事業者/年	40 事業者/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-2-1 観光の振興]

取組

・地域資源や北陸新幹線の開業等の広域交通網をいかした誘客促進や、インバウンドの推進、市内の回遊性向上に市内の関連団体や交通事業者等と連携して取り組んだ。

現状

・冬期間にオーストラリアから妙高市へ訪れる外国人観光客を中心に、上越地区の外国人宿泊者数は増加している。
 ・当市の観光入込客数は減少傾向である。

課題

・毎年過去最高を更新する訪日外国人旅行者に対し、効果的な情報発信と当市への誘客を促進する。
 ・新水族博物館の開館や総合博物館のリニューアルに伴う観光客の市内周遊を促進する。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内への観光客入込数	5,687,400 人/年	7,500,000 人/年	△ 遅れ (H26 値未満)
市内宿泊施設の定員稼働率	32.4%	41.6%	△ 遅れ (H26 値未満)

[4-2-2 交流機会の拡大]

- 取組** ・北陸新幹線の開業により向上した交通アクセスをいかし、各種コンベンションやスポーツ合宿等の誘致に取り組んだ。
- 現状** ・(仮称) 上越市体操アリーナや県立武道館などの整備が進んでいる。東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地としてドイツ体操チームの招致が決定した。
- ・上越観光コンベンション協会によるコンベンションの誘致件数は増加傾向にある。
- 課題** ・各種競技団体との大会・合宿誘致時の連携促進や、当市の施設環境の優位性や魅力を東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿を契機に発信していく必要がある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
全国規模のスポーツ大会等の誘致件数	3 件/年	6 件/年	△ 遅れ (H26 値未満)
100 人以上の宿泊を伴うコンベンションの誘致件数	6 件/年	11 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-3-1 就労支援の充実]

- 取組** ・ハローワークや商工団体等の関係機関と連携し、若者やUIJターン者等の就労や資格取得の支援、ワークライフバランスの推進などに取り組んだ。
- 現状** ・求人が求職を上回り、有効求人倍率が1倍を超えて推移している。
- ・国を挙げて、働き方改革やワークライフバランスの一層の推進に向けた機運が高まっている。市内の女性の就業率も上昇傾向にある。
- 課題** ・将来にわたって労働力不足が懸念されており、生産工程の機械化・自動化のほか、外国人や女性等による新たな労働力の確保が急務である。若手社員の早期離職率も高い。
- ・労働力不足に起因する長時間労働により、仕事と家庭生活との両立が一層困難になる。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
有効求人倍率	0.86 倍	1.00 倍	○ 順調 (H30 目標以上)
高校新卒者の地元就職割合	78.6%	80%	△ 遅れ (H26 値未満)

(6) 農林水産分野

○目標

なりわいとしての農林水産業や農山漁村に活力があり、そこから生み出される多様な恵みを受けて豊かに暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[5-1-1 農業の振興]

取組

・圃場整備等による生産基盤の強化や、認定農業者や新規就農者の確保・育成、集落営農の組織化・法人化、園芸複合経営や6次産業化による所得向上の取組などを支援した。

現状

・農地の集積・集約化により生産コストが削減されるとともに、多様な用途別品種が作付され、幅広い実需に対応できる基盤が整ってきている。
 ・平成30年産からの米政策の見直しにより、主食用米の作付統制が効かなくなることから、米の過剰作付けが増加し、更なる米価の下落が想定される。

課題

・農業者の減少と高齢化が進み、担い手・後継者が不足している。
 ・農業者の園芸の導入や6次産業化が低い状態にあり、水稻単一経営からの脱却が遅れている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
新規就農者数	28 人/年	31 人/年	△ 遅れ (H26 値未満)
認定農業者等の担い手への農地集積率	59.7%	75%	△ 遅れ (H26 値以上)

[5-1-2 林業・水産業の振興]

取組

・国、県などと連携し、担い手の育成・確保や所得向上、林業・水産資源の維持に取り組んだ。

現状

・市内産木材の出荷量は増加傾向にある。
 ・漁業経営体当たりの平均漁獲量が近年増加している。

課題

・平成31年度に創設される森林環境税を財源とし、森林整備を推進する。
 ・漁業就労者の高齢化は全国平均を大きく上回っており、担い手の確保と所得向上が課題である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
森林組合等による市内産木材（間伐材含む。）の出荷量	1,450 m ³ /年	1,450 m ³ /年	○ 順調 (H30 目標以上)
1 漁業経営体当たりの平均漁獲量	3.4t/年	3.4t/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[5-2-1 中山間地域の振興]

- 取組** ・中山間地域の農林業を担う集落やマネジメント組織等の活動を支援したほか、地域の支え合い体制づくりや移住促進、里地里山の保全に取り組んだ。
- 現状** ・全国的に若い世代を中心に、都市部から中山間地域の農村へ移住しようとする「田園回帰」の意識の高まりが見られ、当市においても移住相談件数が増加している。
- 課題** ・不作付地の増加や労働力不足、後継者不足が生じている。また、地域の支え合い体制のせい弱化により集落活動の維持が困難になってきている。
 ・有害鳥獣による農作物被害の拡大による農地の荒廃が懸念される。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
移住希望者からの相談対応件数	67 件／年	70 件／年	○ 順調 (H30 目標以上)
中山間部に住んでいる市民の暮らしやすいと感じている割合	72.8%	75%	△ 遅れ (H26 値未満)

[5-2-2 農・食を通じた生きる力の向上]

- 取組** ・食育関連イベントの開催や地産地消推進の店の認定などによる食育活動の推進や、農業分野における障害のある人の就労機会の創出などに取り組んだ。
- 現状** ・学校給食での地場産野菜の使用率が増加しているとともに、農産物直売所の販売額も伸びている。
- 課題** ・食育の認知度は増加しているものの、関心を持つ市民の割合は高まっていない。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
食育に関心を持っている市民の割合	77.0%	90%	△ 遅れ (H26 値未満)
地産地消推進の店の認定数	111 店	150 店	○ 順調 (H30 目標以上)

(7) 教育・文化分野

○目標

学び高め合う環境が整い、まちの歴史・文化が誇らしく感じられ、心豊かに暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[6-1-1 「知・徳・体」を育む学校教育の推進]

- 取組**
- ・授業改善や指導力向上等による基礎学力の向上の取組に加え、上越カリキュラムの実践や、キャリア教育、ICT教育などによる特色ある学校教育を推進した。
- 現状**
- ・全国標準学力テストの偏差値は、小学校が平均程度、中学校では全国平均を上回っている。
 - ・上越カリキュラムによる学校教育が定着し、特色ある学校運営が実施されている。
- 課題**
- ・小学校低学年の学びに向かう力の向上や、中学生の学力向上、家庭学習の定着が課題である。
 - ・就学相談件数が増加しており、障害等の特性に応じ地域の学校で学べる環境づくりが必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
児童・生徒の全国標準学力テストの偏差値	全学年・全教科で全国平均と同程度または上回る。	全学年・全教科で全国平均と同程度または上回る。	○ 順調 (H30 目標以上)
授業がよく分かる児童・生徒の割合	-	小学生 85% 中学生 80%	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-1-2 学校教育環境の整備]

- 取組**
- ・保護者の経済的負担の軽減等による子どもの学びの保証や、特別な支援を要する子どもや不登校、いじめ問題への対応を図るとともに、学校の適正配置・整備を進めた。
 - ・学校・家庭・地域が連携し、コミュニティ・スクールや地域青少年育成会議等の活動を充実するなど地域ぐるみの教育を推進した。
- 現状**
- ・少子化に伴い、児童・生徒数の減少や複式学級が増加している。
 - ・コミュニティ・スクールや地域青少年育成会議等の活動が着実に定着し、学校・家庭・地域が互いに支え合う関係が構築されてきている。
- 課題**
- ・複式学級が常態化する学校や、中学校の生徒数の減少が加速する中で、地域や保護者の意見を踏まえた適正配置が必要である。
 - ・児童生徒の問題行動や家庭問題が複雑化・多様化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
不登校の児童・生徒数	小学生 19 人／年 中学生 130 人／年	小学生 10 人／年以下 中学生 100 人／年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
地域青少年育成会議事業等への地域住民の参加者数	68,170 人／年	70,000 人／年	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-2-1 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進]

- 取組** ・教育機関等と連携し、地域資源・人材を活用した多様な学習環境の提供や、公民館活動を通じた地域活動を担う人づくり、図書館活動の推進に取り組んだ。
- 現状** ・社会の情報化や多様化により、市民の学習の興味・関心も多様なものになっている。
- 課題** ・時代の変化や市民の学習ニーズに対応した学習機会の提供や、地域の実情に応じた学習活動が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
生涯学習団体の登録数	420 団体	450 団体	△ 遅れ (H26 値未満)
高田図書館、直江津図書館、分館・分室の本の貸出利用者数	210,670 人／年	213,000 人／年	△ 遅れ (H26 値未満)

[6-2-2 スポーツ活動の推進]

- 取組** ・市民が気軽に参加できる教室や大会の開催、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体への支援などのほか、指導員養成等によるスポーツ競技力の向上に取り組んだ。
- 現状** ・東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致や、(仮称)上越市体操アリーナや県立武道館の整備などにより、スポーツ、体力・健康づくりへの関心が高まっている。
- 課題** ・子どもから高齢者までのライフステージに応じたスポーツ活動の推進とともに、人口減少や競技種目の多様化により変化する競技人口やニーズへの対応が必要である。
- ・ジュニア層の選手発掘や育成強化が求められている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内の総合型地域スポーツクラブ、体育協会に属する会員数	25,440 人	26,200 人	△ 遅れ (H26 値未満)
中高校生の北信越大会と小中高校生の全国大会の出場者数	273 人／年	275 人／年	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-2-3 文化活動の振興]

取組

・歴史・文化的資源の保存と活用のほか、博物館や美術館、文化会館などの教育文化施設の環境を整え、文化・芸術に触れる多様な機会の提供と活動の振興に取り組んだ。

現状

・民間による歴史的建造物（旧頸城鉄道本社社屋、岩の原葡萄園石蔵、麻屋高野瞽女資料館など）をいかしたまちづくりや、市民主体の偉人の顕彰事業が進められている。

課題

・少子高齢化により、文化芸術活動や文化財等の保存・継承活動を担う人の高齢化や後継者不足が課題となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市指定文化財の件数	314 件	314 件	○ 順調 (H30 目標以上)
上越市美術展覧会の出品者数	339 人／年	370 人／年	△ 遅れ (H26 値未満)

(8) 都市基盤分野

○目標

暮らしと産業を支える機能的・安定的な都市基盤が整い、魅力的な空間の中で快適に暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[7-1-1 インフラ整備の最適化]

- 取組** ・公共施設の損傷が深刻化する前に修繕する予防保全的な維持管理（長寿命化）を推進したほか、各種インフラの整備計画に基づく効率的・効果的な整備に取り組んだ。
- 現状** ・市道整備は、道路整備計画に基づき順調に進んでいる。
- 課題** ・将来の人口減少や少子高齢化による需要変化をしっかりと予測し、公営住宅や都市計画道路の整備を進める必要がある。
・老朽化が進み損傷が著しい橋梁も多くなっており、修繕費が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市道橋の予防保全型の修繕工事の完了数	15 橋	70 橋	△ 遅れ (H26 値以上)
安全に歩行できる市道の延長	276.7km	286.7km	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-1-2 機能的・効率的な交通ネットワークの確立]

- 取組** ・地域住民や関係事業者との協力により、地域の実態に応じた路線バスの運行の見直しや路線の整理、バスと鉄道の接続性の向上などを進めたほか、広域交通網との連結強化や、冬期間の除雪体制の維持等による交通網の確保に取り組んだ。
- 現状** ・バスは路線の再編・効率化により、路線短縮や減便となった。
・上信越道 4 車線化事業は、H30 年度の完了を目標に工事が進捗している。
・上越魚沼地域振興快速道路（上越三和道路）は順調に工事が進捗しており、国に対して長期的かつ安定的な整備促進を要望している。
- 課題** ・免許返納者数の増加もあり、移動手段としての公共交通の役割が高まっている。
・鉄道事業者は厳しい経営状況にあり、利便性の向上や交流人口の拡大による利用者の増加が課題となっている。
・市街地でも高齢化が進み、自助・共助による除雪の持続が困難になりつつある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
路線バス・乗合タクシー・スクールバス混乗の利用者数	1,737 千人／年	1,584 千人／年	△ 遅れ (H26 値未満)
上越魚沼地域振興快速道路（上越三和道路）の整備	寺 I C～鶴町 I C間の工事中	寺 I C～鶴町 I C間の供用開始	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-2-1 土地利用政策の推進]

- 取組** ・生活の快適さと自然環境の豊かさを確保するため立地適正化計画を策定し、土地利用の適正な規制や誘導、計画的な市街地の整備とサービス機能の維持・集積に取り組んだ。
- 現状** ・市街化区域内の未利用地面積は着実に減少している。
 ・上越妙高駅周辺の商業地域の用途が概ね決まり、開発が本格化してきている。
 ・中心市街地の歩行者・交通量が近年増加し始めている。
- 課題** ・高田のまちなかは、空き家・空き地・駐車場が約2割を占めており、立地適正化計画等に基づき、まちなかの空洞化への対応や魅力向上が課題である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市街化区域の未利用地面積	44.9ha	40.3ha 以下	○ 順調 (H30 目標以上)
農業振興地域内の農用地の面積	18,267ha	18,267ha	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-2-2 地域の個性をいかした空間形成]

- 取組** ・景観に対するアドバイスやセミナー開催による景観形成の推進や、高田公園の桜等の整備、利用しやすい公園づくりなどにより、自然と調和した都市空間の形成を図った。
- 現状** ・景観形成に意欲的に取り組む地域や、公園管理に取り組むボランティア団体の登録者数が増加するなど、市民意識が高まっている。
 ・新潟県で初となる「全国さくらシンポジウム」を開催し、高田公園の桜を始め、13 区の桜名所や取組事例なども全国に発信した。
- 課題** ・景観形成に熱心に取り組む地域や市民団体がある一方で、地域によって温度差があるとともに、活動をする人の高齢化が進んでいる。
 ・公園は、公園施設の充実度合いにより利用者の多い・少ないが顕著に表われている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
景観の行為の届出について基準に適合しない件数	0 件/年	0 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)
高田公園の桜の健全化(植替え・樹勢回復手当て)	桜の老朽化が目立つ状態	公園の中心的エリアの桜の健全化の完了	○ 順調 (H30 目標以上)

平成30年「市民の声アンケート」報告書（概要）

1 調査の概要

■目的

市民生活の実態や実感、市の各政策分野の取組に対する満足度・重要度を定量的に把握するとともに、平成22年及び26年に実施した市民の声アンケートの調査結果との比較・分析などを行い、第6次総合計画の後期基本計画の策定及び各施策・事業の推進につなげるもの

■調査方法等

	今回調査	前回調査
調査地域	上越市全域	
調査対象	満18歳以上の市民5,000人	
調査方法	郵送による配布・回収	
調査期間	平成30年1月20日～31日	平成26年1月10日～20日
回収数	2,168	2,336
有効回答率	43.36%	46.72%

2 調査結果

■生活実態・実感

現在の生活実態や生活実感について、うかがいました。

実感の高い項目

順位	項目	実感している人の割合
1	自然が豊かである	90.4%
2	治安がよい	88.6%
3	海や山の幸に囲まれ、食や海産物が豊富である	84.8%

前回調査との比較

順位	項目	実感の変化
1	現在住んでいる住宅の広さや機能に満足している	+5.4
2	自然が豊かである	+4.3
3	学校や図書館などの教育施設が整っている	+4.2

■市の取組に対する満足度と重要度

市が行っている主な取組について、現在どれくらい満足しているか（満足度）、今後どれくらい重要であるか（重要度）をうかがいました。

満足度上位3・下位3

順位	項目	平均スコア
1	水道水の供給	0.80
2	生活排水の処理対策	0.58
3	ごみ減量とリサイクル	0.44
	⋮	
59	商業の振興	-0.37
60	公共交通の利便性向上	-0.46
61	上越妙高駅の周辺整備	-0.49

前回調査との満足度の比較

順位	項目	平均スコアの増減
1	新産業の創出支援	0.08
2	再生可能エネルギー	0.05
3	中小企業支援	0.05
	⋮	
53	公共交通の利便性向上	-0.11
54	直江津港の利用促進	-0.11
55	上越妙高駅の周辺整備	-0.26

重要度上位3・下位3

順位	項目	平均スコア
1	防災対策	1.45
2	雪対策	1.37
3	医療体制の充実	1.28
	⋮	
59	芸術、文化活動の推進	0.50
60	スポーツ・レクの振興	0.50
61	国際的な文化交流の推進	0.43

前回調査との重要度の比較

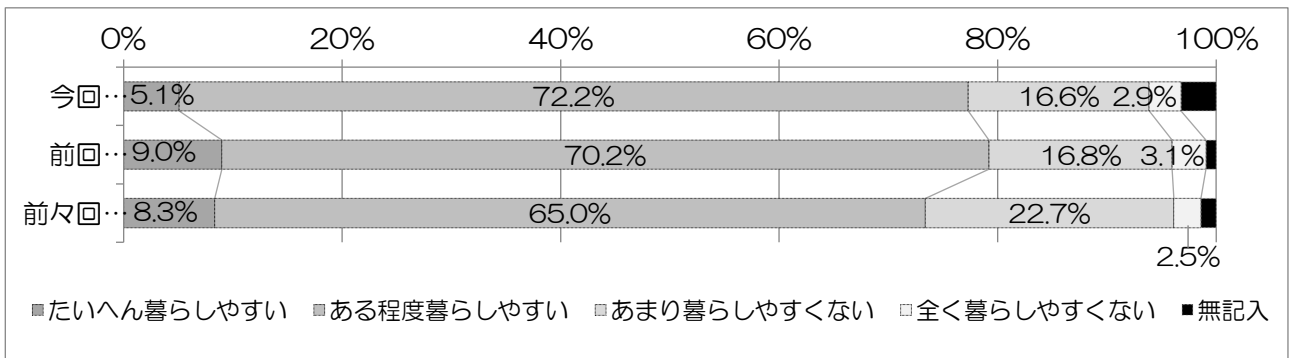
順位	項目	平均スコアの増減
1	上越妙高駅の周辺整備	0.09
2	公共交通の利便性向上	0.09
3	生涯学習の推進	0.09
	⋮	
53	公害対策	-0.10
54	環境啓発活動	-0.12
55	再生可能エネルギー	-0.13

※「平均スコア」の算出方法…「満足している」+2、「やや満足している」に+1、「どちらともいえない」に0、「やや不満である」に-1、「不満である」に-2とし、その平均点について小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示しています。重要度の平均スコアも同様に算出しています。

なお、今回調査で新設した設問及び内容を一部変更した設問は比較から除いています。

■暮らしやすさ

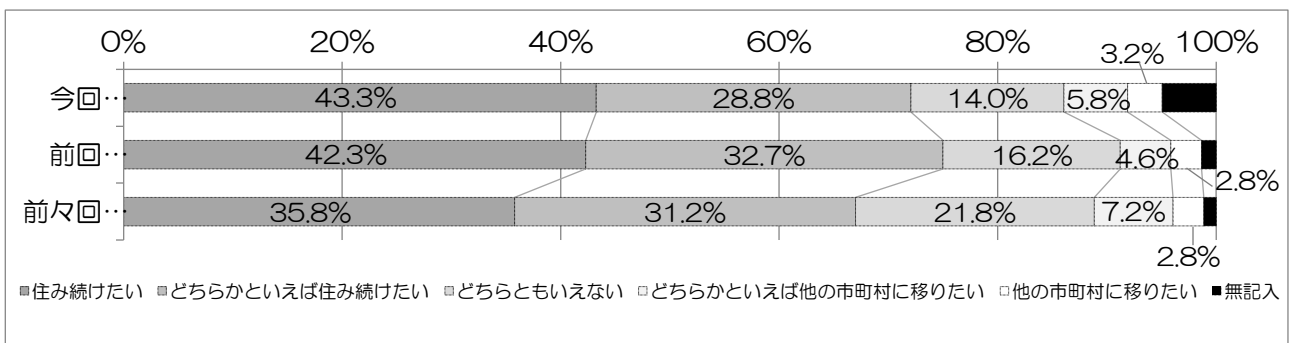
現在の生活を暮らしやすいと感じている市民は約8割（77.3%）



「たいへん暮らしやすい」「ある程度暮らしやすい」を合わせて約8割（77.3%）の市民が暮らしやすいと思っている。前回調査から「たいへん暮らしやすい」が減少し、「ある程度暮らしやすい」が増加した。

■上越市に住み続ける意向

上越市に住み続けたいと思っている市民の割合は7割以上（72.1%）



「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」を合わせて7割以上（72.1%）の市民が住み続けたいと思っている。前回調査（75.0%）と比べ、減少したものの、「住み続けたい」と思っている市民は調査ごとに増加している。

平成30年5月23日
第1回総合計画審議会
資料No.5-2

平成 30 年

上越市

市民の声アンケート

報告書

平成 30 年 5 月

上越市

目次

1 調査の全体概要	2
1-1 調査目的.....	3
1-2 調査方法.....	3
1-3 回収結果.....	3
1-4 利用にあたって.....	4
2 調査結果	10
2-1 【問1】生活実態・実感.....	11
2-2 【問2(1)～(61)】市の取組に対する満足度・重要度.....	18
2-3 【問2(62)】上越市自治基本条例に対する認知度.....	35
2-4 【問2(63)】地域自治区制度に対する認知度・期待度.....	36
2-5 【問2(64)】地域協議会に対する認知度.....	38
2-6 【問3(1)】暮らしやすさ.....	39
2-7 【問3(2)】上越市に住み続ける意向.....	41
2-8 【問3(3)①】住み続けたい地域.....	43
2-9 【問3(3)②】住み続けたい地域を選んだ理由.....	44
2-10【問3(3)③】住みたい居住の形態.....	45
2-11【問4】地域活動や市民活動への参加.....	45
2-12【問5】上越市の魅力.....	47
2-13【問6】今後の市政やまちづくりについての意見.....	51
3 集計表	66
3-1 回答者属性.....	67
3-2 クロス集計表(性別・年齢・家族構成・地域区分).....	70
3-3 地域の福祉.....	102
4 附属資料(アンケート調査票)	105

1 調査の全体概要

1-1 調査目的

市民生活の実態や実感、市の各政策分野の取組に対する満足度・重要度を定量的に把握するとともに、平成 22 年及び 26 年に実施した市民の声アンケートの調査結果との比較・分析などを行い、第 6 次総合計画の後期基本計画の策定及び各施策・事業の推進につなげるもの

1-2 調査方法

(1) 調査地域

上越市全域

(2) 調査対象

上越市内に在住する満 18 歳以上の男女 5,000 人

(3) 抽出方法

平成 29 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳から 28 の地域自治区ごとに年齢階層別の人口割合に応じて無作為に抽出

(4) 調査方法

郵送による配布・回収

(5) 調査期間

平成 30 年 1 月 20 日～31 日

1-3 回収結果

(1) 発送数

5,000

(2) 回収数

2,168

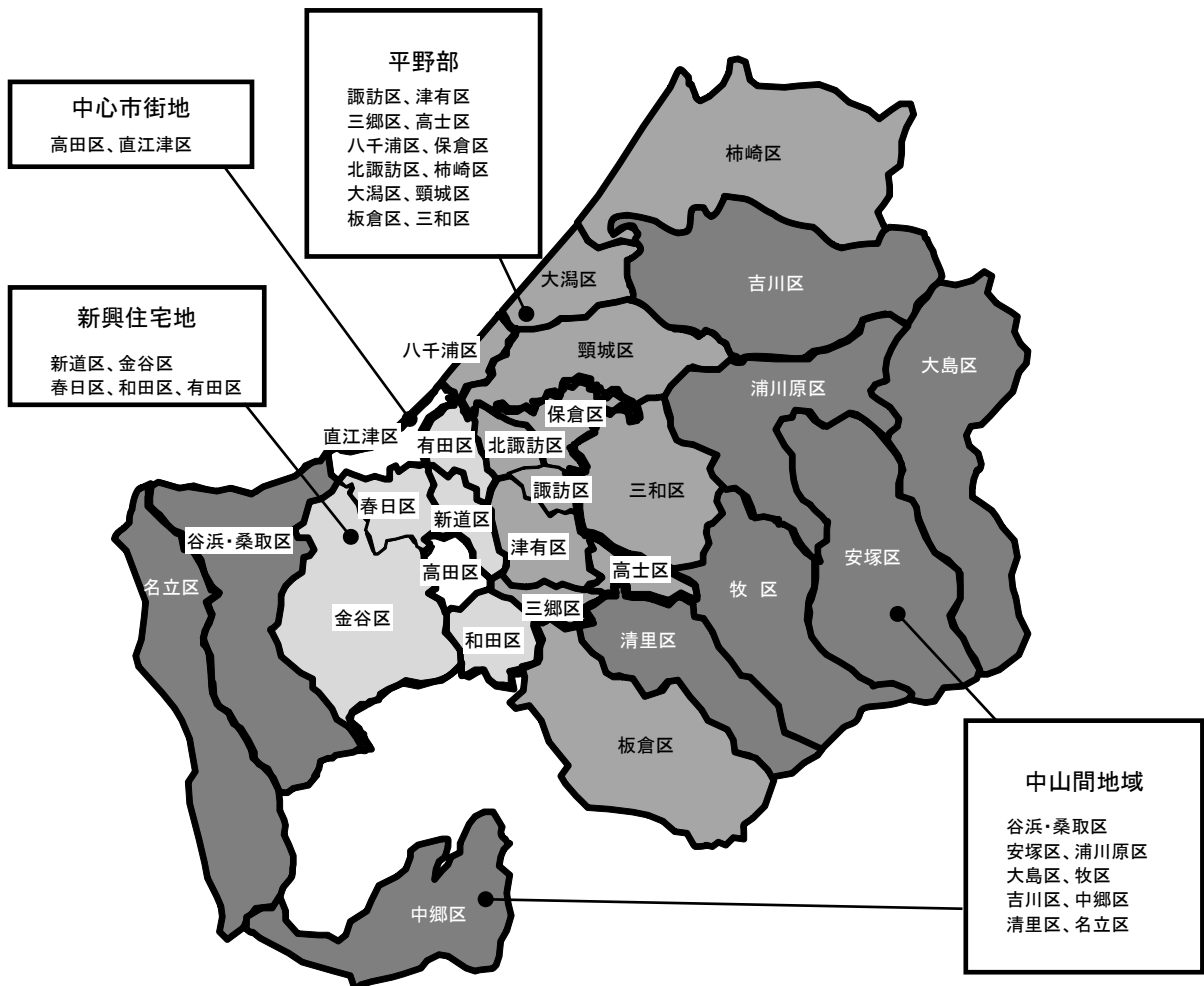
(3) 有効回答率

43.36%

(2) 地域区分

居住地域ごとの回答の差異を分析するため、地勢的特徴に応じ、お住まいの地域自治区を「中心市街地」「新興住宅地」「平野部」「中山間地域」の4つの地域区分に集約した。

お住まいの地域自治区		⇒	地域区分	
高田区	直江津区			中心市街地
新道区	金谷区	⇒	新興住宅地	
春日区	和田区			
有田区	—			
諏訪区	津有区	⇒	平野部	
三郷区	高士区			
八千浦区	保倉区	⇒		
北諏訪区	柿崎区			
大潟区	頸城区			
板倉区	三和区			
谷浜・桑取区	安塚区	⇒	中山間地域	
浦川原区	大島区			
牧区	吉川区			
中郷区	清里区			
名立区	—			



(3) 調査項目の省略表示

調査票では、上越市が現在行っている主な取組を6分野、61項目取り上げた。本報告書では、これらの調査項目を次のように省略し、表示している。

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
生活環境	(1)	火災、水害、地震などへの防災対策	⇒	防災対策
	(2)	防犯灯の設置など、防犯対策	⇒	防犯対策
	(3)	交通安全対策	⇒	交通安全対策
	(4)	大気や水質・騒音などの公害対策	⇒	公害対策
	(5)	二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策	⇒	地球温暖化対策
	(6)	ごみの減量化とリサイクルの促進	⇒	ごみ減量とリサイクル
	(7)	産業廃棄物の処理対策	⇒	産廃の処理対策
	(8)	太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの普及	⇒	再生可能エネルギー
	(9)	自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	⇒	環境啓発活動
健康福祉	(10)	地域福祉を支える市民ボランティア活動への支援	⇒	福祉ボランティア
	(11)	障害のある人、高齢者などが安全・安心に生活できるバリアフリーの環境づくり	⇒	バリアフリー
	(12)	障害のある人の自立・社会参加の支援	⇒	障害のある人の自立・社会参加
	(13)	高齢者の介護サービスの充実	⇒	介護サービス
	(14)	レクリエーションなど、高齢者への生きがいづくりの支援	⇒	高齢者の生きがい支援
	(15)	医療費助成や育児相談など、子育て支援	⇒	子育て支援
	(16)	保育園の時間の延長や保育料の見直しなど、保育サービスの充実	⇒	保育サービスの充実
	(17)	妊娠、出産後の支援など、母子健康活動の推進	⇒	母子健康活動の推進
	(18)	健康意識の向上と健康づくり活動の支援	⇒	健康づくり
	(19)	こころの健康相談など、心の健康サポート	⇒	こころの健康サポート
	(20)	救急、休日、夜間の医療体制の充実	⇒	医療体制の充実
	(21)	生活の困窮や複雑な家庭環境などにより、自分や家族では解決困難な複合的な課題を抱える世帯への支援	⇒	課題を抱える世帯への支援

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
産業・経済	(22)	平場地域の農業の振興	⇒	平場地域の農業振興
	(23)	中山間地域の農業の振興	⇒	中山間地域の農業振興
	(24)	ほ場や農道など農村地域の基盤整備	⇒	農村地域の基盤整備
	(25)	森林・林野の整備	⇒	森林・林野の整備
	(26)	水産業の振興	⇒	水産業の振興
	(27)	中小企業への支援	⇒	中小企業支援
	(28)	既存商店街の基盤整備や魅力づくりなど、商業の振興	⇒	商業の振興
	(29)	地場産業の育成や技術開発支援など、工業の振興	⇒	工業の振興
	(30)	企業団地の整備や支援制度の充実などによる企業誘致の促進	⇒	企業誘致の促進
	(31)	市民、事業者との連携による観光の振興	⇒	観光の振興
	(32)	全国的な会議や集会、スポーツ大会などを通じた来訪者の増加と交流の促進	⇒	交流の促進
	(33)	新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援	⇒	新産業の創出支援
	(34)	職業能力の開発やワークライフバランス（仕事と生活の調和）の促進など就業支援	⇒	就業支援
	(35)	農山村での宿泊体験事業など、地域資源を活用した「地域おこし」の促進	⇒	「地域おこし」の促進
	教育・文化・スポーツ	(36)	幼稚園、小・中学校の施設の整備	⇒
(37)		小・中学校教育の充実	⇒	小・中学校教育の充実
(38)		趣味、教養を高める生涯学習の推進	⇒	生涯学習の推進
(39)		青少年の健全育成のための体制充実	⇒	青少年の健全育成
(40)		歴史的遺産の保護と活用	⇒	歴史的遺産の保護と活用
(41)		芸術、文化活動の推進	⇒	芸術、文化活動の推進
(42)		国際的な文化交流の推進	⇒	国際的な文化交流の推進
(43)		スポーツ・レクリエーションの振興	⇒	スポーツ・レクの振興

分野	調査票に表記した調査項目		⇒	本報告書に表記した調査項目
都市整備・生活基盤	(44)	通学路をはじめとする身近な生活道路の整備	⇒	身近な生活道路の整備
	(45)	主要幹線道路の整備	⇒	主要幹線道路の整備
	(46)	鉄道やバスなどの利便性向上	⇒	公共交通の利便性向上
	(47)	除雪、克雪などの雪対策	⇒	雪対策
	(48)	災害に強い河川、海岸線の整備	⇒	災害に強い河川、海岸線
	(49)	水道水の供給	⇒	水道水の供給
	(50)	下水道など、生活排水の処理対策	⇒	生活排水の処理対策
	(51)	区画整理事業などによる市街地の形成	⇒	市街地の形成
	(52)	公営住宅整備や持ち家支援など、居住空間の確保	⇒	居住空間の確保
	(53)	上越妙高駅の利便性を高める周辺整備	⇒	上越妙高駅の周辺整備
	(54)	直江津港の利用促進	⇒	直江津港の利用促進
	(55)	市民の憩いの場としての公園・緑地の整備	⇒	公園・緑地の整備
	(56)	美しい街並みや景観の形成	⇒	美しい街並みや景観の形成
行財政・市民参画	(57)	行政改革による効率的・効果的な市政運営	⇒	効率的・効果的な市政運営
	(58)	財源確保や適切な支出による健全な財政運営	⇒	健全な財政運営
	(59)	男女共同参画社会の実現	⇒	男女共同参画社会の実現
	(60)	各種委員会への公募市民の登用やパブリックコメント（市民意見公募手続）など、市民参画のまちづくり	⇒	市民参画のまちづくり
	(61)	まちづくり団体など、地域コミュニティ活動への支援	⇒	地域コミュニティ活動支援

(4) 過去の調査との比較

経年変化の比較対象となる、前回（平成 26 年）と前々回（平成 22 年）に実施した「市民の声アンケート」結果の概要は、次のとおりである。

	今回調査	前回調査	前々回調査
調査地域	上越市全域		
調査対象	満 18 歳以上の市民 5,000 人		満 20 歳以上の市民 5,000 人
調査方法	郵送による配布・回収		
調査期間	平成 30 年 1 月 20 日～31 日	平成 26 年 1 月 10 日～20 日	平成 22 年 1 月 9 日～18 日
回収数	2,168	2,336	2,554
有効回答率	43.36%	46.72%	51.08%

【比較を行った設問一覧】

今回調査	前回調査	前々回調査
【問 1】生活実態・実感	○	○
【問 2 (1) ～ (61)】市の取組に対する満足度・重要度	○	○
【問 2 (62)】上越市自治基本条例に対する認知度	○	—
【問 2 (63)】地域自治区制度に対する認知度・期待度	○	○
【問 3 (1)】暮らしやすさ	○	○
【問 3 (2)】上越市に住み続ける意向	○	○
【問 4】市民活動や地域活動への参加	○	○

2 調査結果

2-1 【問1】 生活実態・実感

現在の生活実感・生活実態（27項目）について、うかがった。

実感の高い項目^{※1}：「自然が豊かである」

「治安がよい」

「海の幸や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である」

実感の低い項目^{※2}：「観光PRが盛んで、観光客が多い」

「娯楽やレジャー施設が整っている」

「市民の声を生かしたまちづくりがすすめられている」

前回から上昇率の高い項目^{※3}：「現在住んでいる住宅の広さや機能に満足している」

「自然が豊かである」

「学校や図書館などの教育施設が整っている」

前回から低下率の高い項目^{※4}：「災害が少ない」

「老後も安心して生活ができる」

「買い物が便利である」

※1：「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計

※2：「あまり感じない」、「全く感じない」の合計

※3：平成30年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計と、平成26年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計の差で、上昇が大きいものの

※4：平成30年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計と、平成26年調査結果の「そう感じる」、「ある程度感じる」の合計の差で、低下が大きいものの

各項目の集計結果は次ページのとおり。

図表中のグラフと凡例の表示の並び順は一致しています。

※以下、全てのページにおけるグラフと凡例の表示で共通

実感の高い項目、意見の多い項目に関連する市民の声

市の魅力についての自由記述意見より抜粋。（詳細は P47～）

【(2) 治安がよい】

- ・ 犯罪が少ない
- ・ 静かで平和 など



児童の登下校の見守り

【(3) 自然が豊かである】

- ・ 海や山が近くにある
- ・ 桜や蓮が美しい
- ・ 四季の変化に富む自然の豊かさ など



高田公園の桜

【(8) 海や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である】

- ・ 米・山菜・魚・水・酒が美味しい
- ・ 米や海産物を他県の人に贈るととても喜ばれる など



春の米山

【(23) 人々の人情が厚い】

- ・ 困っているとき、苦しいとき、力を貸してくれる
- ・ 除雪の時に、近所の人々が助けてくれる
- ・ 近所の厚意に恵まれている など



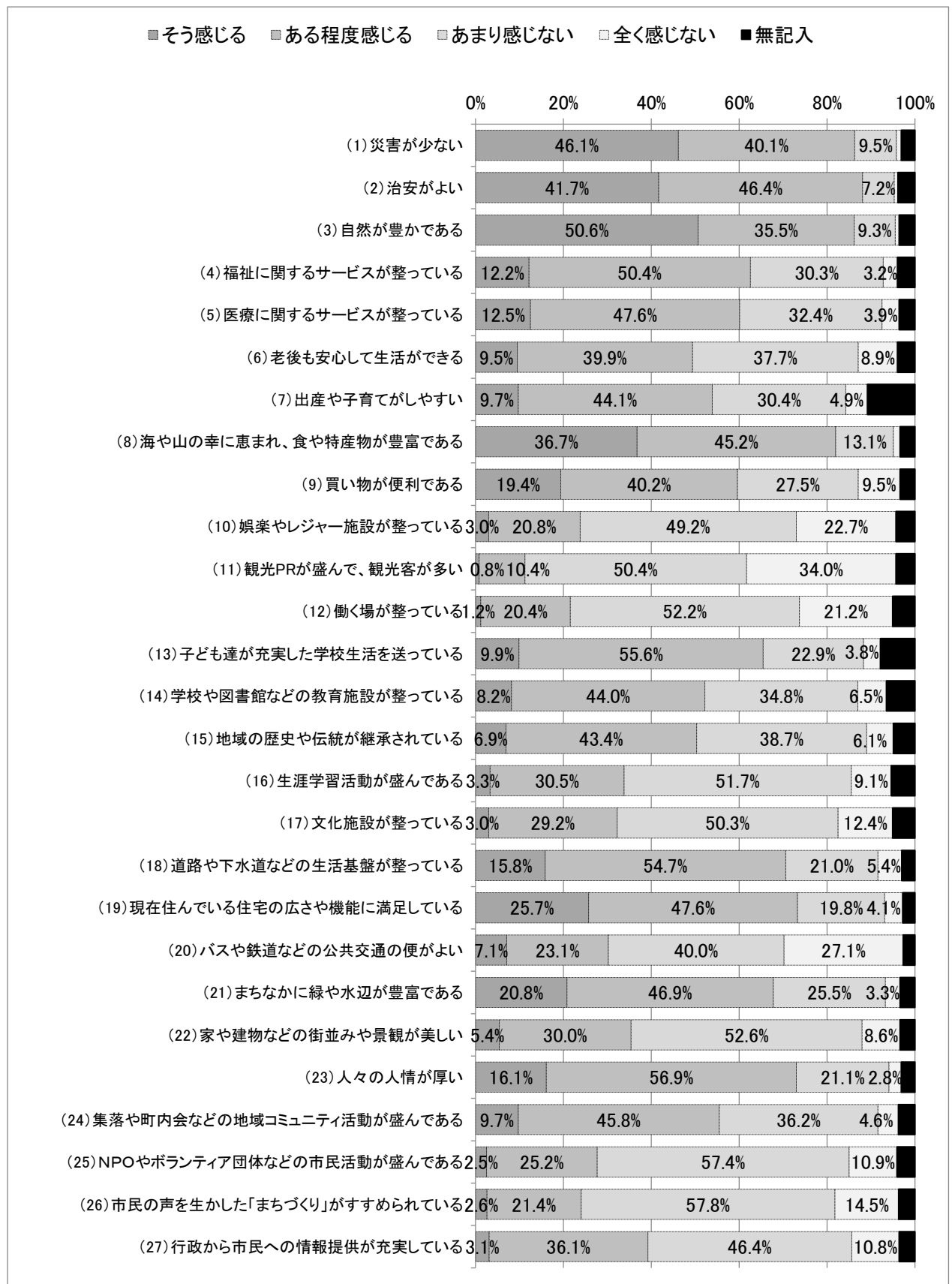
夕日の沈む日本海



メイド・イン上越（特産品）

【参考】

前回調査(H26)結果

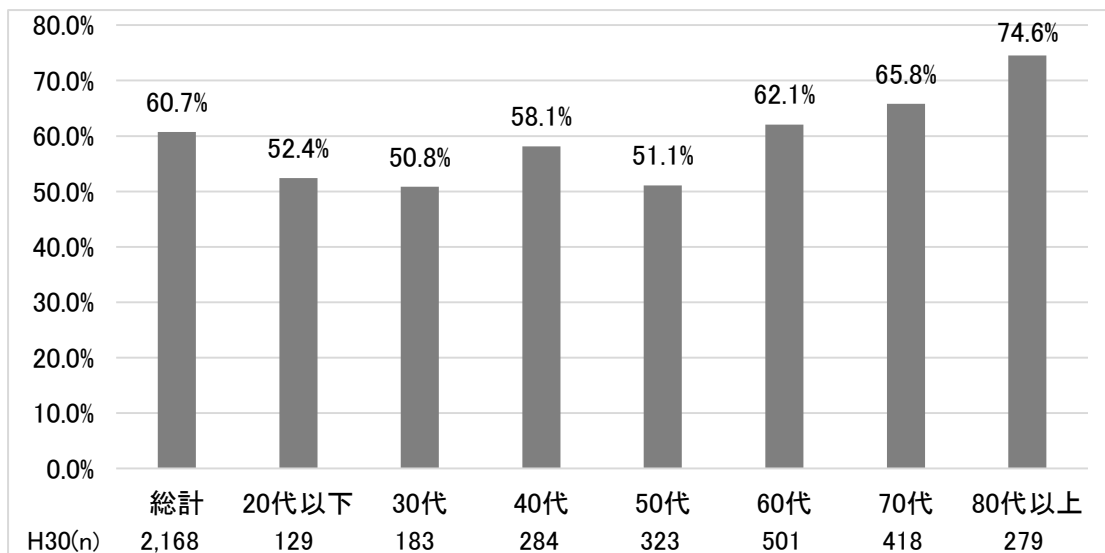


クロス集計【年代や地域で回答に差異があった主なもの】

「(5) 医療に関するサービスが整っている」と感じている市民の割合

※「そう感じる」「ある程度感じる」の合計。以下同様。

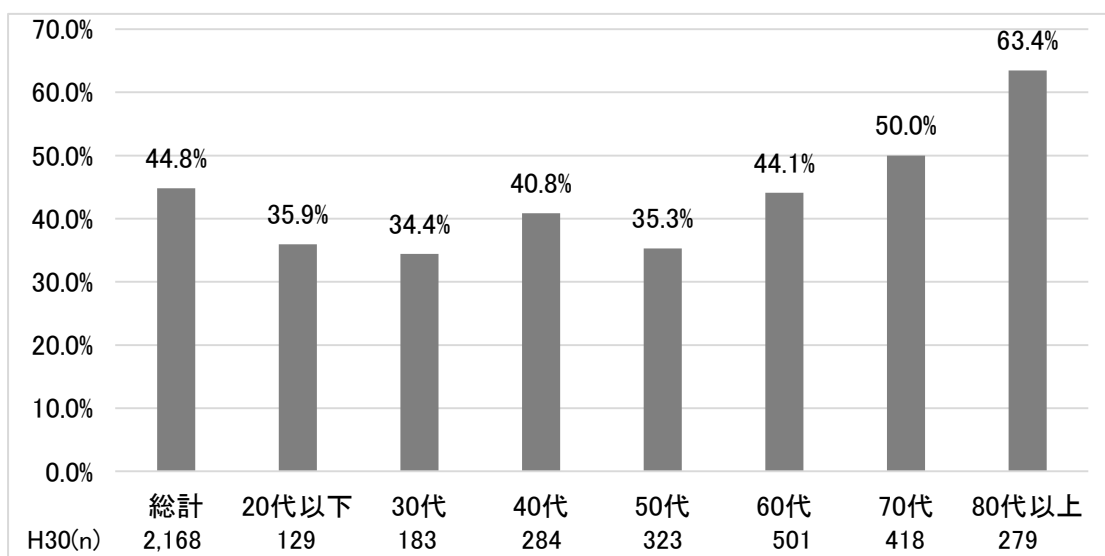
年代別



20代以下、30代、50代で低く、60代以上で高くなっている。

「(6) 老後も安心して生活できる」と感じている市民の割合

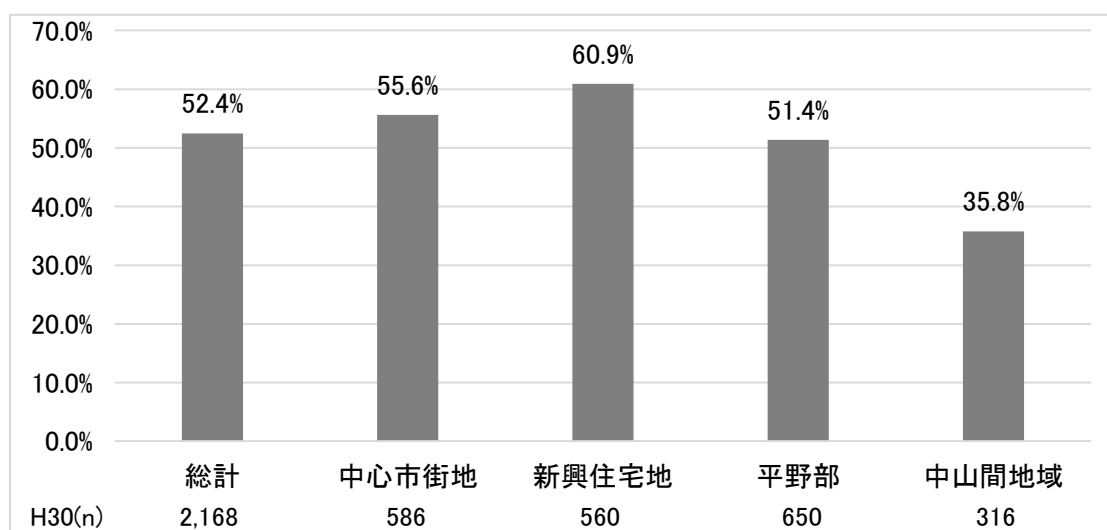
年代別



20代以下から50代までで低く、60代以上で高くなっている。

「(7) 出産や子育てがしやすい」と感じている市民の割合

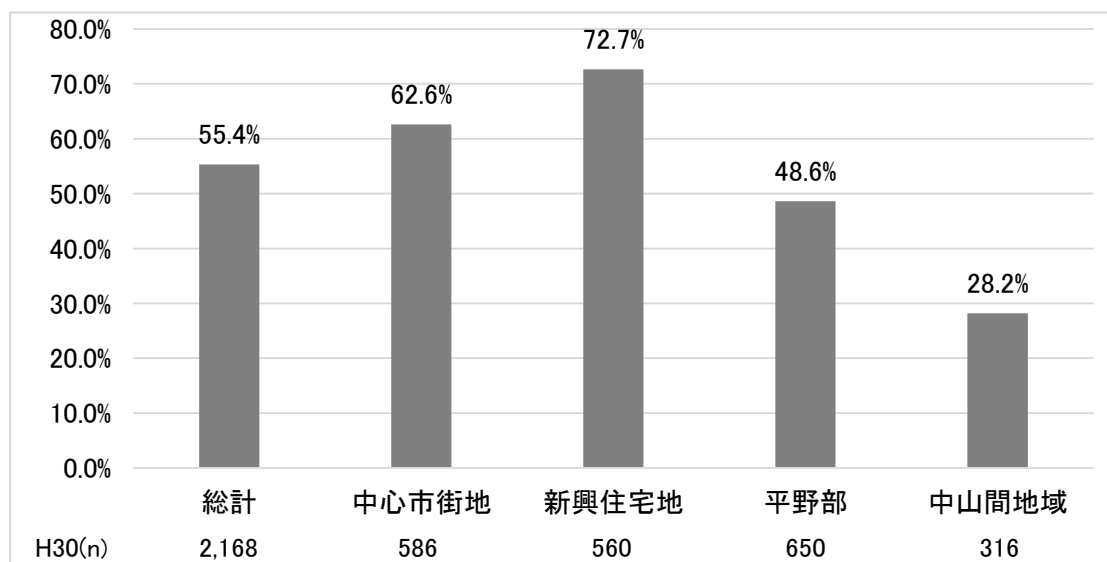
居住地域別



新興住宅地では高いが、中山間地域では低くなっている。

「(9) 買い物が便利である」と感じている市民の割合

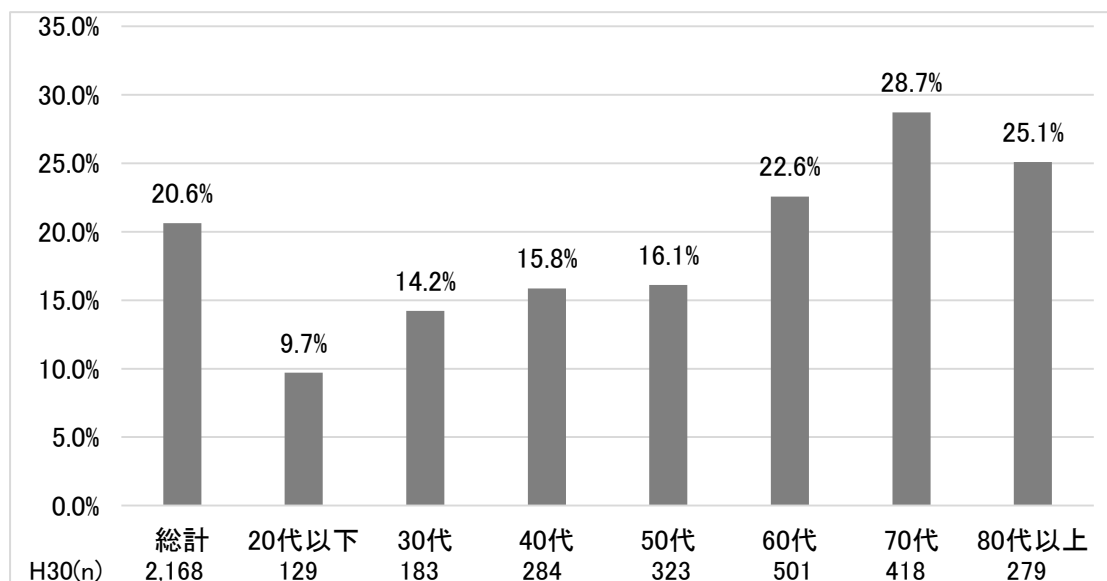
居住地域別



中山間地域での数値の低さが顕著である。

「(10) 娯楽やレジャー施設が整っている」と感じている市民の割合

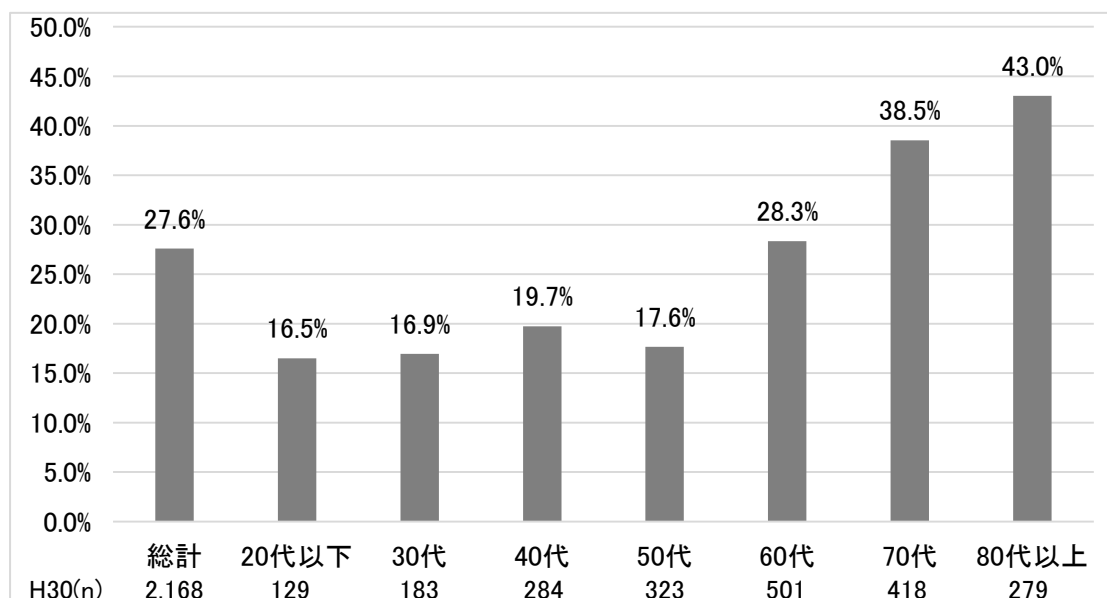
年代別



20代以下から50代までで低く、60代以上で高い。

「(20) バスや鉄道などの公共交通の便がよい」と感じている市民の割合

年代別



20代以下から50代までで低く、60代以上で高い。

2-2 【問 2 (1)~(61)】市の取組に対する満足度・重要度

市が行っている取組について、現在の満足度と今後の重要度をうかがった。

【取組項目の設定】

前回調査との経年比較をするため、前回調査時の取組項目を継続しつつ、必要な項目を追加し、61項目を設定した。

分野	項目	現在の満足度					今後の重要度				
		満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	たいへん重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
【記入例】		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
生活環境	(1) 火災、水害、地震などへの防災対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(2) 防犯灯の設置など、防犯対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(3) 交通安全対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	(4) 大気や水質・騒音などの公害対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

【比較の方法】

満足度と重要度の評価を点数化した「平均スコア」*により各項目の比較を行った。

61項目全体の平均スコアは、満足度が0.01、重要度が0.86であり、前回調査の全体の平均スコア（満足度0.04、重要度0.86）と比べ、満足度が低下し、重要度は変わらなかった。

※「平均スコア」の算出方法

- ・満足度の平均スコアは、「満足している」に+2、「やや満足している」に+1、「どちらともいえない」に0、「やや不満である」に-1、「不満である」に-2をそれぞれの回答数にかけ合わせ、その平均点について、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを表示している。
- ・重要度の平均スコアも満足度と同様に、「たいへん重要である」に+2、「ある程度重要である」に+1、「どちらともいえない」に0、「あまり重要ではない」に-1、「重要ではない」に-2をかけ合わせ、算出している。
- ・無回答の数は計算から除外している。
- ・項目ごとの平均スコアの順位を比較する際は、小数点以下第3位を四捨五入せずに算出している。

2-2-1 現在の満足度

■今回調査における上位、下位の項目

上位3項目

順位	項目	平均スコア
①	(49)水道水の供給	0.80
②	(50)生活排水の処理対策	0.58
③	(6)ごみ減量とリサイクル	0.44

下位3項目

順位	項目	平均スコア
①	(53)上越妙高駅の周辺整備	▲ 0.49
②	(46)公共交通の利便性向上	▲ 0.46
③	(28)商業の振興	▲ 0.37

上位3項目は前回調査と同じであった。
都市基盤分野の一部項目と産業・経済分野が低い。

■前回調査と比較して、上昇、低下した項目

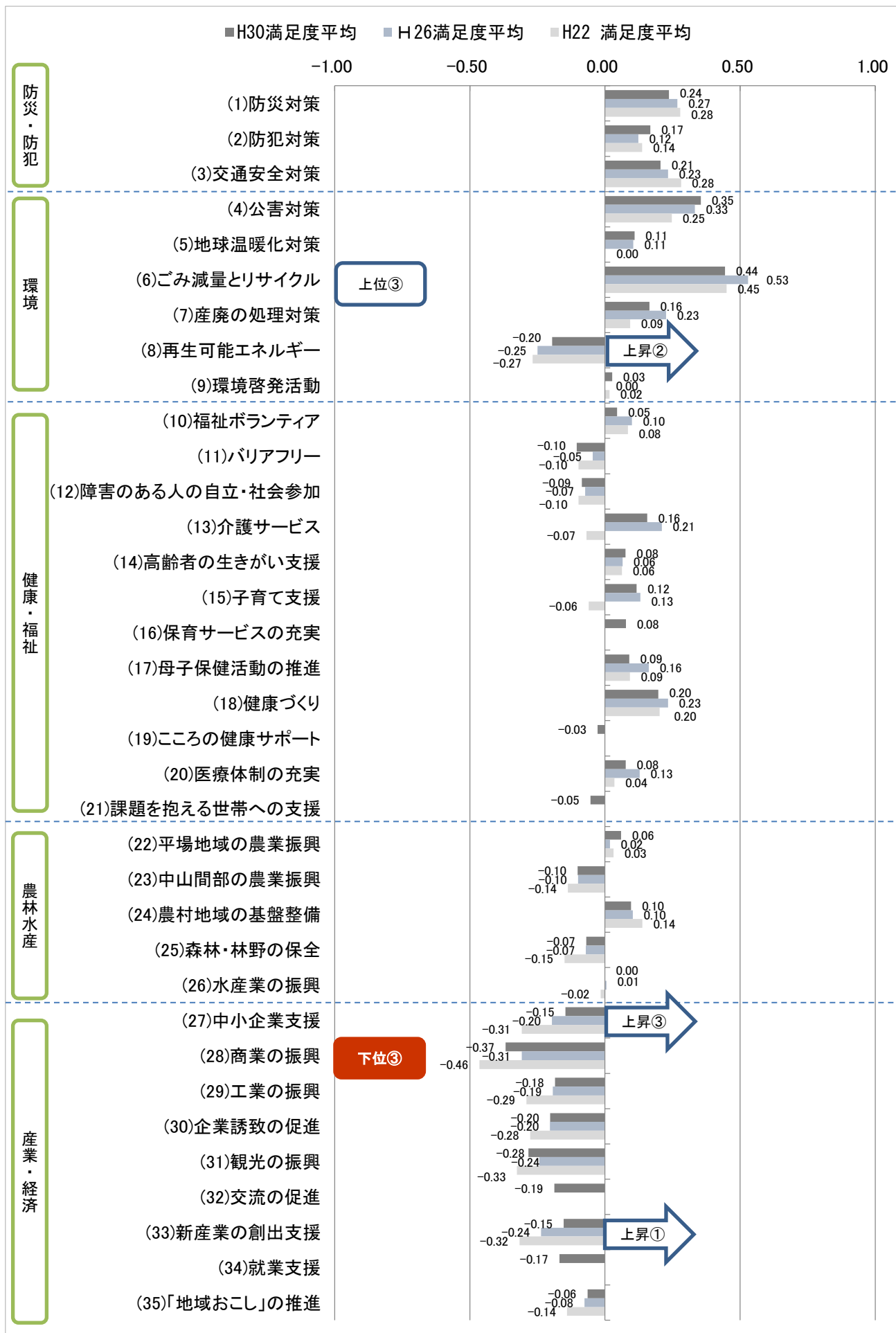
上昇3項目

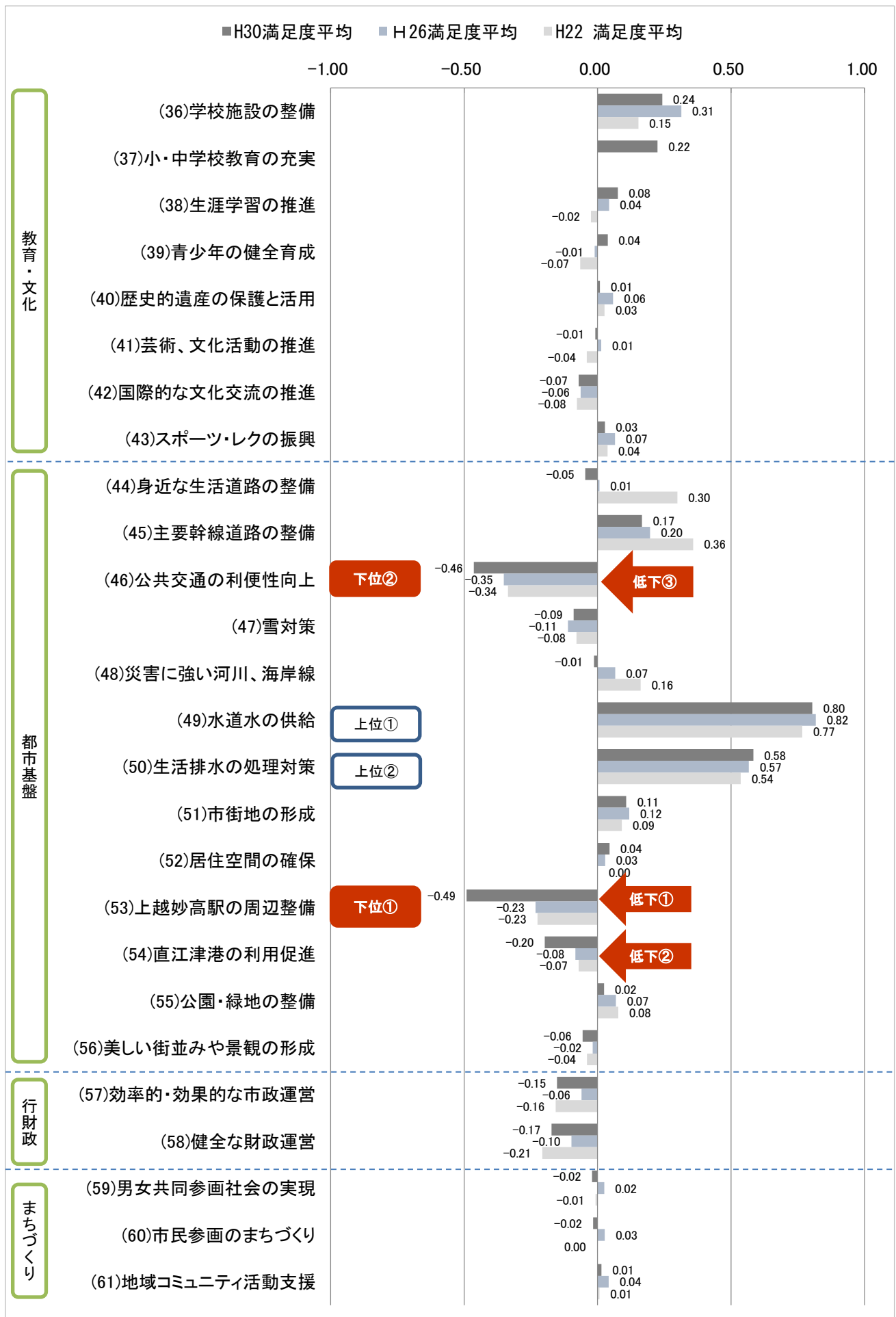
順位	項目	平均スコアの増減
①	(33)新産業の創出支援	0.08
②	(8)再生可能エネルギー	0.05
③	(27)中小企業支援	0.05

低下3項目

順位	項目	平均スコアの増減
①	(53)上越妙高駅の周辺整備	▲ 0.26
②	(54)直江津港の利用促進	▲ 0.11
③	(46)公共交通の利便性向上	▲ 0.11

産業・経済分野の項目は、満足度自体は低いものの、全体的に上昇した。
都市基盤分野の項目は、全体的に低下した。





2-2-2 今後の重要度

■今回調査における上位、下位の項目

上位3項目

順位	項目	平均スコア
①	(1)防災対策	1.45
②	(47)雪対策	1.37
③	(20)医療体制の充実	1.28

下位3項目

順位	項目	平均スコア
①	(42)国際的な文化交流の推進	0.43
②	(43)スポーツ・レクの振興	0.50
③	(41)芸術、文化活動の推進	0.50

防災・防犯分野の項目が高く、上位3項目は前回調査と同じであった。
教育・文化分野の一部項目が低い。

■前回調査と比較して上昇、低下した項目

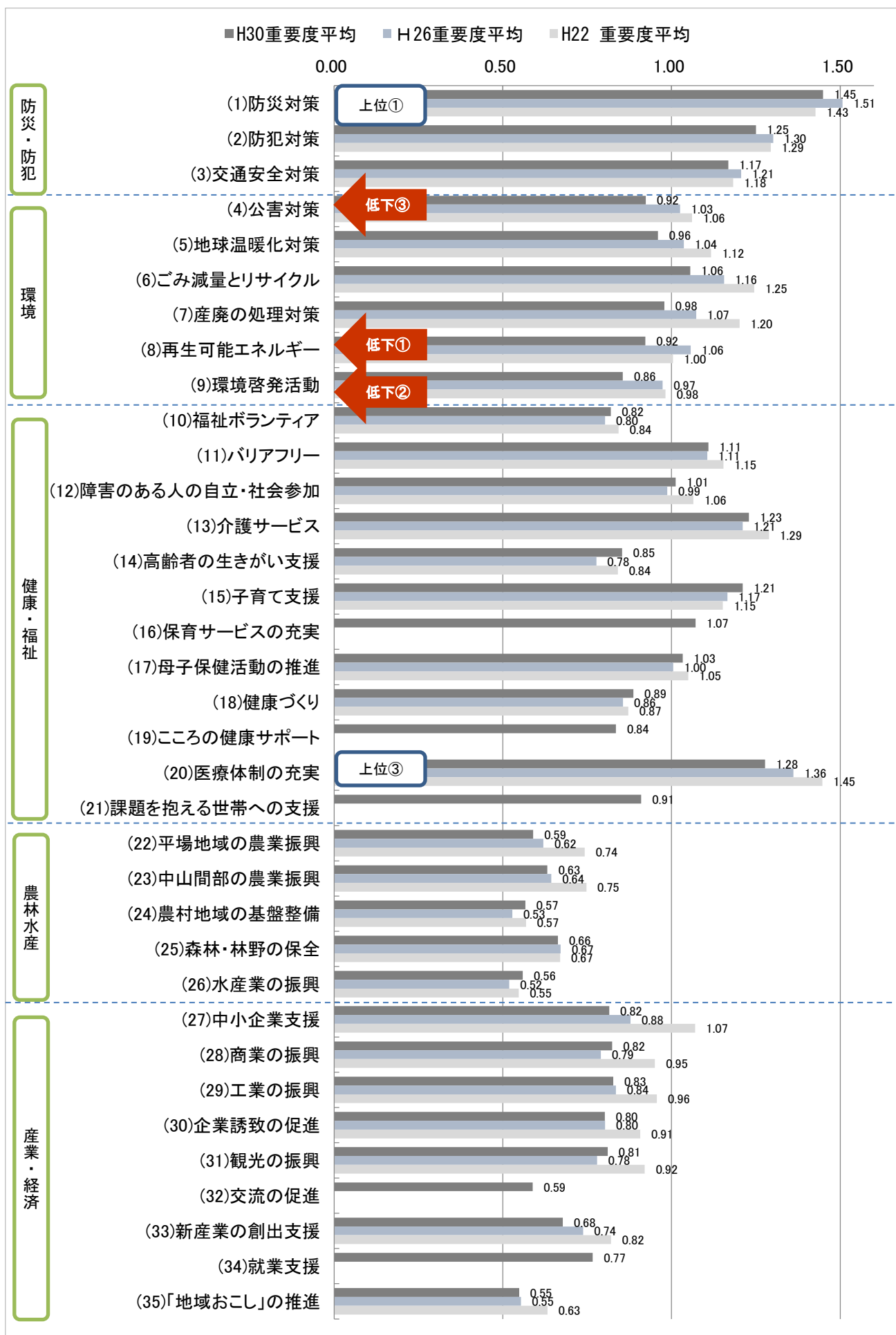
上昇3項目

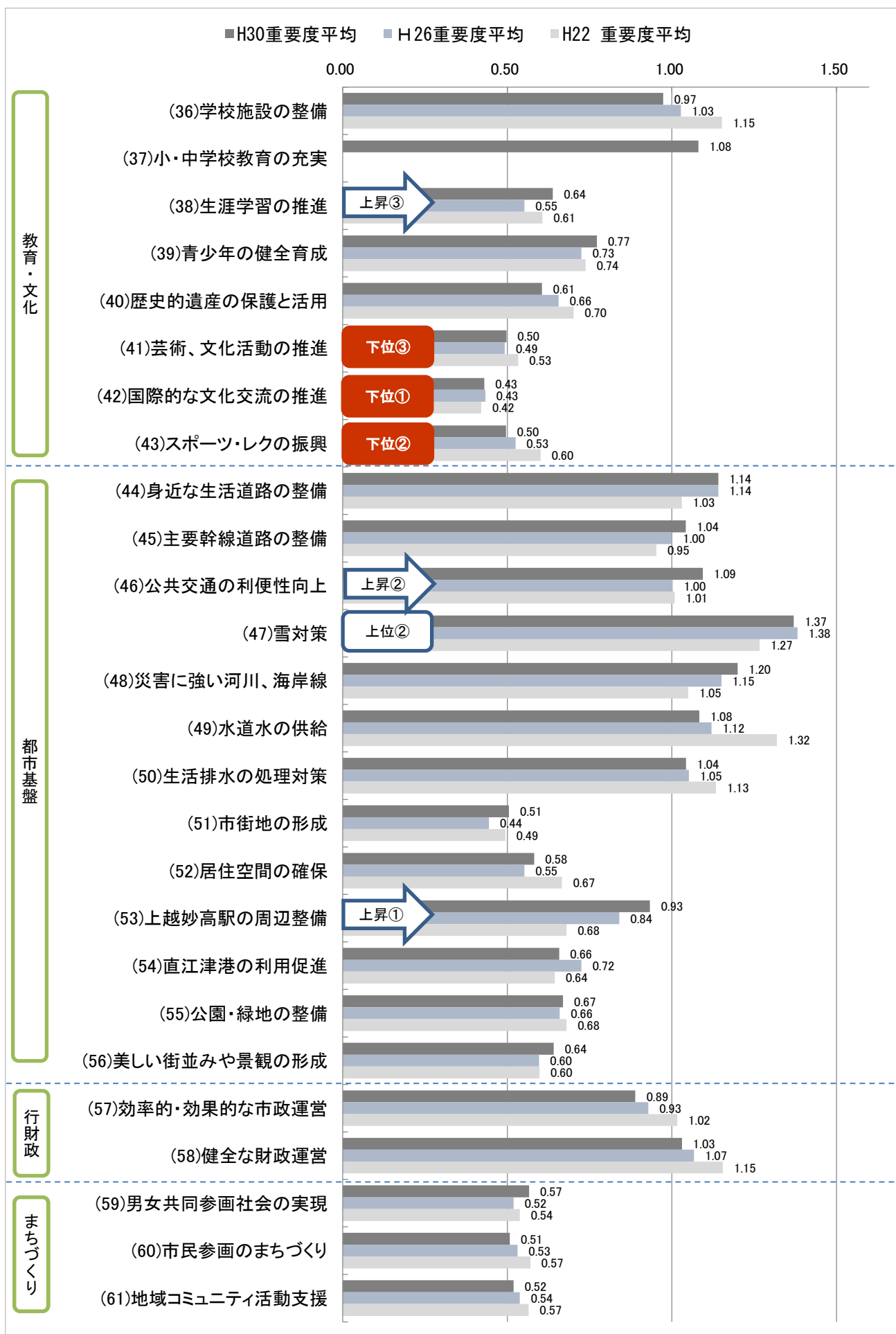
順位	項目	平均スコアの増減
①	(53)上越妙高駅の周辺整備	0.09
②	(46)公共交通の利便性向上	0.09
③	(38)生涯学習の推進	0.09

低下3項目

順位	項目	平均スコアの増減
①	(8)再生可能エネルギー	▲ 0.13
②	(9)環境啓発活動	▲ 0.12
③	(4)公害対策	▲ 0.10

都市基盤分野の項目が上昇した。
環境分野のすべての項目が低下した。





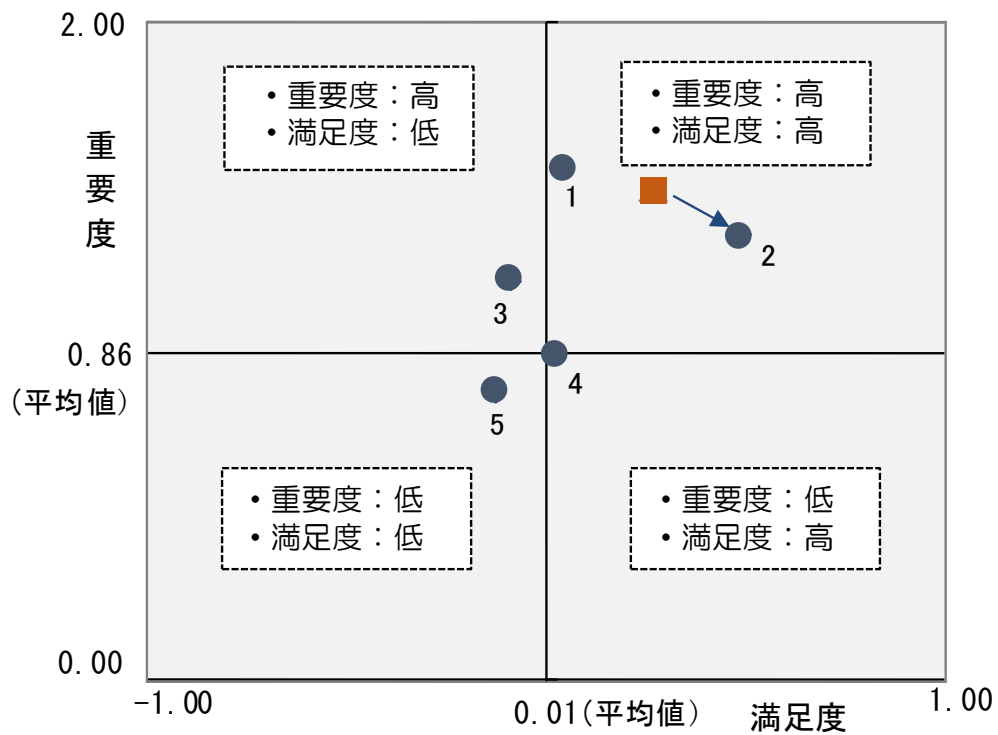
2-2-3 満足度と重要度の比較(プロット図)

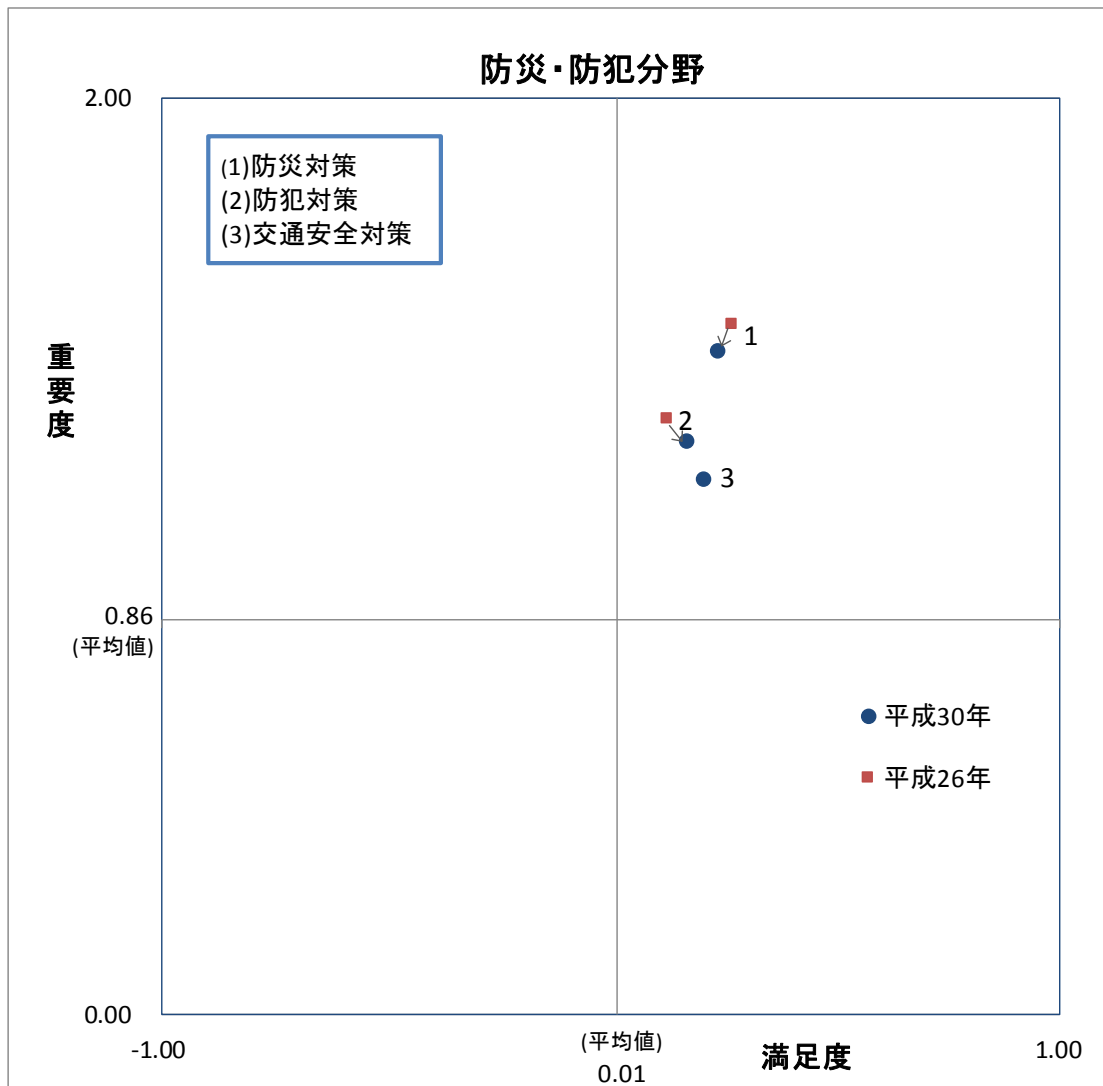
【プロット図の見方】

プロット図は、横軸に満足度の平均スコアを、縦軸に重要度の平均スコアをとり、各項目を表したものである。

図の中心点は、61項目の全体の平均スコアを（満足度 0.01、重要度 0.86）を示している。

また、平成 22 年及び 26 年に実施した調査結果と比較して、満足度と重要度の平均スコアの変化が大きかった項目は、変化の様子を示した。

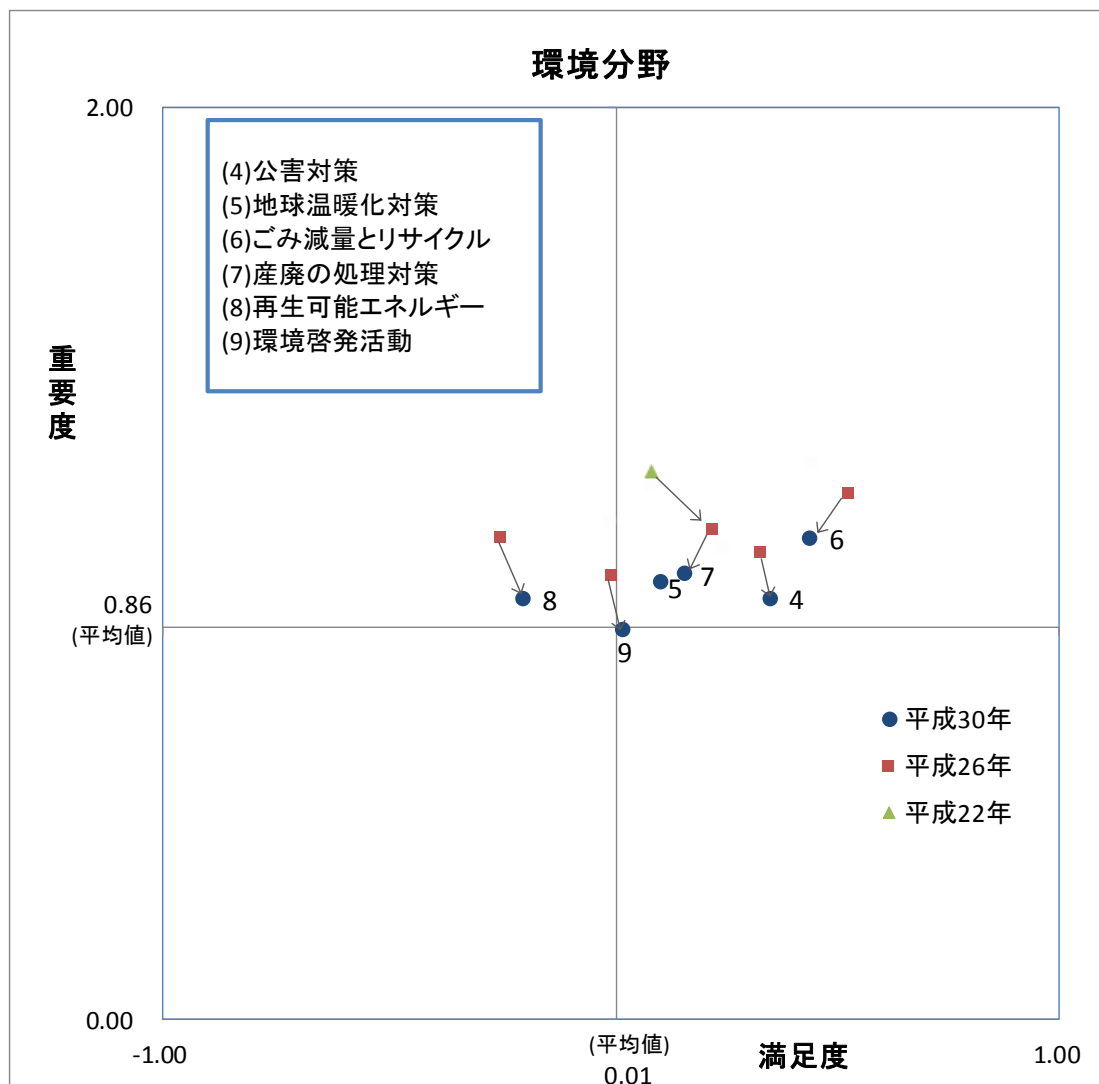




全ての項目において満足度・重要度ともに各平均値(0.01・0.86)を上回る。

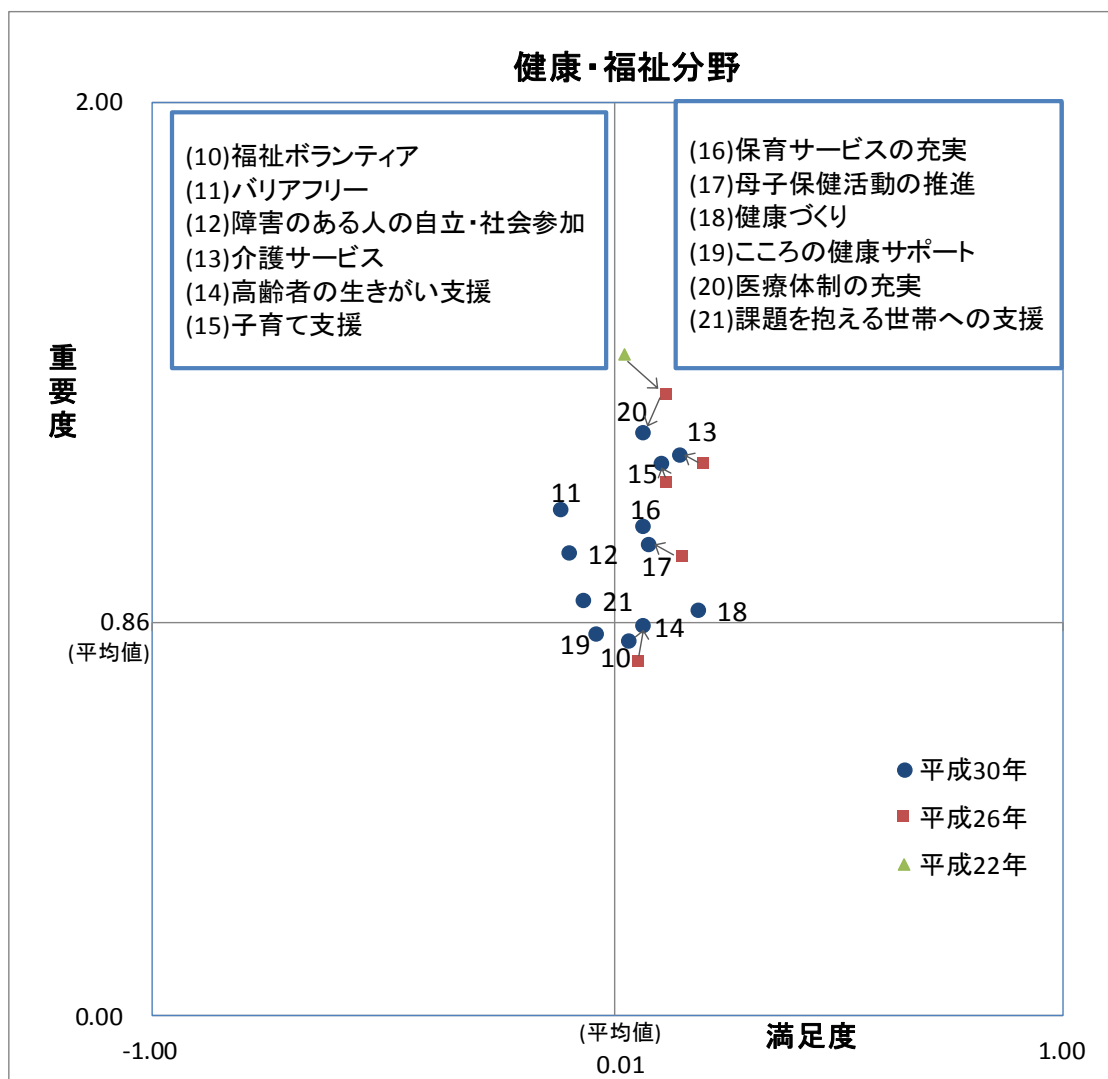
「(1)防災対策」については、重要度が全項目の中で最も高いが、前回調査からは低下した。前は、東日本大震災のほか、市内においても長野県北部地震、国川地すべりなどの災害が相次いで発生したことから重要度が上昇したと考えられるが、それ以降、大規模な災害が減少したため、重要度は相対的に低下したと考えられる。

「(2)防犯対策」については、地域における防犯活動の充実や、警察や関係団体と連携した取組などにより、刑法犯認知件数が減少傾向にあることなどから、満足度が上昇し、重要度が低下したと考えられる。



多くの項目において重要度が平均値(0.86)を上回るものの、前回調査からは全ての項目において低下した。低下の要因として、人の健康や環境へ悪影響を及ぼす公害や二酸化炭素排出などの行為への規制が進むなど、社会全体での取組や、個人のごみ減量やリサイクル、再生可能エネルギー導入などの環境保全の取組が市民生活に浸透したことなどが上げられる。

「(6)ごみ減量とリサイクル」については、満足度が全項目の中で上位にあるものの、ごみの分別の負担や平成28年度以降に流通した指定ごみ袋の品質に対する不満などにより、前回調査から低下したと考えられる。



多くの項目で前回調査から満足度が低下し、重要度が上昇した。

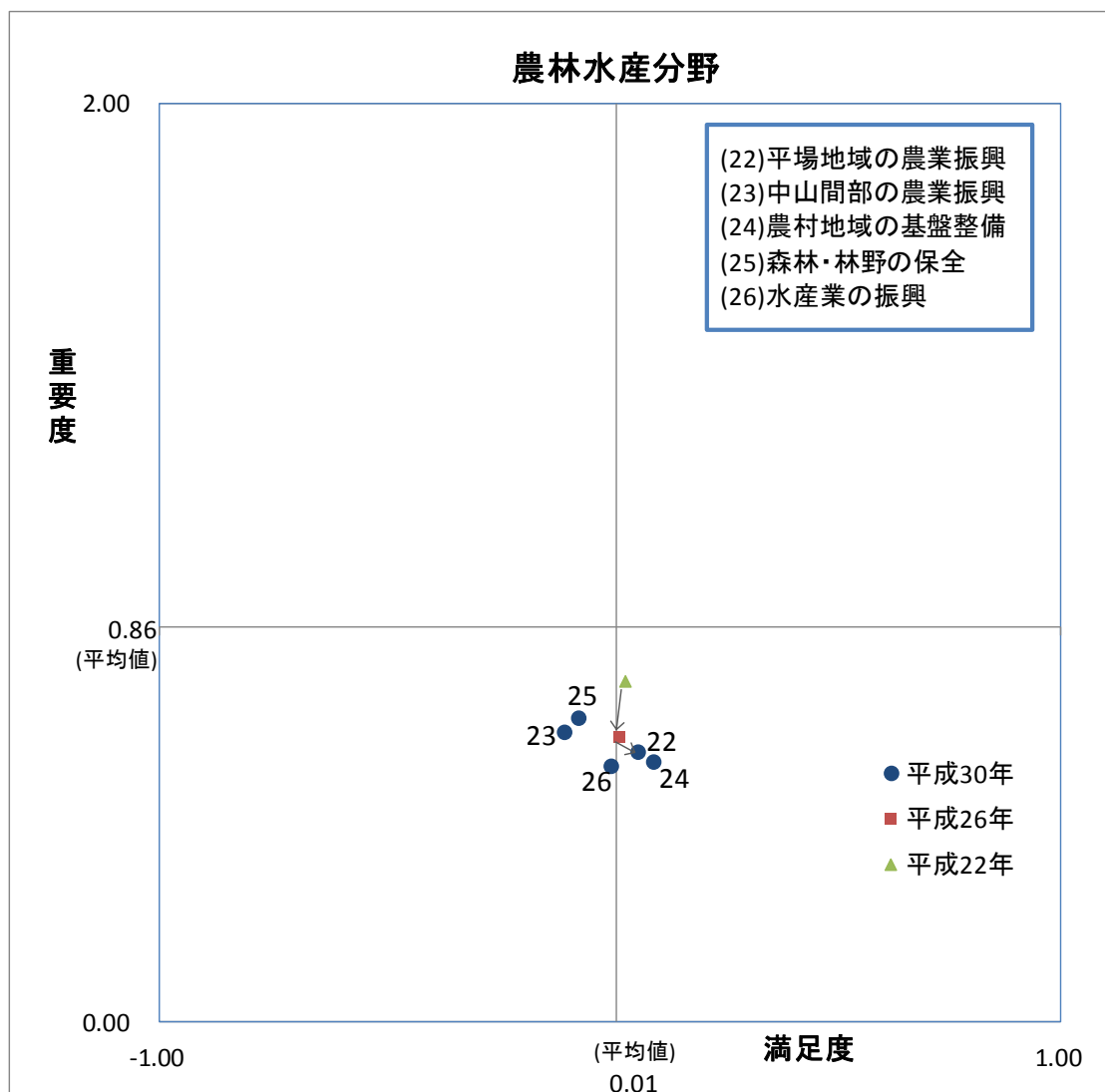
「(13)介護サービス」については、前回調査時から要介護認定率は低下し、介護予防を目的とした取組の成果が現れているものの、当該率や介護保険料は依然として高い水準にあることに加え、全国的な介護人材不足に対する将来の介護サービス提供の不安や懸念の高まりなどにより、満足度が低下したと考えられる。

「(14)高齢者の生きがい支援」については、高齢者の価値観の多様化により、生きがいづくりに関するニーズ・関心が高まったことなどから、重要度が上昇したと考えられる。

「(15)子育て支援」については、核家族世帯や共働き世帯の増加、就労形態の多様化など、子育て世帯を取り巻く環境が厳しい状況にあることなどから、重要度が上昇したと考えられる。

「(17)母子健康活動の推進」については、妊産婦や子育て中の保護者のライフスタイルやニーズの多様化への対応が課題となる中で、満足度が低下し、重要度が上昇したと考えられる。

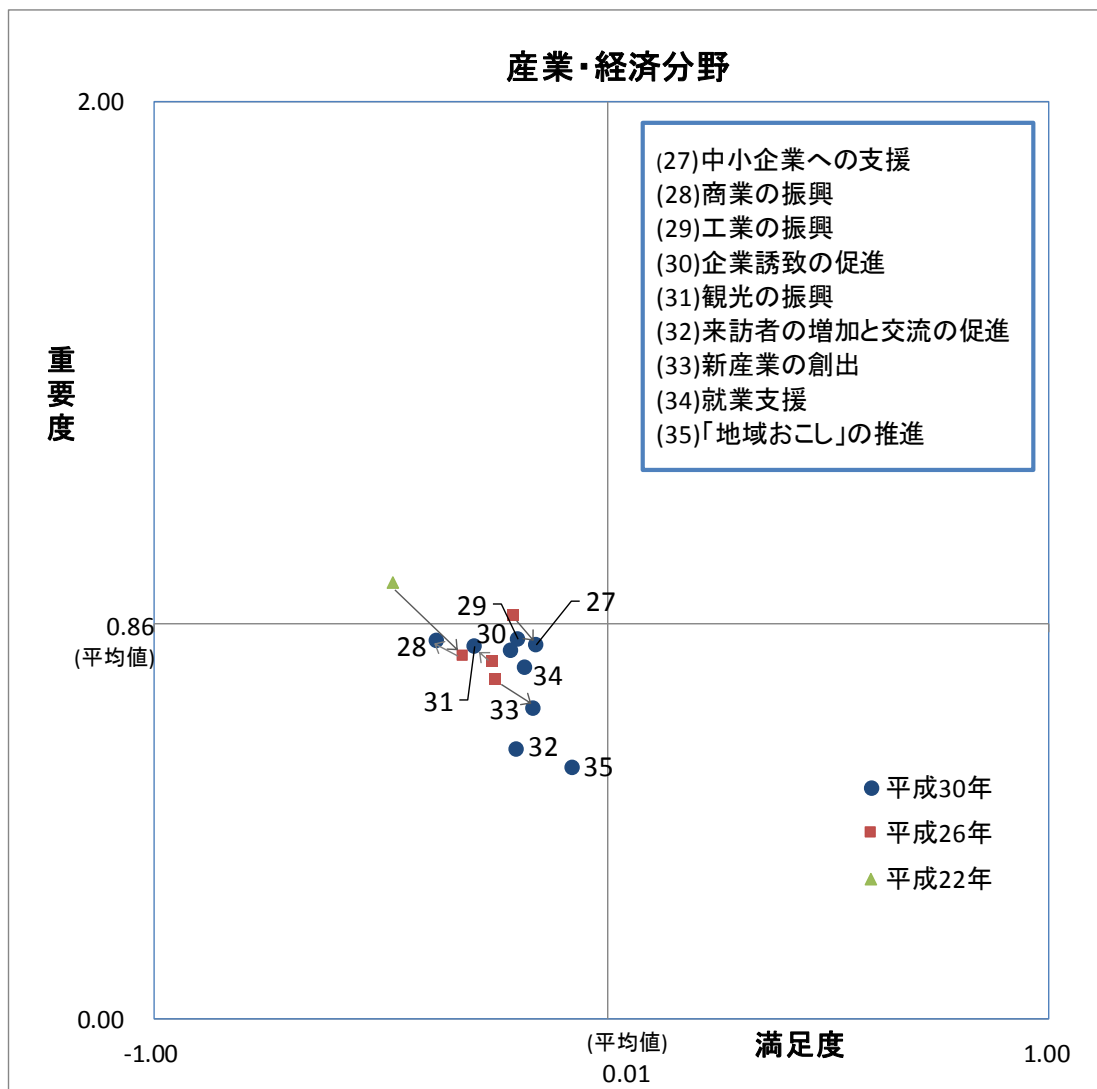
「(20)医療体制の充実」については、上越地域における医師不足により病床を一部休床する病院もあり、医療体制が低下したことなどから、満足度が低下したと考えられる。



前回調査から大きな変化は見られなかった。

「(22)平場地域の農業振興」については、補助金等の支援施策の充実により生産環境や初期投資等の課題が改善してきたことや、農業生産法人等の担い手の育成を図るとともに、農地集積を推進してきた効果が波及してきたことなどにより満足度が上昇したと考えられる。

「(23)中山間地域の農業振興」については、集落を超えて連携し、地域の課題に取り組む地域マネジメント組織等への支援を強化しているものの、平場に比べ区画が小さいなど耕作条件が不利となり、農業の担い手不足が解消していないことなどから、満足度が低い水準にあると考えられる。



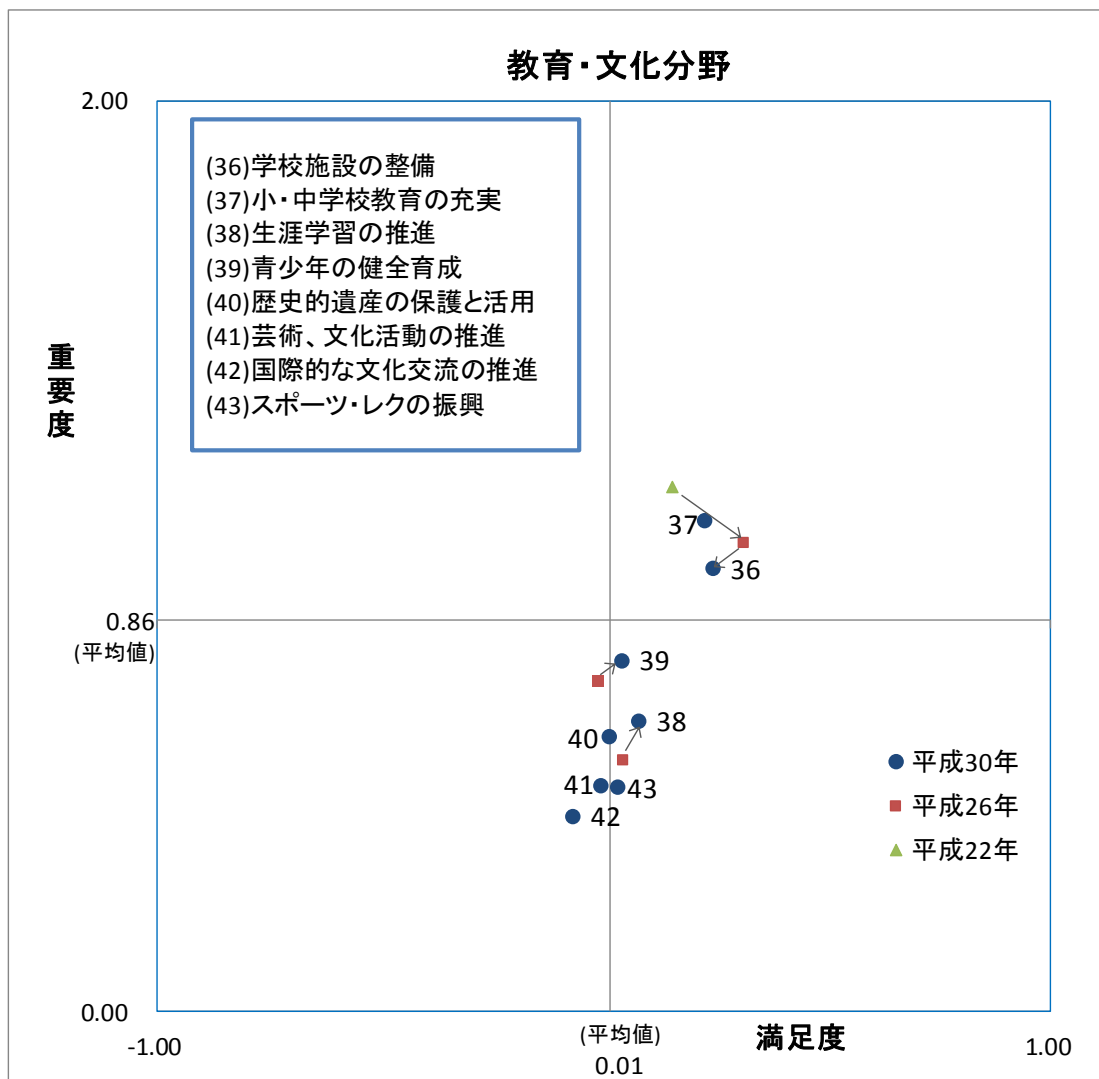
全ての項目において、満足度・重要度ともに全体の平均値(0.01・0.86)を下回っている。

「(27) 中小企業の支援」については、前回調査からの間、市内経済の状況が比較的安定していることや毎年度の施策の見直しの成果などから満足度が上昇したと考えられる。

「(28) 商業の振興」については、市内の卸売・小売業の営業店舗数の減少などにより満足度が低下したと考えられる。

「(31) 観光の振興」については、季節ごとに集客イベントを開催しているが、年間を通じた観光客の往来の伸びが期待と比べて不十分な状態であることなどから、満足度が低下したと考えられる。

「(33) 新産業の創出支援」については、メイド・イン上越の推進や、雪室や農産品などの地域資源をいかした新産業支援施策の取組が市民に浸透しつつあるため満足度が上昇し、重要度が低下したと考えられる。

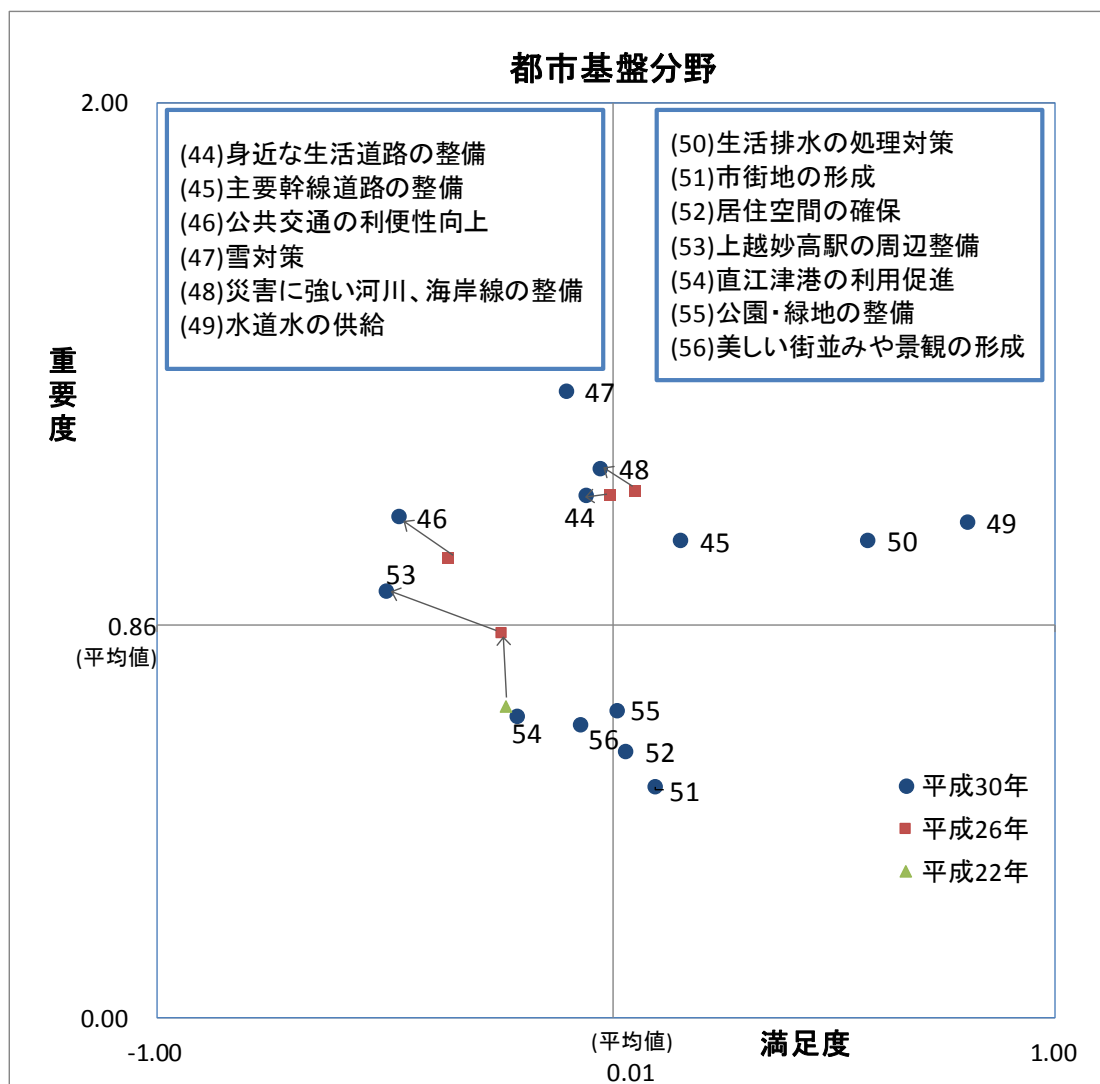


学校教育に関する「(36)学校施設の整備」、「(37)小・中学校教育の充実」については、満足度・重要度ともに高い。

「(36)学校施設の整備」では、夏期の暑さ対策の要望の高まりなどを背景に満足度が低下し、少子化の進行や有田小学校の竣工により児童生徒数に比べて施設数が充足・適正化したことなどから重要度が低下したと考えられる。

「(38)生涯学習の推進」については、IT・AI(人工知能)等の技術進歩による高度情報化やグローバル化が進む中、学校教育だけでなく生涯を通じて常に学習することへの関心や様々なスキルを習得する必要性が高まっていることなどから、重要度が大きく上昇した。特に20代以下と30代で高まった。

「(39)青少年の健全育成」については、青少年健全育成委員や地域青少年育成会議の活動が進んだことや、少子高齢化の進展とともに次世代を担う青少年の健全な育成が重要との認識が高まってきたことなどにより、満足度・重要度が上昇したと考えられる。



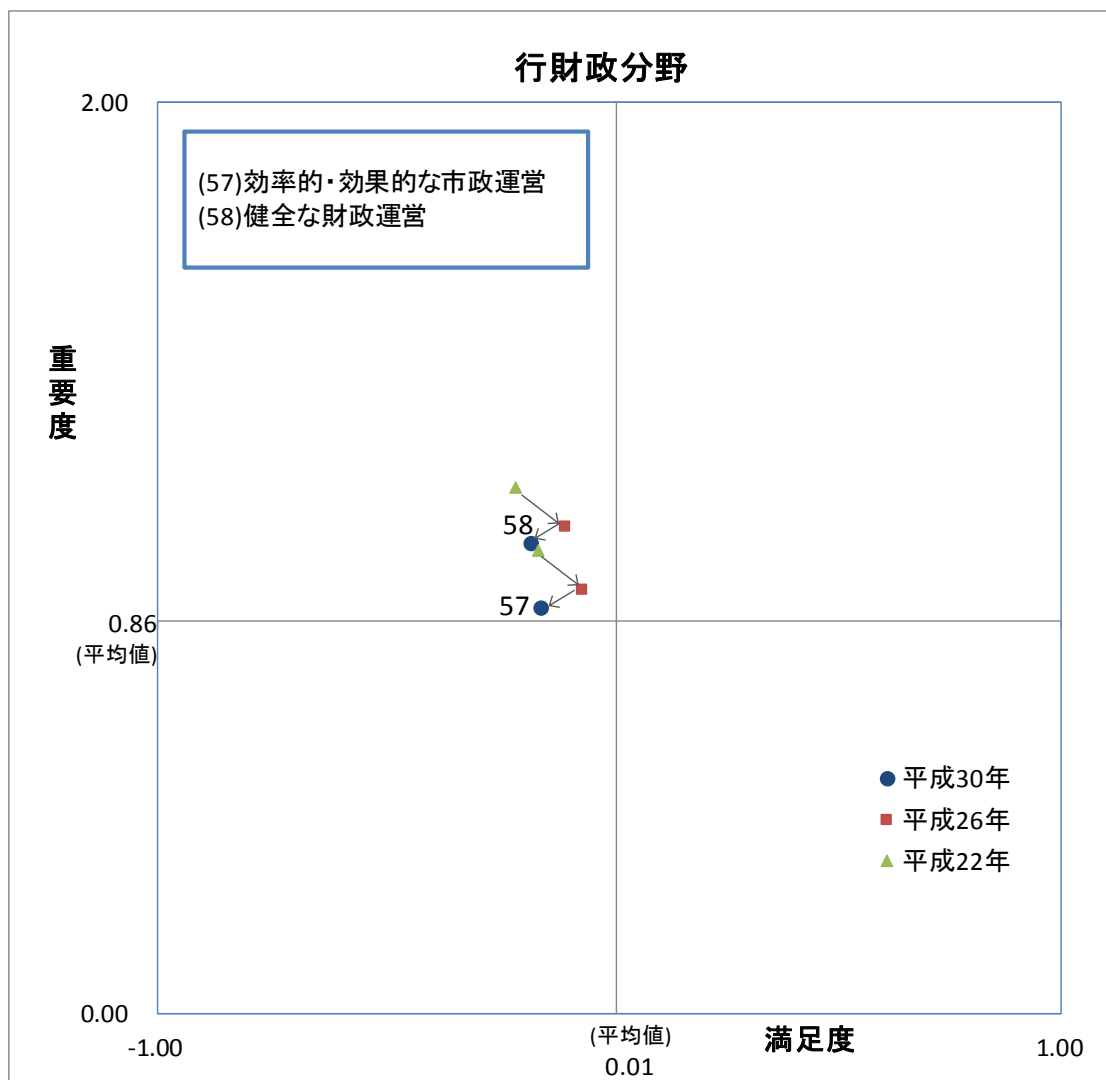
多くの項目で満足度が低下し、重要度が上昇している。

「(44)身近な生活道路の整備」については、利便性や安全性の高い道路整備が求められる中で、道路施設の老朽化が急速に進行していることなどから、満足度が低下したと考えられる。

「(46)公共交通の利便性向上」については、公共交通を必要とする高齢世代が増加する中、公共交通サービスの提供が市民の需要に十分に答えられていないことから、満足度が低下し、重要度が上昇したと考えられる。

「(48)災害に強い河川、海岸線」については、平成 29 年の大雨等で市内各所で浸水被害が発生したことなどから満足度が低下し、また、全国各地で豪雨災害が発生し、関心が高まったことなどから、重要度が上昇したと考えられる。

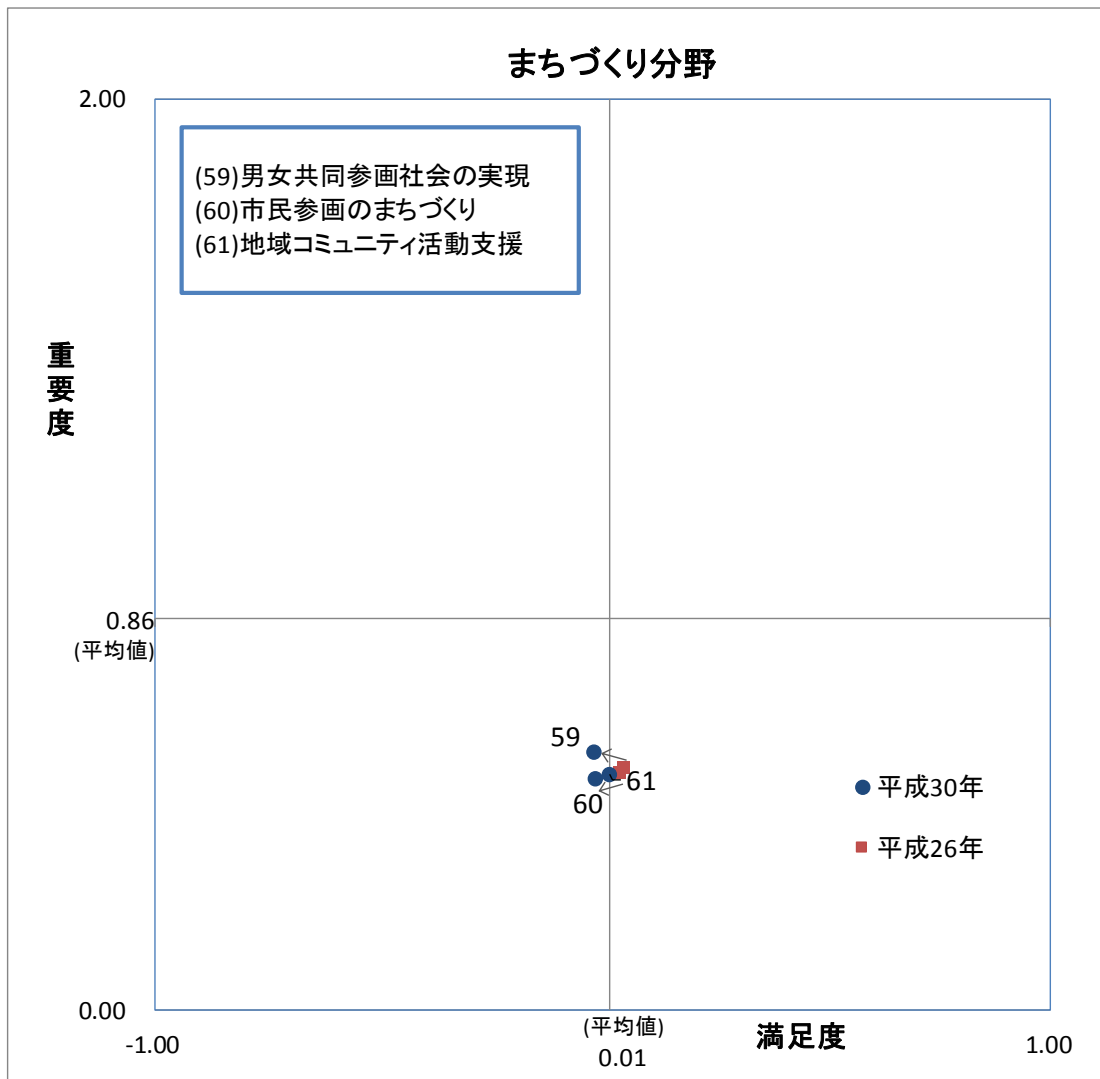
「(53)上越妙高駅の周辺整備」については、北陸新幹線開業後の民間開発が金沢や富山と比較すると目に見える形で進展してこなかったため、満足度が大きく低下し、重要度が上昇したと考えられる。



両項目とも満足度が低下した。

「(57) 効率的・効果的な市政運営」については、特に 30 代以下の世代が低下した。行政改革の取組に対する市民の認知度が若干低下したこと(平成 29 年度市政モニターアンケート結果)が低下の要因の一つと考えられる。

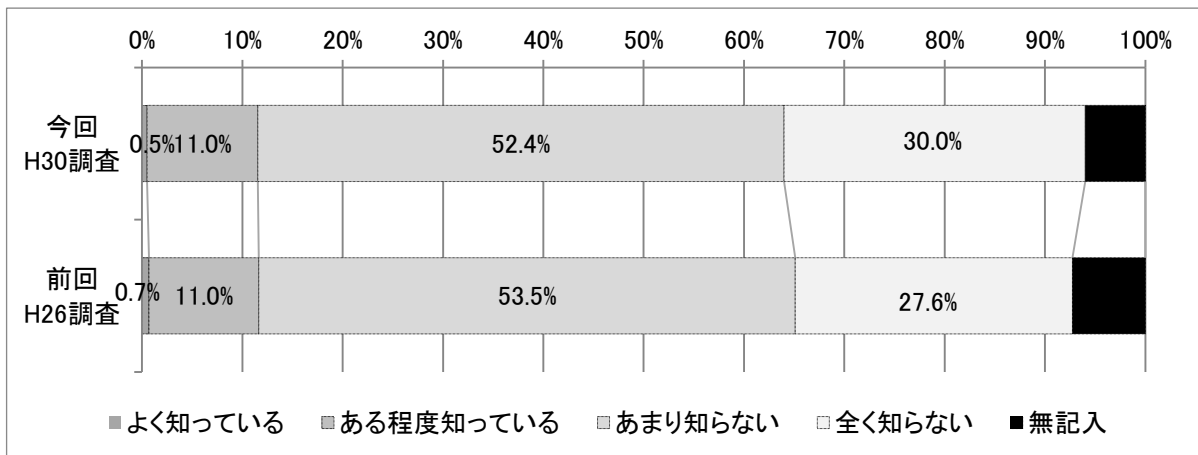
「(58) 健全な財政運営」については、大規模な建設事業の実施をはじめとした平成 29 年度予算に対し、将来負担増への懸念が高まったことや、財政健全化に向けた取組の認知度の向上が図られていないことなどが低下の要因と考えられる。



「(59)男女共同参画社会の実現」については、満足度が低下し、重要度が上昇した。国を挙げて男女の働き方改革や女性活躍が推進される中で、市内では様々な分野における男女の地位の平等感が低下傾向(平成 29 年市民意識調査結果)にあることが要因の一つと考えられる。

「(60)市民参画のまちづくり」については、市民参画制度の積極的な活用が図られていないことなどから、満足度が低下したと考えられる。

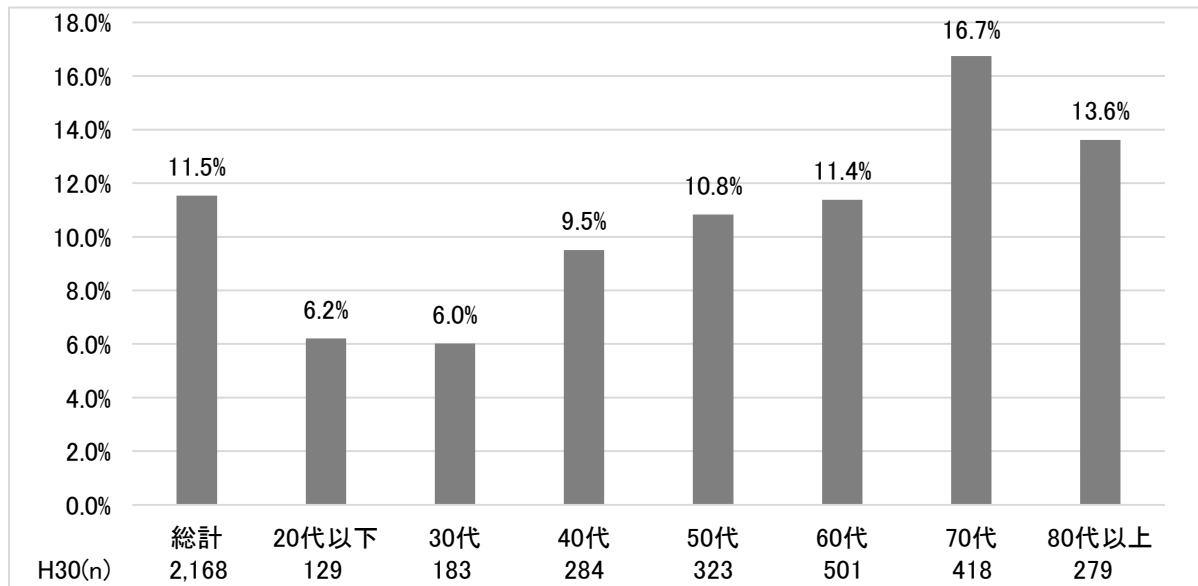
2-3 【問2(62)】 上越市自治基本条例に対する認知度



自治基本条例は理念条例であり、市民生活に直接関わりが少ない制度であることから、本条例についての認知度（「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計）が低い状況が継続しており、前回に引き続き約1割にとどまった。

クロス集計

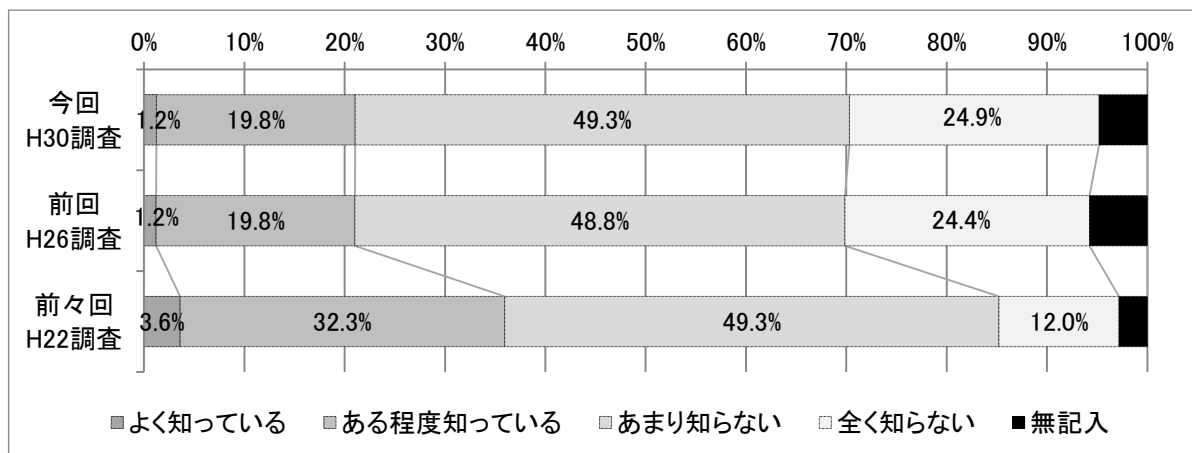
年代別



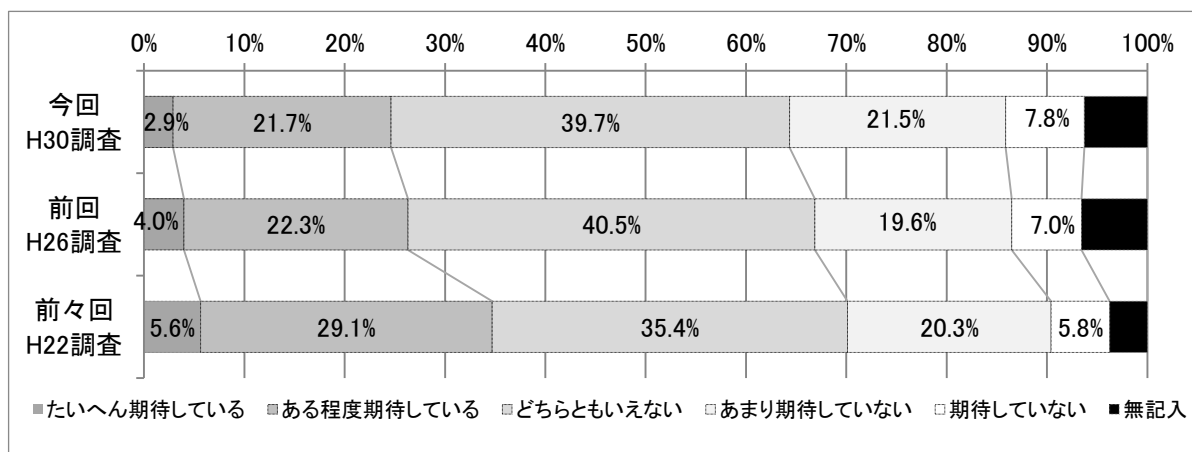
認知度は、30代以上で年齢とともに高くなった。

2-4 【問2(63)】 地域自治区制度に対する認知度・期待度

認知度



期待度



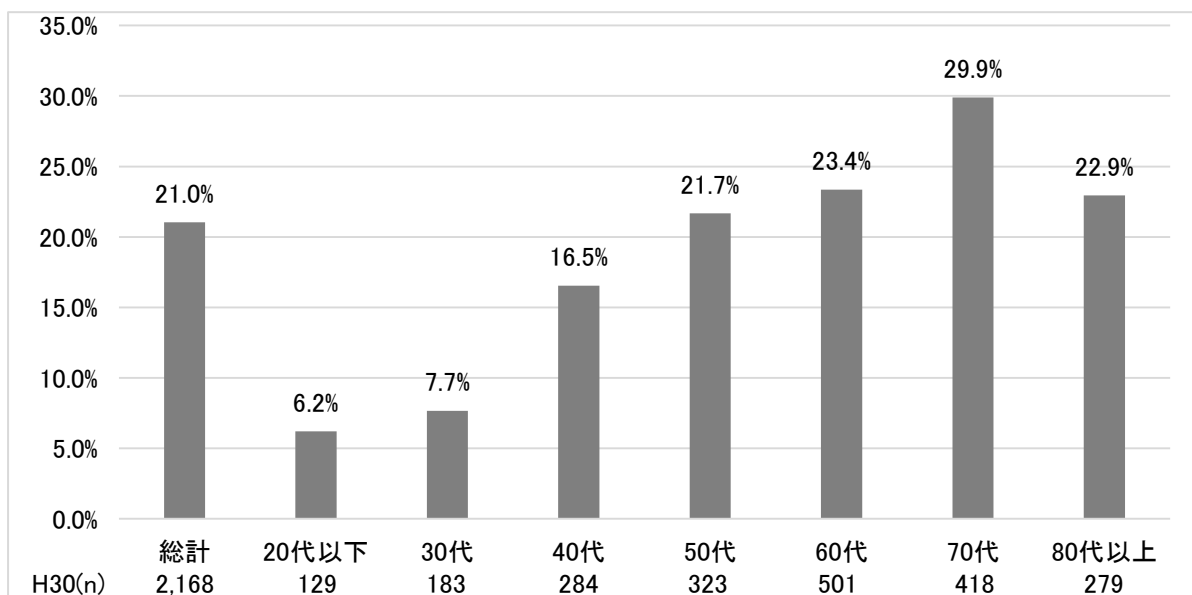
認知度(「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計)は前回に引き続き約 2 割にとどまった。30 代以下では 1 割以下であった。また、期待度(「たいへん期待している」、「ある程度期待している」の合計)は前回から低下した。

制度そのものの認知度が高くないことや具体的な活動の様子や成果が見えにくい制度であることから、期待度が低下したと考えられる。

クロス集計

認知度

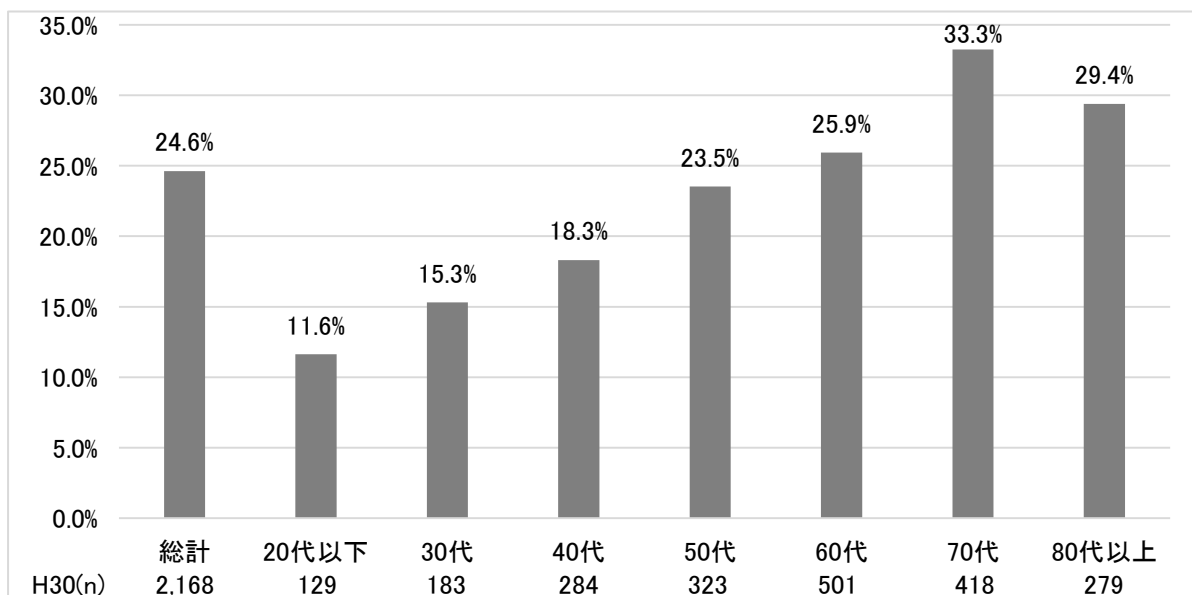
年代別



30代以下の認知度が特に低い。

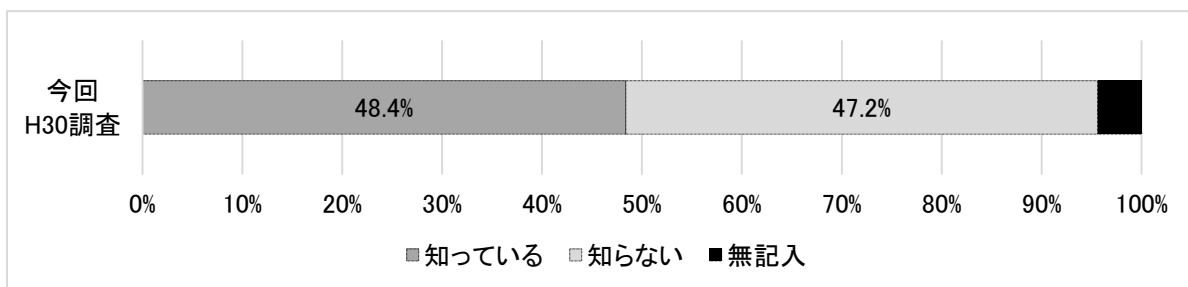
期待度

年代別



年代別の認知度に比例して期待度も高い。

2-5 【問2(64)】 地域協議会に対する認知度

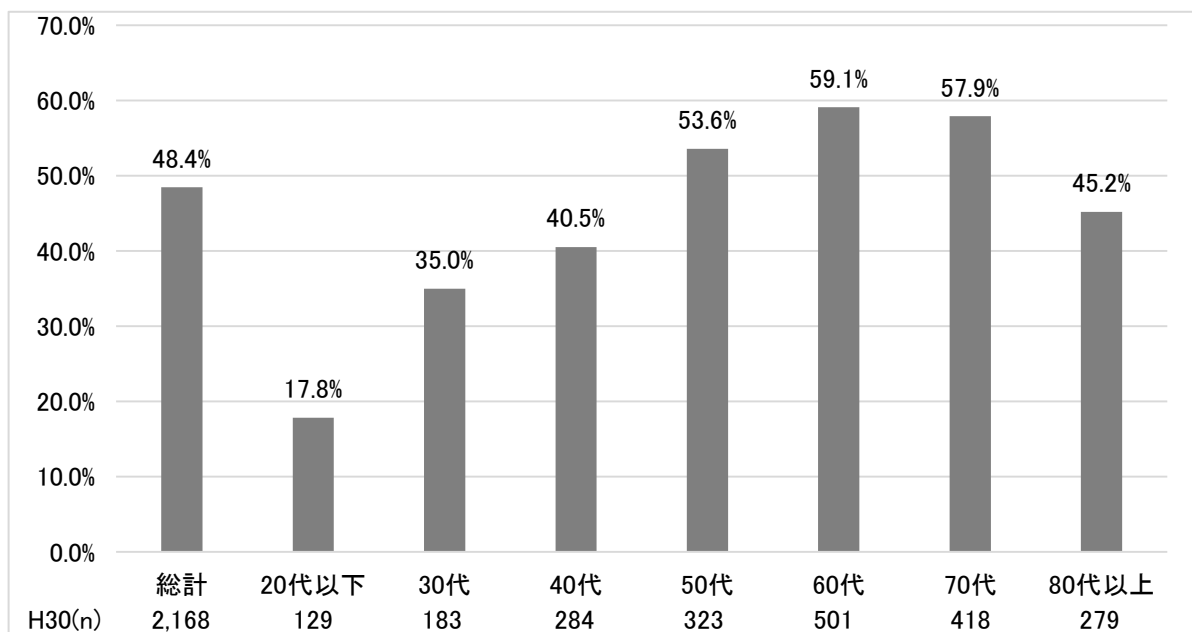


認知度は約 5 割であり、50 代から 70 代までが高い。

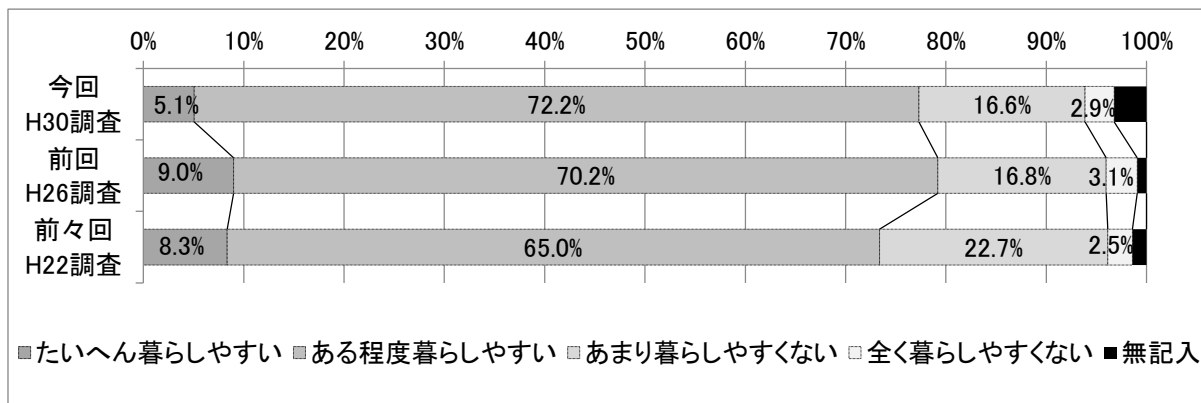
平成 28 年度に実施した市政モニターアンケートで知っていると回答した割合は 43.2% であり、比較すると 5.2 ポイント上昇している。これは、地域協議会だよりによる活動状況の周知や、地域活動支援事業の募集を通じて、市民の生活に身近な地域協議会の活動について市民に周知されていることが表れていると考えられる。

クロス集計

年代別



2-6 【問3(1)】暮らしやすさ

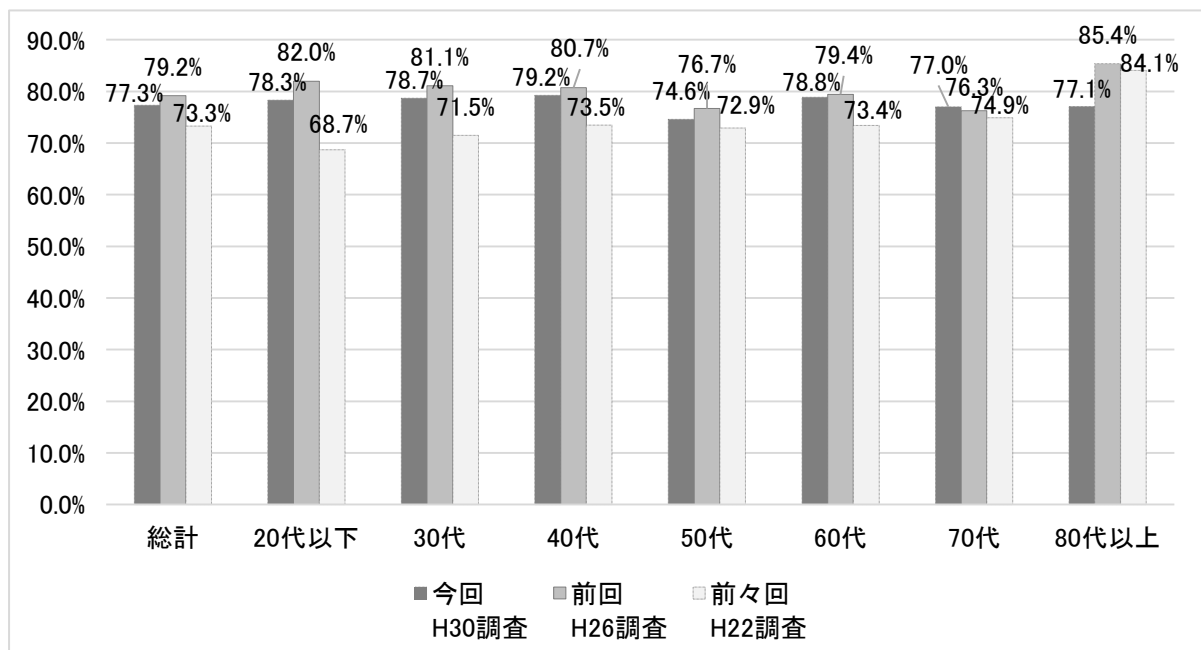


「たいへん暮らしやすい」が 5.1%、「ある程度暮らしやすい」が 72.2%で、合わせて約 8 割 (77.3%) の市民が暮らしやすいと思っている。

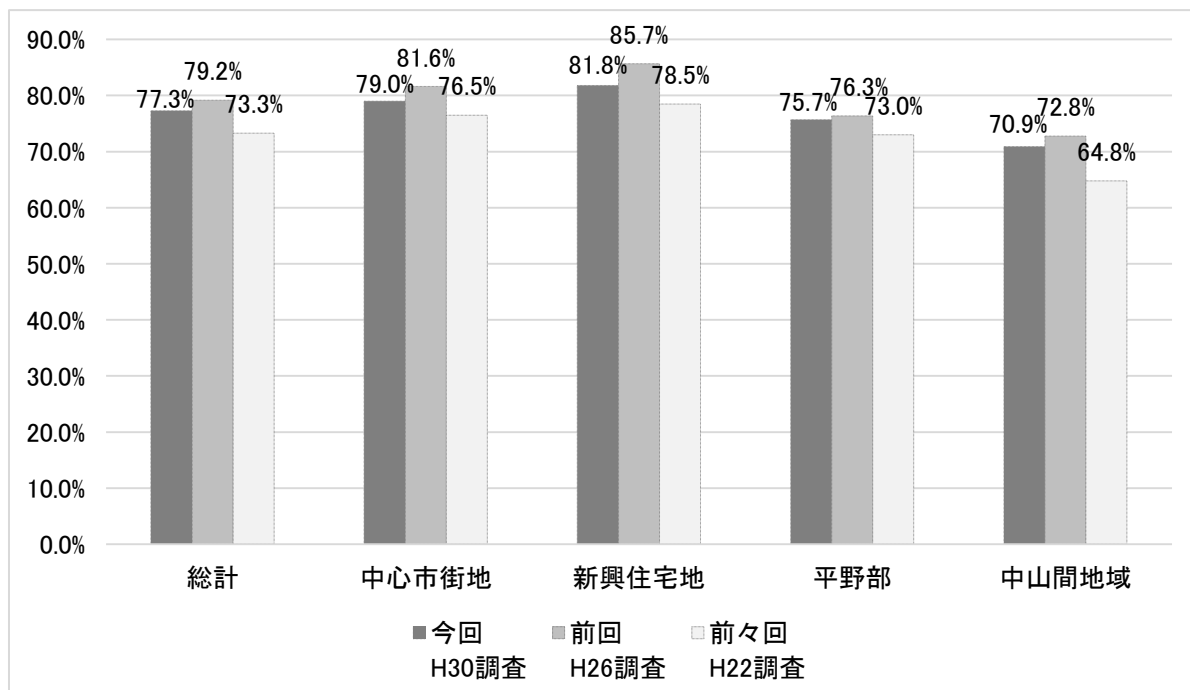
前回調査から「たいへん暮らしやすい」が減少し、「ある程度暮らしやすい」が増加した。

クロス集計

年代別

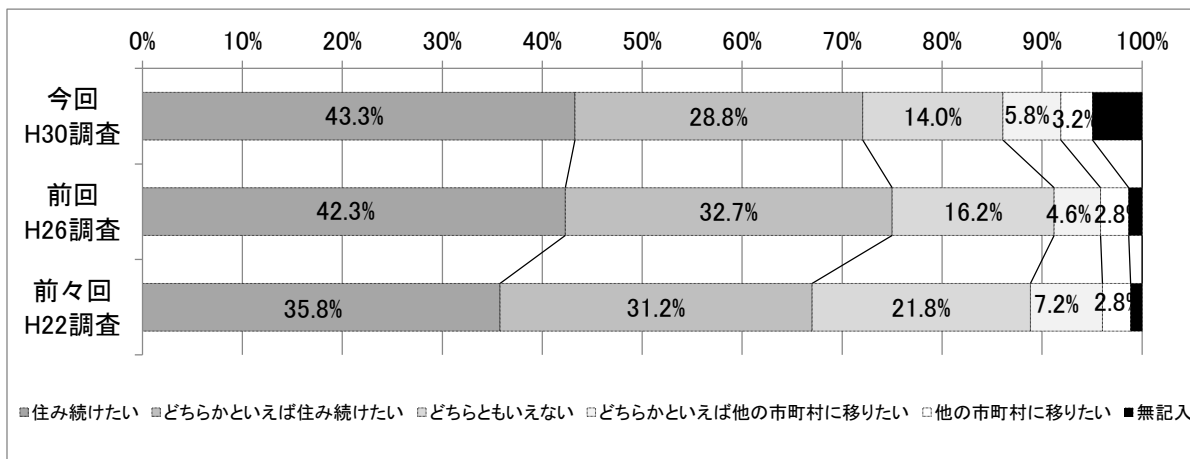


居住地域別



「たいへん暮らしやすい」または「ある程度暮らしやすい」と回答した市民の割合は、中山間地域でやや低い。

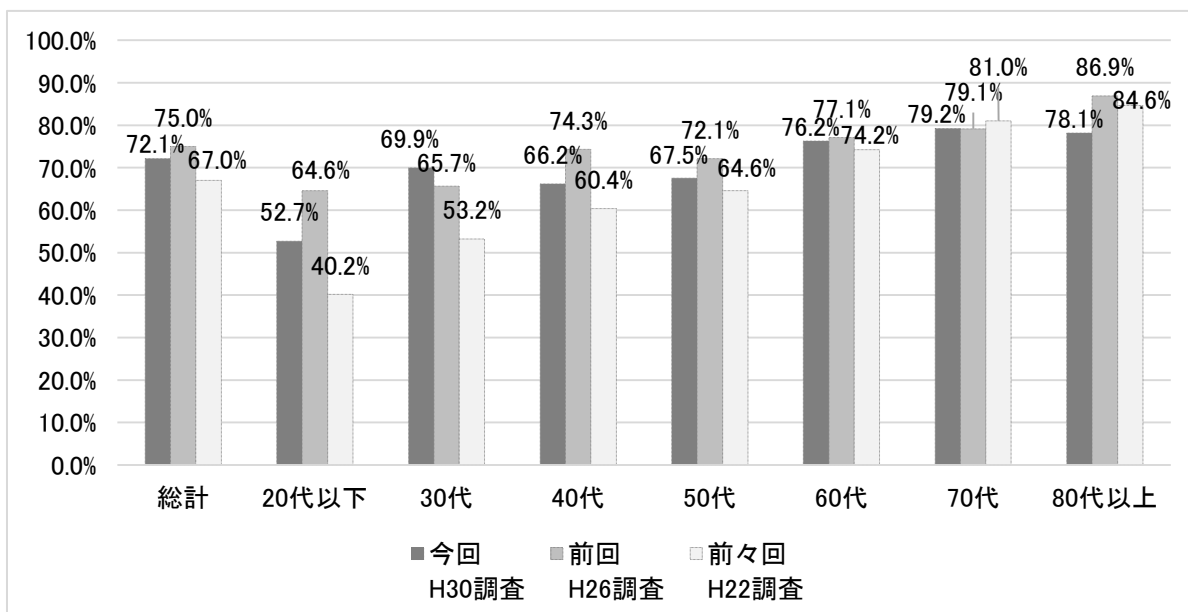
2-7 【問3(2)】 上越市に住み続ける意向



「住み続けたい」が43.3%、「どちらかといえば住み続けたい」が28.8%で、合わせて7割以上(72.1%)の市民が住み続けたいと思っている。前回調査(75.0%)と比べ、減少したものの、「住み続けたい」と思っている市民の割合は調査ごとに増加している。

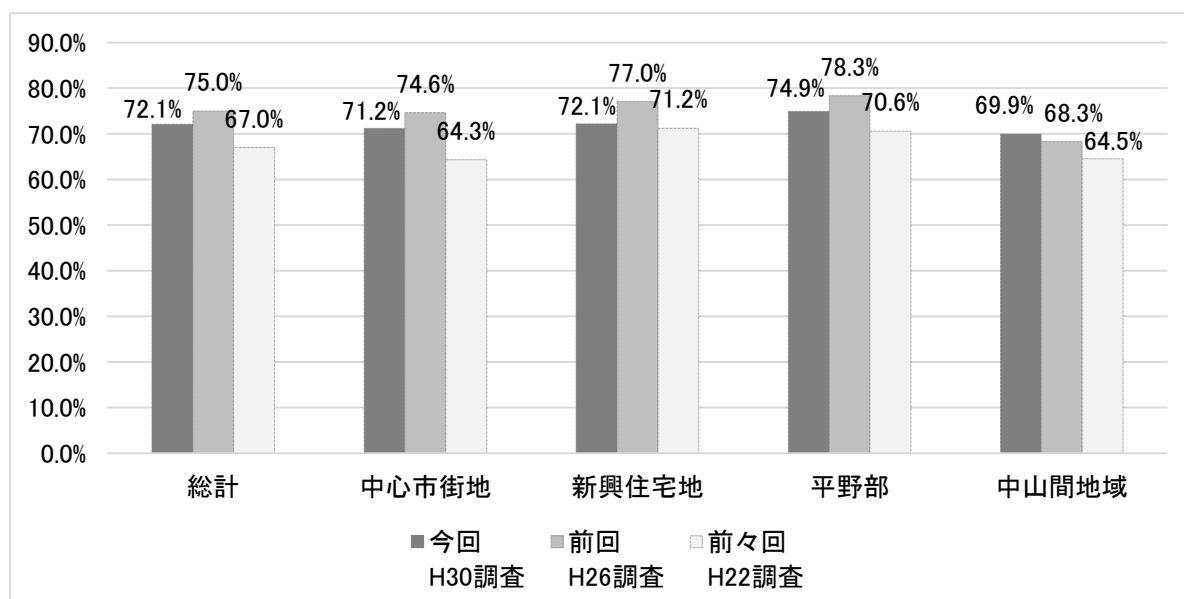
クロス集計

年代別



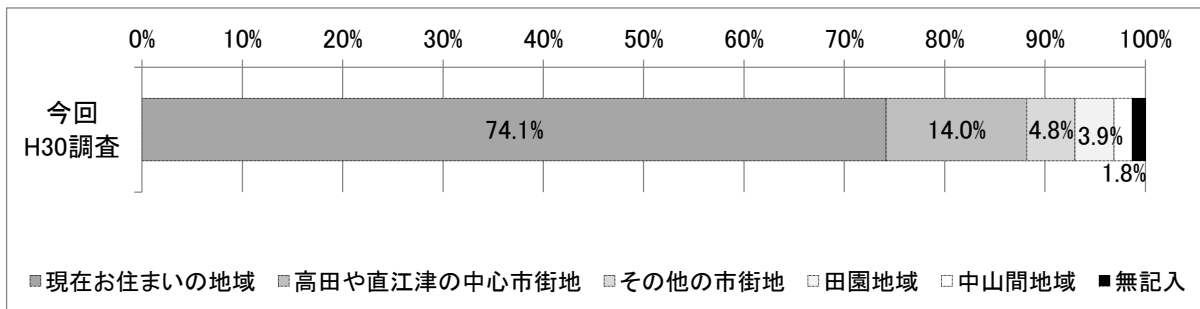
「住み続けたい」または「どちらかといえば住み続けたい」と回答した市民の割合は、20代以下で低い。

居住地域別



中山間地域でやや低い。

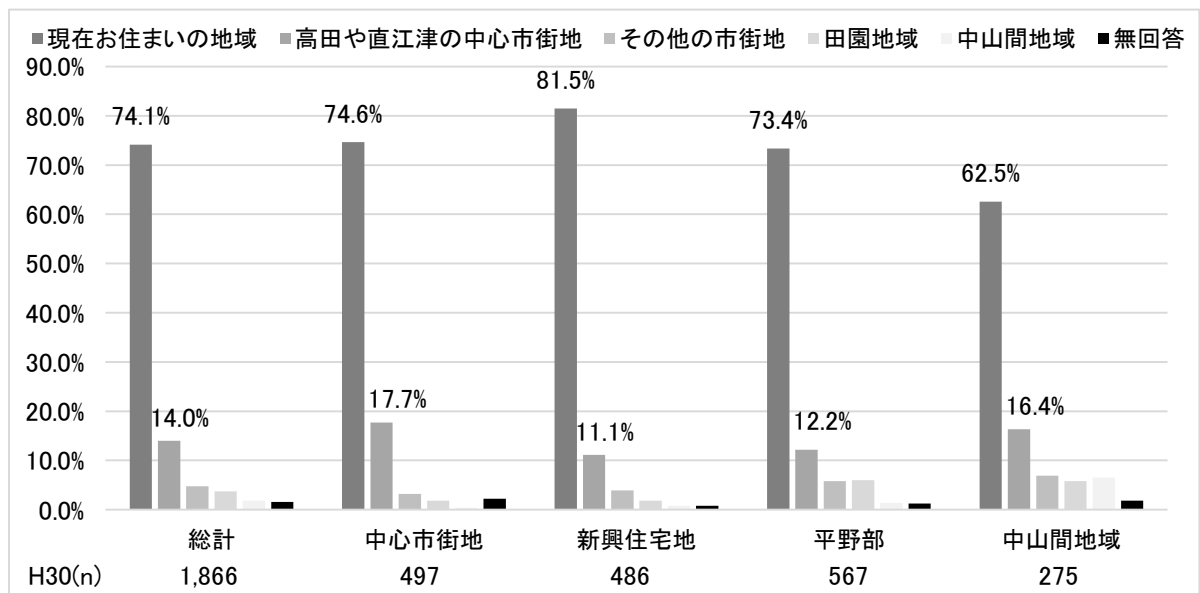
2-8 【問3(3)①】 住みたい地域 (問3(2)で「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらともいえない」のいずれかを選択した場合のみ記入)



住みたい地域は、「現在お住まいの地域」が7割以上。
地域別では、中山間地域において「現在お住まいの地域」の割合が全体と比べて低い。

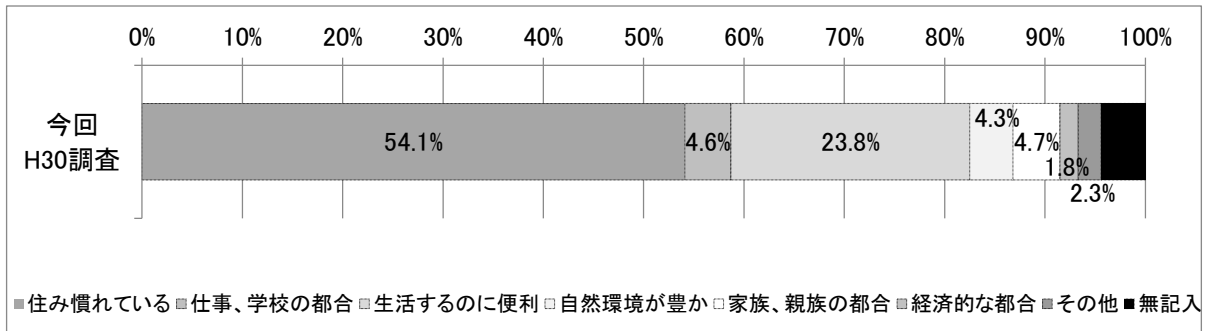
クロス集計

居住地域別



「現在お住まいの地域」に住みたい割合は、新興住宅地で高く、中山間地域で低い。

2-9 【問3(3)②】 住み続けたい地域を選んだ理由



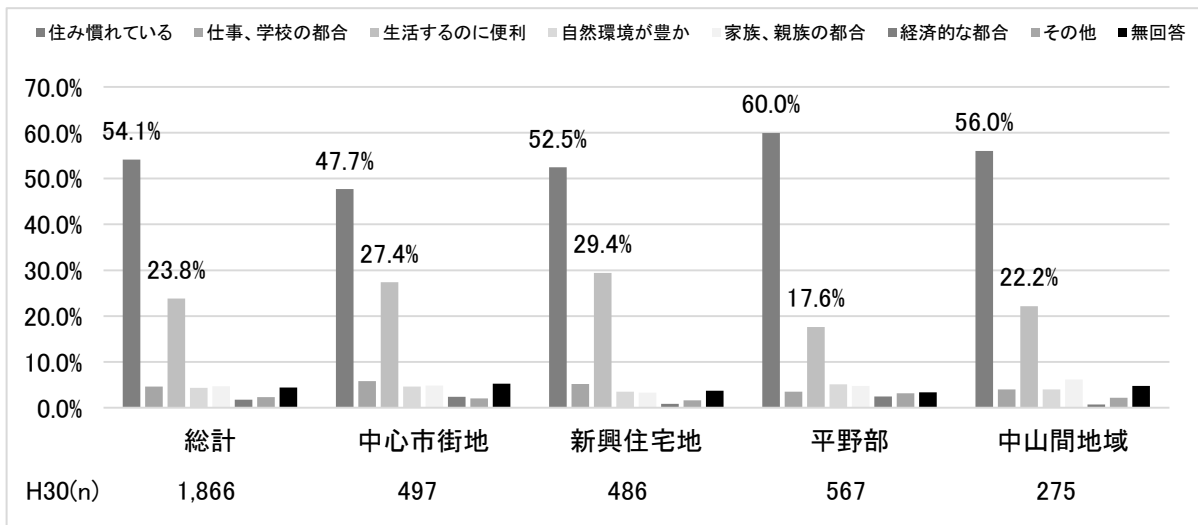
■住み慣れている ■仕事、学校の都合 ■生活するのに便利 ■自然環境が豊か ■家族、親族の都合 ■経済的な都合 ■その他 ■無記入

「住み慣れている」が最も多く、5割以上。

地域別比較では、中心市街地と新興住宅地で「生活するのに便利」の割合が平野部と中山間地域よりも高い。

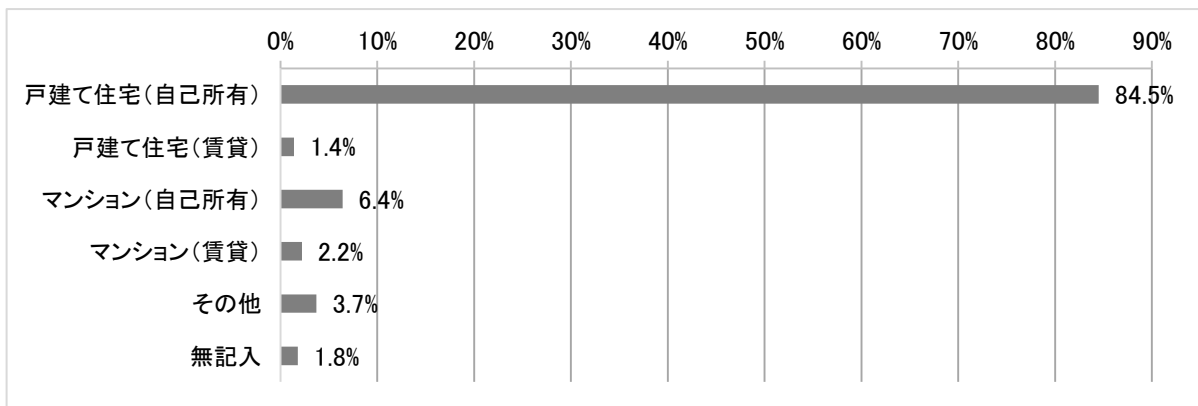
クロス集計

居住地域別



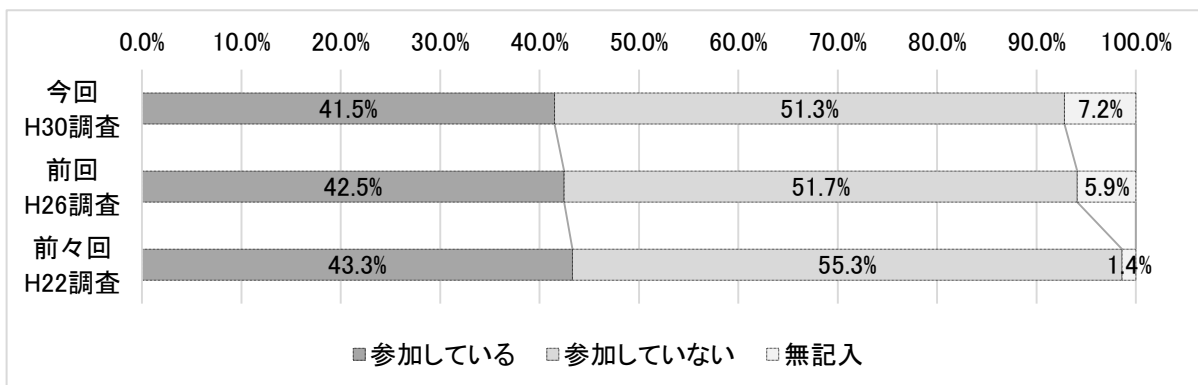
どの居住地でも「住み慣れている」の割合が最も高いが、平野部と中山間地域ではその傾向がより強く、中心市街地と新興住宅地では「生活するのに便利」の割合が比較的高い。

2-10 【問3(3)③】 住みたい居住の形態



「戸建て住宅(自己所有)」が最も多く、8割以上。

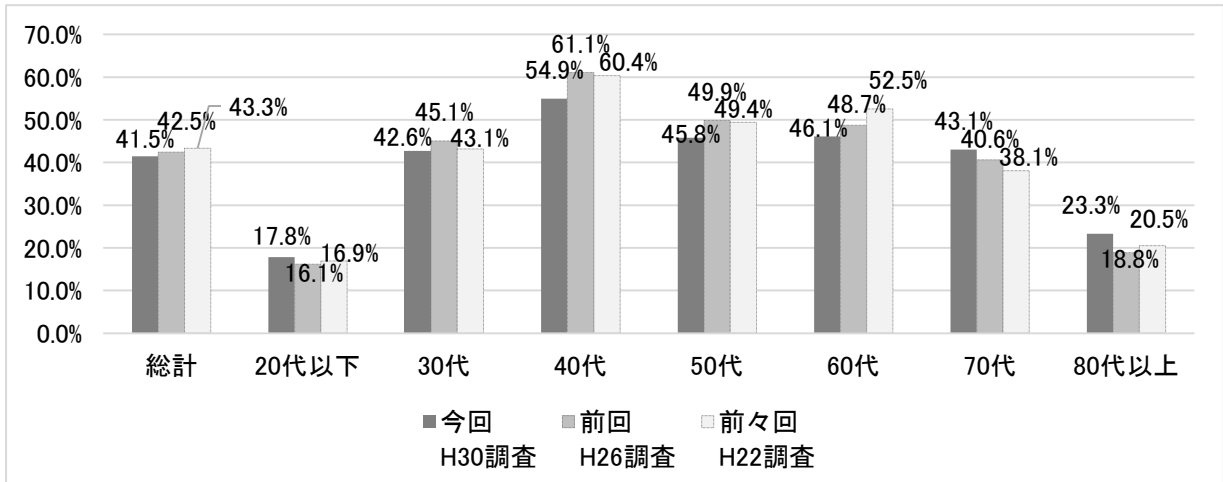
2-11 【問4】 地域活動や市民活動への参加



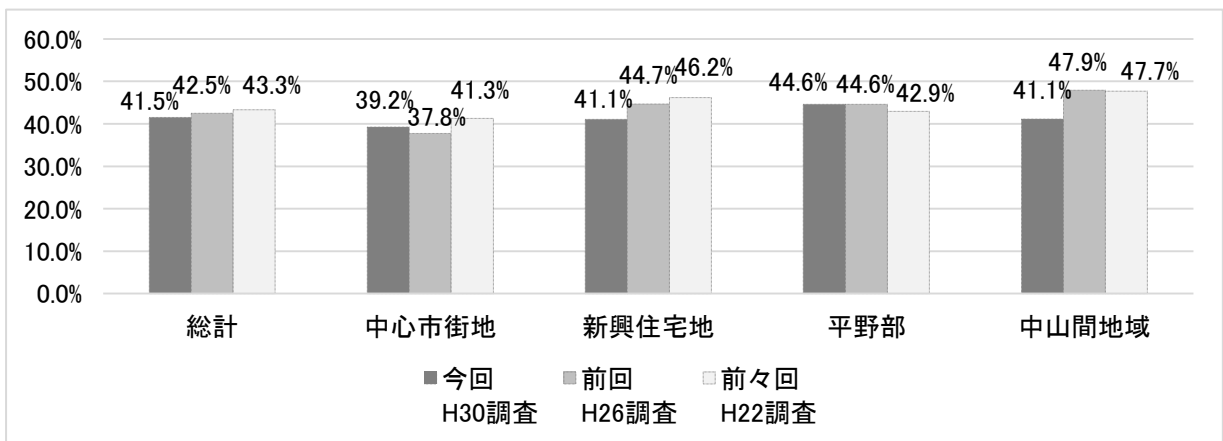
地域活動や市民活動に参加している市民は約4割。
参加している市民の割合は、過去調査から減少している。

クロス集計

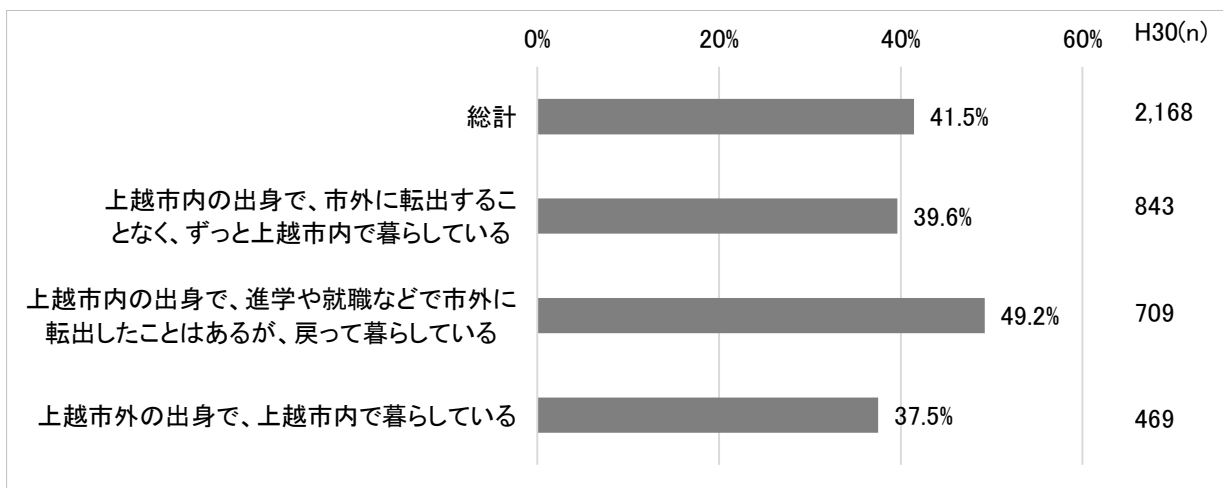
年代別



居住地域別



出身別



上越市出身で転出経験があり、市内に戻って暮らしている市民は、市民活動や地域活動の参加の割合が高い。

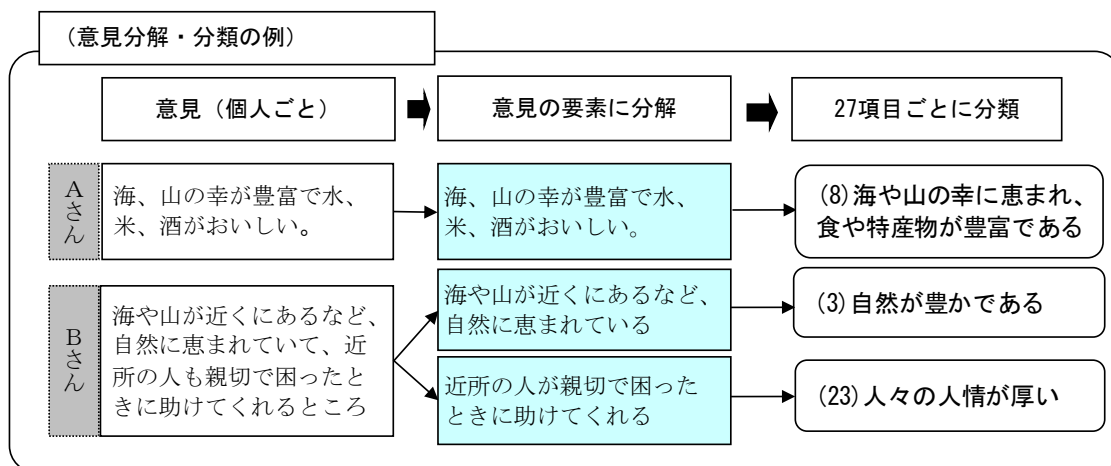
2-12 【問5】 上越市の魅力

上越市の魅力で、暮らしの中での「幸せ」や「喜び」につながっていることや、市外の
の人におすすめできる・自慢できることについて、自由記述で回答いただいた。

2-12-1 分類の方法

回答いただいた意見を以下のように分類して整理した。

- ・上越市の魅力で、暮らしの中での「幸せ」や「喜び」につながっていることや、市外の
人におすすめできる・自慢できることの意味を、問1「生活実態・実感」で設定した27
項目により分類した。
- ・問1で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。

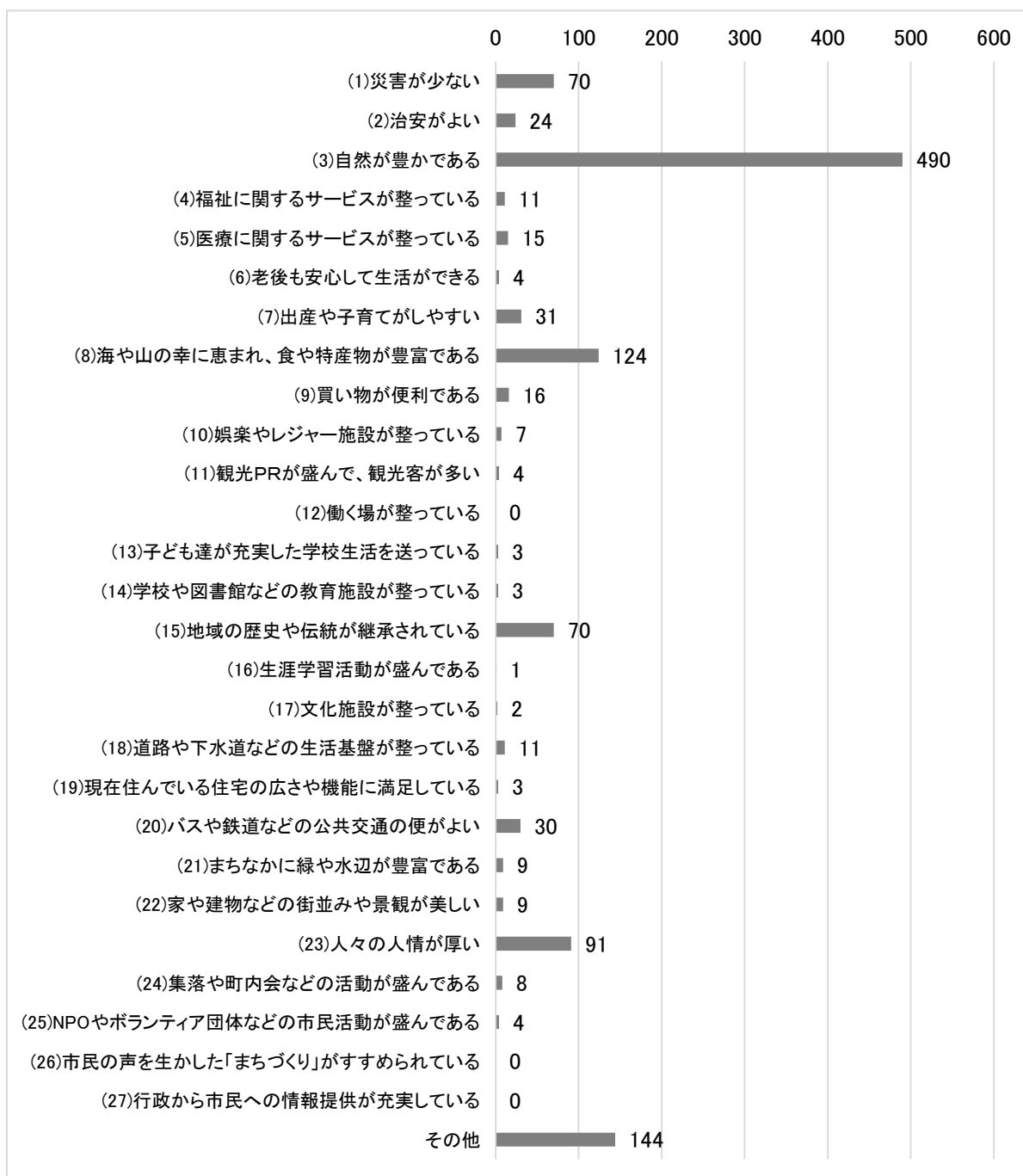


2-12-2 集計結果

「(3)自然が豊かである」、「(8)海や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である」、「(23)人々の人情が厚い」に関する意見が多い。

有効回答者数	自由意見回答者数	自由意見回答者率	意見数
2,168	891	41.4%	1,184

項目別意見数



意見数の多かった項目と、それぞれの意見（抜粋）は、次のとおりである。各項目の（ ）内の件数は、寄せられた意見の数。

【(1) 災害が少ない(70件)】

- 水害、災害もほとんどなく安心した生活が送れています。(70代男性、中山間地域)
- 私の住んでいる所は大きな災害もなく、雪も少なく、海も近く、空気もきれいで住むには最適だと思います。(80代以上女性、平野部)

【(2) 治安がよい(24件)】

- 治安が良く、犯罪などの心配が少なく暮らしやすい。(70代、性別無回答、中山間地域)
- 静かで、平和で、犯罪があまり無く、生活するのにある程度便利なので、良い所だと思います。(60代女性、中心市街地)

【(3) 自然が豊かである(490件)】

- まず感じるのは、海、山、川、四季折々に自然の姿がとても美しいことです。関川の土手から見る妙高、火打の山々、ゆったり流れる関川、山に沈む太陽、眺めていると心が安らぎます。そこには犬の散歩、ウォーキング、ランニングと大勢の人が集います。(70代女性、新興住宅地)
- 自然に恵まれ、四季折々の風情がすばらしい。春の桜。夏の蓮や日本海。秋の黄金色の稲穂。冬景色の寺院や雁木のたたずまい。(60代男性、新興住宅地)
- 春は桜、夏は蓮、秋は紅葉、冬は雪景色。厳しい気候の中で美しいと感じられるひとときを見せてくれます。(80代女性、中心市街地)

【(7) 出産や子育てがしやすい(31件)】

- 自然が豊かで子育てがしやすい。子どもと自然に触れながら過ごせることはとても幸せなことだと思っています。海でも山でも遊べるのは、貴重な地域です。(30代女性、新興住宅地)
- 子育て支援でオーレンプラザにある子どもセンターは、とても良い施設だと思います。無料で、しかもサポート体制が整っている。県外の人にうらやましがられた。(60代男性、新興住宅地)

【(8) 海や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である (124 件)】

- 食、自然はおすすめできる。東京からの友人にも米のおいしさ、海産物などが喜ばれた。海、山が近く交通渋滞が少ないのでレジャーに出かけやすい。(20 代男性、中心市街地)
- 食材（海のもの・山のもの）が豊富であるのと同時に、寒いので甘味が増し美味しい。この土地ならではの「食」がたくさんあります。(70 代男性、平野部)

【(15) 地域の歴史や伝統が継承されている (70 件)】

- 町の歴史がよく保存されており、自然も街もその歴史の中で育てられ、美しいものが多い。(80 代以上男性、中心市街地)
- 関西の友人に春日山、高田城跡、前島密記念館、日本スキー発祥記念館、岩の原葡萄園など歴史に沿って案内したら非常に喜ばれた。(60 代女性、中心市街地)

【(20) バスや鉄道などの公共交通の便がよい (30 件)】

- 交通機関も隣接する県とのアクセスが十分整っているのは非常に大きな魅力だと思う。(70 代男性、新興住宅地)
- 高速道路、新幹線など交通も比較的便利で住みやすい。(20 代男性、中心市街地)

【(23) 人々の人情が厚い (91 件)】

- 町内に優しい人が多くいらっしゃいます。困ったことがあっても近所に親切にしてください。特に雁木前の雪を流雪溝に流す時、重い蓋を持ち上げられず困っていると笑顔で手伝ってくださいます。(60 代女性、中心市街地)
- いざと言う時に近所ですぐ助け合いが出来て、それを幸せと喜びに感じております。心の優しい人々が多いです。(50 代女性、中心市街地)
- 何とんでも、まず人情が一番。心が通じ合う暖かく親切な気持ちを持った風土が「幸せ、喜び感」につながると思います。各町内会や地域が出会いの場、集いの場の創出を工夫しながら設けて地道にコミュニティ活動を継続することが力となり輪になって行くと思います。(60 代男性、中山間地域)

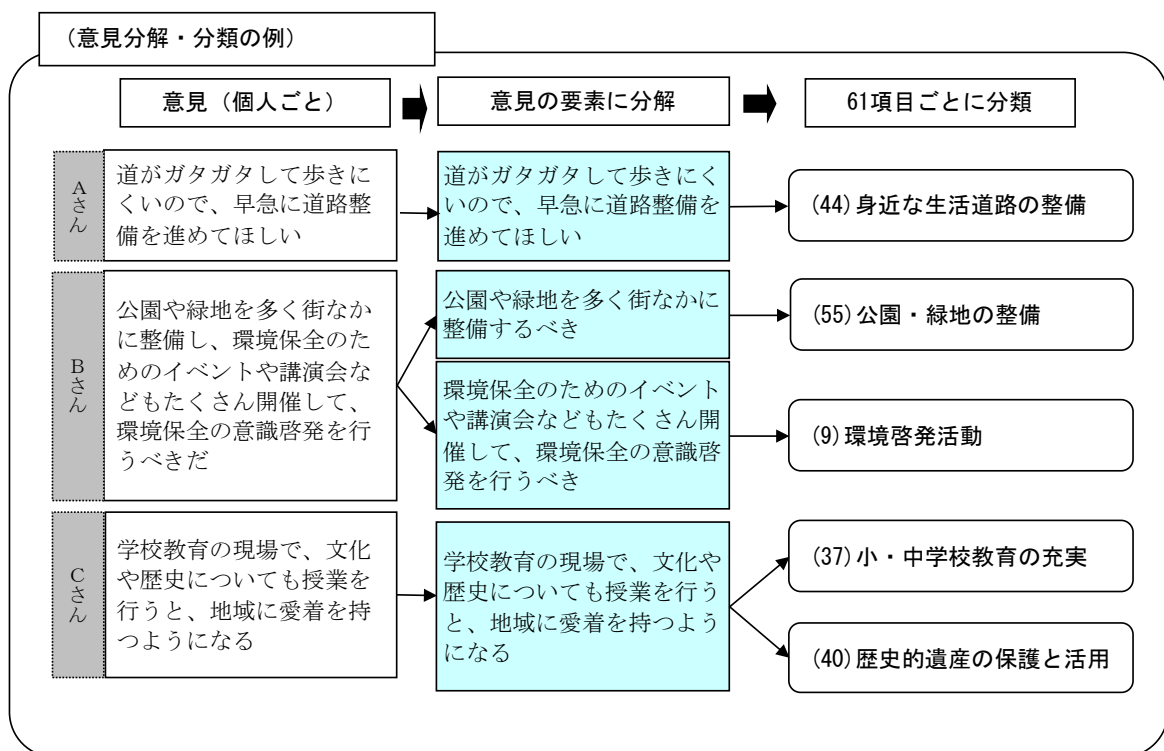
2-13 【問6】 今後の市政やまちづくりについての意見

今後の市政やまちづくりについての意見を自由記述で回答いただいた。

2-13-1 分類の方法

問5を分類した方法と同様に、回答いただいた意見を以下のように分類して整理した。

- ・今後の市政やまちづくりについての意見を、問2「各分野における取組についての満足度、重要度」で設定した61項目により分類した。
- ・問2で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。



2-13-2 集計結果

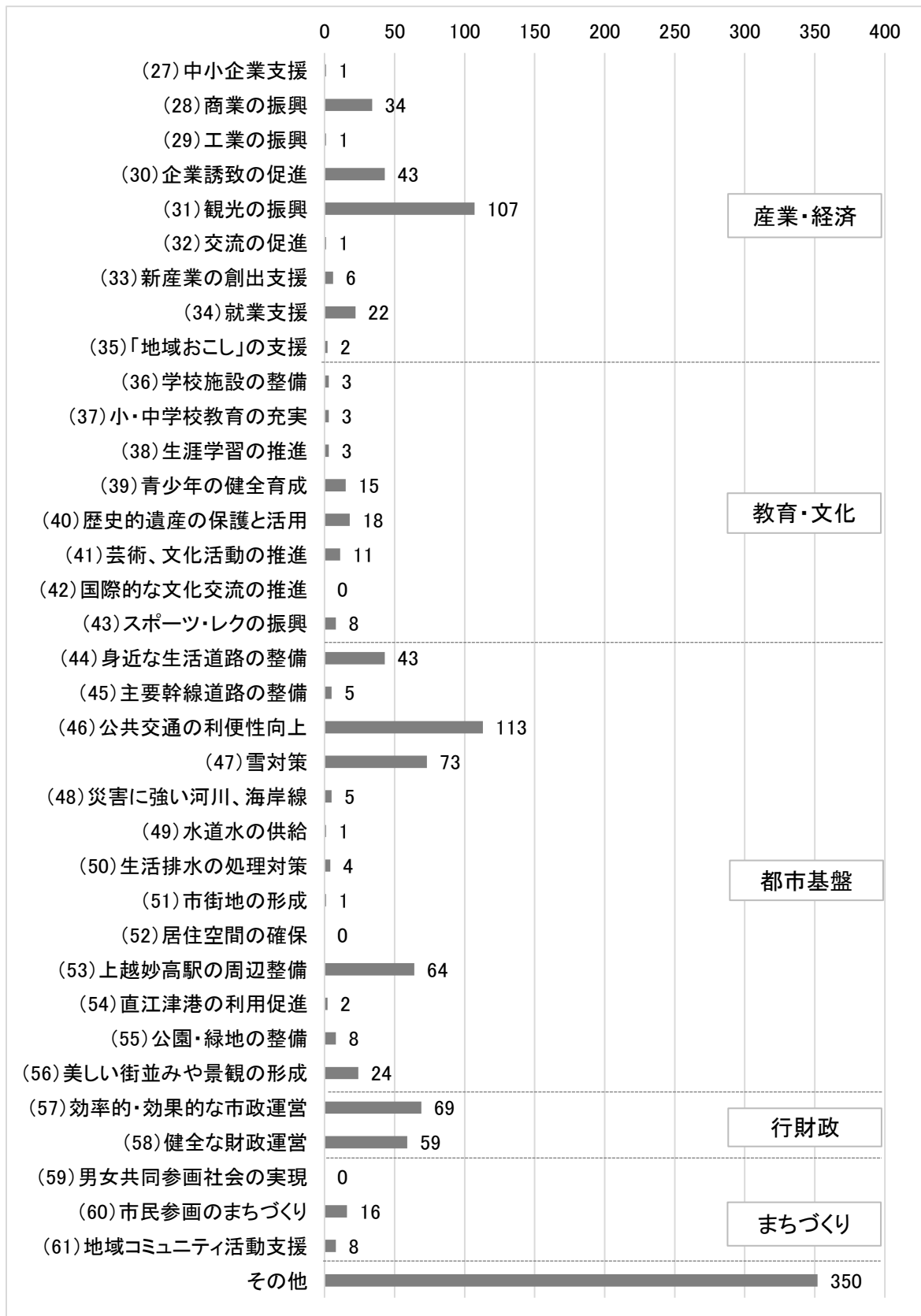
今後の市政やまちづくりについての自由記述意見を分野別にみると、都市基盤分野に対する意見が最も多く、次いで産業・経済分野となっている。

都市基盤分野については、「公共交通の利便性向上」、「雪対策」、「上越妙高駅の周辺整備」に関する意見が多く、産業・経済分野については、「観光の振興」、「企業誘致の促進」、「商業の振興」を求める意見が多い。

有効回答者数	自由意見回答者数	自由意見回答者率	意見数
2,168	1,080	49.8%	1,332

項目別意見数





各分野に関して意見数が多かった項目と、それぞれの意見（抜粋）は次のとおりである。各項目の（ ）内の件数は、寄せられた意見の数。

（１）「防災・防犯」分野に関する意見

【防災対策（16件）】

■ 災害時の避難や、水害対策を求める意見が寄せられた。

○災害に強いまちづくりに向け、各集落センターを活用し、備蓄と太陽光発電など（救助まで耐えられるような）の設備を充実させる。防災士による地区での研修を実施し、町内会役員の知識を向上させ、災害や非常時に対応できるシステムをつくる。避難弱者を優先救助する体制（公助、共助、自助）を確立。近隣の団結、民生児童委員との連携を進める。（50代男性、新興住宅地）

○災害時の避難場所を充実してほしい。（50代男性、新興住宅地）

（２）「環境」分野に関する意見

【ごみ減量とリサイクル（11件）】

■ ごみの分別方法や収集、ごみ袋の耐久性に関する意見が寄せられた。

○ごみ袋から臭いがして弱いので使用しづらいです。リサイクル等の考えはすばらしいですが、ごみ袋は変えてもらいたいと思っています。（40代女性、中心市街地）

○ゴミの分別が多すぎて大変。都会の人が来るとびっくりする。今はまだ分別できますが歳をとって、はたしてひとりのできるかどうか心配。（50代女性、中心市街地）

○ごみの分別が高齢者にとってどれだけ負担になっているか考えてほしい。燃えるゴミと燃えないゴミ、ペットボトル、牛乳パック、スチロールトレイくらいでいいと思う。（80代以上女性、中心市街地）

(3) 「健康・福祉」分野に関する意見

【介護サービス (34 件)】

■ 介護保険料が高額であることに値下げを求める意見や、介護施設数を増やすよう求める意見が多くみられた。

- 介護保険料が高すぎるので、過剰なサービスを見直すなど適正な運営を望みます。(60代女性、新興住宅地)
- これからますます高齢者が増え、地域の福祉や医療のサービスが大事になってくる。介護施設なども増やす必要があると思います。(70代男性、平野部)
- 高齢者のみの世帯に対する通院や、買い物の送迎ボランティアなどがあれば安心できます。(80代以上、中山間地域)
- 一人暮らしのお年寄りが多くいますので、その方たちへの声かけ、訪問などの支援に力を入れてほしいと思います。(20代以下女性、中心市街地)

【子育て支援 (56 件)】

■ 少子化に対する危機感の声や、子育て支援の充実を求める意見が多く、年代別では、20~40代の意見が多い。

- 子育てしやすい環境や気軽に相談できる場があると良いと思います。子供が遊んで学べるような場所やイベントがもっとあるとうれしいです。(30代女性、新興住宅地)
- 少子高齢化になっているので、子供を増やしていけるように子供を育てやすくしてあげてほしい。例えば保育園、幼稚園代を安くするなど。子供を育てるのに昔と違ってお金がかかりすぎていると思います。もっと若い人が生活しやすいように、未来が明るく思えるようにしていただきたい。高齢者への福祉も大事だけれど、若い人の福祉も大事です。(60代女性、平野部)
- 放課後児童クラブの料金がなくて気軽に子供を預けられずに、一人で心細く留守番している子供がたくさんいます。(30代女性、中山間地域)
- 地域に子供が少ないので少子化対策、子育て支援をさらに進めてほしい。このままでは、私の住んでいる地域に人はいなくなります。(40代男性、中山間地域)

【保育サービスの充実（10件）】

■ 子どもの預かり時間に関する意見などが寄せられた。

○オーレンプラザ子どもセンターの一時預かり時間をもう少し延長してほしい。

（30代女性、中心市街地）

○保育園がなければ、仕事を続けられないのですが、保育士の皆さんが疲弊しているように感じます。台風や大雪でも預けたいと言われれば、どんな状況でも開園もしくは避難所でも保育を行わなければならない。保育時間もどんどん長くなってきているようですが、園が開いていれば、その分仕事をして大丈夫という思いができ、悪循環になり、子どもと関わる親の時間もどんどん少なくなります。サービスが行き過ぎるのはどうかと思います。（40代女性、中心市街地）

【医療体制の充実（14件）】

■ 医師の確保に関する意見や、夜間、休日に受診できる施設を増やしてほしいという声が寄せられた。

○夜間、休日に受診できる施設を増やしてほしい（三次救急の病院に診療に行くことになる）。（30代女性、中心市街地）

○1、2年前からかかりつけの医師が退職や転勤を理由にどんどんいなくなり、ちょうど親の不調が重なって代理の医師にかかったり、急に入院する事になったりして、安心して今までのかかりつけの医師に見ていただくことができず、医師不足を痛感しました。休日や予約以外の日に病院に問い合わせても、担当医師が不在、出張と言われ、困り果てたことがありました。（60代女性、中山間地域）

○社会的入院が必要な高齢者が多すぎる。施設の受け入れ、家族が家に連れて帰れる環境、病院の機能改善が必要。今後更に増え、入院、外来の受け入れも難しくなる。そうなるからでは遅い。（20代女性、中心市街地）

(4) 「農林水産」分野に関する意見

【中山間地域の農業振興（6件）】

■ 農業従事者の減少に不安を感じる意見などが寄せられた。

○農産物の生産はとても重要です。しかし、農業従事者が減少し、特に中山間地域では担い手が数年で激減すると思われます。そこで、若者の就業を促し、例えば市独自で所得補償をするなどして、安心して農業に従事できるように支援していく必要があります。また、観光農園化を促進し、植え付け時や収穫期などの繁忙期には、都市部の人を呼び込み、交流しながら農業を運営するのも良いかもしれません。(60代男性、中山間地域)

○高齢化が進んで農業が段々出来なくなって農地が荒れて行きます。集落の戸数も減って行くのが心配です。(70代男性、中山間地域)

(5) 「産業・経済」分野に関する意見

【商業の振興（34件）】

■ 昔からの商店街のにぎわいを求める声や、市民が魅力を感じる商業施設を望む意見が多い。

○高田の商店街は、シャッターが下りているお店もよく見ます。活気があると高田に立ち寄る方も季節を問わず増えるのではないかと思います。（20代以下女性、中心市街地）

○街の中心部が以前より活気がなくなっています。催し物があるときは人出があるのですが、日常は寂しいくらいです。車社会になって駐車場の問題等で若い人たちが大型店へ目を向けてしまって、街の中心が空っぽになる感じが大きいです。多方面で努力している姿が見られるのですが、大きな波に流されているようです。（80代以上女性、新興住宅地）

○もっと若者が集まれる商業施設を増やすといいと思います。そういった施設がないため、市外に出ていく若者が続出しています。（年代、性別、居住地域無回答）

【企業誘致の促進（43件）】

■ 企業や大型販売店などの誘致を求める声や、若者のU・I・Jターンのきっかけ作りにつなげてほしいという意見が多い。

○新しいショッピングモールや大型の収容施設を作り、もっと町全体に活気を持たせてほしいです。土地がたくさんあるのだから大型商業施設を誘致するなどしてもらいたいです。（30代女性、中心市街地）

○若い世代が帰ってきて就職し、安心して子供を産み、子育てできるように企業の上越進出の斡旋努力をしてほしい。（40代男性、平野部）

○都会から若者を受け入れるためには、魅力ある上越市をアピールして企業誘致することが最重要課題だと考える。私も高齢者になるので、福祉面の充実も重要であるが、それ以上に若者を増やすことへの町づくりを優先すべきだと考える。（50代男性、平野部）

【観光の振興（107件）】

■ 観光PR・宣伝に関する意見が多い。豊富な観光資源をうまくPRできておらず観光客の増加につながっていないという声が寄せられた。

○観桜会のライトアップをもっと増やしてほしいです。高田駅から歩いてくる市外の方が公園の入口から、ワクワクするような演出をしてほしいです。蓮も立派なのに、知らない方が多くもったいないです。県外の方、新幹線もできたのですから、もっとお客様を呼ぶアピール、整備が必要だと思います。（40代女性、中心市街地）

○新幹線が通り、高田夜桜、春日山城址、小川未明など、いろいろと観光できるところがあるのに、宣伝がうまく行ってないように思う。昭和レトロな高田の街並みは、他県から見ると珍しいと思う。（50代女性、中心市街地）

○「桜」「海」以外の通年で観光客が訪れるような市になればいいなあと常々思っている。（60代女性、新興住宅地）

○観光資源は多いのにいかし切れていない。遠来の人を案内していくのが分からないので、観光ルート等の分かりやすいものがほしい。車がないとどこにも行けないし、何もできない。（60代女性、中心市街地）

【就業支援（22件）】

■ 若者・高齢者の就労場所の確保を求める意見が多く寄せられた。

○高齢者が多くなるので、就労場所を確保してもらいたい。又、山間地への観光も高齢者には魅力なので、交通手段があれば良い。また、援農等は、若い人のみでなく、経験をいかした高齢者も重要な力となると思われるので、方法を考えてもらいたい。（60代女性、新興住宅地）

○若者の職業訓練や就業支援などにもっと力を入れてほしい。（50代男性、新興住宅地）

(6) 「教育・文化」分野に関する意見

【青少年の健全育成（15件）】

■ 子供たちが安全・安心して交流できる場を設けることを求める意見が寄せられた。

○子供たちが自慢できる市、まちになってほしいです。そのために弱者にやさしいまちを望みます。教育に対して熱心な人がいる一方で、そこに落ちる予算はまだまだ少ないのかなと思います。（40代男性、平野部）

○子供に対しての支援（勉学・スポーツ・芸術等への投資）（30代男性、中心市街地）

【歴史的遺産の保護と活用（18件）】

■ 城下町の歴史や雁木、春日山などをいかしたまちづくりをしたほしいという意見が寄せられた。年代別では、70代、80代以上の意見が多い。

○高田地区の雁木通りをいかしたまちづくりを進めていただきたい。今の姿ではあまりにももったいないです。（80代以上男性、中山間地域）

○ハデなことをせず、城下町や港町の歴史とプライドを大切に市政を行ってもらえるといい。（80代以上女性、新興住宅地）

【芸術・文化活動の推進（11件）】

■ 芸術品の展示施設を求める声や、芸術・文化活動に触れる機会を増やしてほしいという意見が寄せられた。

○文化会館をより良いものにし、今以上にコンサートや公演の回数を増やしてほしい。（60代女性、新興住宅地）

○閉校になった学校を、一般の美術サークルや個人の作品を展示する施設に改修して市民美術館として活用したらどうか。（60代男性、中山間地域）

(7) 「都市基盤」分野に関する意見

【身近な生活道路の整備（43件）】

■ 通学路などの歩道の整備や車道の白線の点検など、安全性の確保を求める意見が多い。年代別では、60、70代の意見が多い。

○通学路の点検を定期的にしてほしいです。（30代女性、平野部）

○市道の舗装が傷んでいる道路が多く見られます。白線も消えて道端がはっきりしない所があります。（60代男性、平野部）

○昔からの歩道に段差があり、高齢者や足の悪い人が歩道ではなく、車道を歩いている状態である。平らにしていきたい。（60代女性、新興住宅地）

【公共交通の利便性向上（113件）】

■ 運転免許返納後の交通手段の確保を求める声やバス、鉄道等の充実を望む意見が多い。年代別では、60、70代の意見が多い。

○過疎地域において高齢者は自家用車がなくては生活できない状況です。高齢者の免許返納が安心して行えるよう交通の便のサポートが必要です。（40代女性、平野部）

○高齢者が車の運転ができなくなっても、行きたい所（市役所、郵便局、病院、駅、スーパーなど）へ行けるような交通網の整備を考えてほしい。（70代女性、中山間地域）

○車が使えない時の手段として、バスが利用しづらいです。公共交通機関が十分に利用できない地域では、高齢者による危険な運転も減少しないと思います。（20代女性、中心市街地）

○車の運転が出来るのは便利で良いが、高齢で運転できなくなると、バスもなく大変不便です。タクシーを使うのにも高額になり、だんだん出かけなくなります。週に2～3回（1回でも良い）、ワゴン車で、バス路線のない集落を回ってもらうとありがたいです。通院や買い物ができます。（80代以上、平野部）

【雪対策（73件）】

- 丁寧な除雪を求める声のほか、高齢者世帯への除雪作業のサポートを求める意見が多い。年代別では、50、60代の意見が多い。
- 除雪の出動基準について、各地域にボランティアを募り、ネットワーク等で各業者に繋がることできれば、無駄な除雪が軽減されるのではないかと思う。（40代女性、新興住宅地）
- 70歳以上になると屋根に登っての除雪は危険なのでどうしたらと考えてしまう。融雪装置の設置はお金がかかり、維持費も大変。この地方のネックは雪だけ。本当に住みやすい地域です。（60代女性、平野部）

【上越妙高駅の周辺整備（64件）】

- 上越妙高駅が開業して3年になるものの、依然として空き地が目立つことへの不満の声や駅周辺に商業施設を望む意見が多い。
- 上越妙高駅を降りた観光客に「何もない」と思われたいよう楽しませる町づくりをお願いします。観光資源がいっぱいあるのにいかしきれてない。お客様に来ていただくという意識がないかぎり、いつになっても観光客が増えないと思います。（60代性別無回答、中山間地域）
- 上越妙高駅に駅ビル等をつくり、観光客が立ち寄れるところを増やすとよいと思います。待ち時間に利用者が立ち寄れる所が増えると嬉しいです。（20代女性、平野部）

【美しい街並みや景観の形成（24件）】

- 空き地や空き家の対策への意見や、自然をいかした景観の形成に関する意見が寄せられた。
- 我が家の前を土・日・祝日になるとトキメキ鉄道の雪月花が通ります。赤い車体の素敵な電車なのですが、沿線上の景観が、いまひとつだと思います。菜の花畑・コスモス畑などいろいろなアイデアを持ち寄って、多くの観光客が上越に来てもらえるようお願いします。（60代女性、新興住宅地）
- 使われていない広場や公園など多く、道路の脇など雑草が生い茂っていたりして、街並みは、きれいとは言えないと思います。自然の美しさをアピールするのならば、景観の良い場所に行く道中も美しく整えないと特別感がないというか、すぐに現実に戻され、旅の余韻を味わえないと思います。（30代女性、新興住宅地）
- 昔から（江戸時代）続く、全国一位の雁木の景観を観光の名所としていかしていく。（60代男性、中心市街地）

(8) 「行財政」分野に関する意見

【効率的・効果的な市政運営 (69 件)】

■ 税負担に見合う効果的な市政運営や、市職員の能力向上・市民に寄りそう行動を求める意見が多い。

○合併の理念と現実の市政を公平、平等になっているか検証してほしい。職員の意識改革と機構の改編を推進してほしい。費用対効果、施策の実効性などを検証してほしい。
(70 代男性、平野部)

○人がどんどん少なくなる中、生活しやすい環境づくりが今後求められると思います。改革や新しい事業を行うためには、10 年先ではなく、20 年、30 年先を考え、意識を変える必要があると思います。(50 代男性、平野部)

○市民目線で、市民に寄り添う気配りに配慮した市政運営に向けた職員の教育、指導が足りない面も見受けられる。(60 代男性、平野部)

【健全な財政運営 (59 件)】

■ 税金の使途に関する意見や無駄な歳出の削減を求める声が多い。

○税金の行方をもっと分かりやすく、お知らせしてほしい。今年も市・県税を支払いますが、どのようにいかされているのか、分からない事が多いので、お願いします。(60 代女性、平野部)

○新潟県 3 番目の市としてこれからも健全な財政を維持し、未来の子供たちが安心して住み続けられるまちづくりを推進してください。(50 代女性、新興住宅地)

(9) 「まちづくり」分野に関する意見

【市民参画のまちづくり（16件）】

■ 市民の声を聞き、市政に反映してほしいという意見が多く寄せられた。

○市民の要望をどうすれば市政に反映されるのか。もっと市民の声が市政に届くようなシステムづくりが必要ではないか。（40代女性、新興住宅地）

○まずは、職員の方々にも地域の活動に自ら参加し、意見・情報を取りまとめたり、地域に市政の情報を伝達すること、人と人とのつながりのバトンとなっていただきたいと思います。（60代女性、中心市街地）

○もう少し市民の皆様に市政に関心を持っていただきたいと思います。そうするともっと明るい街になるのではないのでしょうか。市民が明るくなれば、市全体が明るくなり、上越を訪ねる人も多くなるのではないのでしょうか。（50代女性、中心市街地）

3 集計表

3-1 回答者属性

(1) 性別

今回 H30			前回 H26		前々回 H22	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
男性	956	44.1%	974	41.7%	1,179	46.2%
女性	1,001	46.2%	1,117	47.8%	1,230	48.2%
無記入	211	9.7%	245	10.5%	145	5.6%
母数	2,168	100.0%	2,336	100.0%	2,554	100.0%

(2) 年齢

今回 H30			前回 H26		前々回 H22	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
10代	26	1.2%	26	1.1%	—	—
20代	103	4.8%	135	5.8%	189	7.4%
30代	183	8.4%	233	10.0%	299	11.7%
40代	284	13.1%	280	12.0%	328	12.8%
50代	323	14.9%	373	16.0%	480	18.8%
60代	501	23.1%	554	23.7%	550	21.5%
70代	418	19.3%	426	18.2%	431	16.9%
80代以上	279	12.9%	260	11.1%	239	9.4%
無記入	51	2.4%	49	2.1%	38	1.5%
母数	2,168	100.0%	2,336	100.0%	2,554	100.0%

(3) 職業

	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
農林水産業	62	2.9%	75	3.2%	118	4.6%
自営業(商工、サービス業)	72	3.3%	115	4.9%	129	5.1%
その他の自営業	69	3.2%	67	2.9%	59	2.3%
会社員、団体職員	533	24.6%	539	23.1%	644	25.2%
会社役員、団体役員	47	2.2%	50	2.1%	48	1.9%
公務員	132	6.1%	122	5.2%	134	5.2%
学生	30	1.4%	39	1.7%	34	1.3%
家事従事	191	8.8%	245	10.5%	304	11.9%
アルバイト、パートタイマー	243	11.2%	271	11.6%	239	9.4%
無職	652	30.1%	684	29.3%	701	27.4%
その他	62	2.9%	68	2.9%	69	2.7%
無記入	75	3.5%	61	2.6%	75	3.0%
母数	2,168	100.0%	2,336	100.0%	2,554	100.0%

(4) 家族構成

今回 H30			前回 H26	
	票数	構成比	票数	構成比
一人暮らし	205	9.5%	171	7.3%
夫婦のみ	563	26.0%	554	23.7%
2世代家族(子どもと)	646	29.8%	721	30.9%
2世代家族(親と)	343	15.8%	359	15.4%
3世代以上の同居家族	319	14.7%	389	16.7%
その他	39	1.8%	78	3.3%
無記入	53	2.4%	64	2.7%
母数	2,168	100.0%	2,336	100.0%

前々回 H22
設問なし

(5) 現在の住まいの形態

今回 H30		
	票数	構成比
戸建て住宅(自己所有)	1,836	84.7%
戸建て住宅(賃貸)	41	1.9%
マンション(自己所有)	22	1.0%
マンション(賃貸)	26	1.2%
その他(アパート、社宅など)	162	7.5%
無記入	81	3.7%
母数	2,168	100.0%

前回 H26
設問なし

前々回 H22
設問なし

(6) あなたがお住まいの地域自治区

	今回 H30		前回H26		前々回H22	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
高田区	378	17.4%	500	21.4%	546	21.4%
新道区	79	3.6%	56	2.4%	56	2.2%
金谷区	125	5.8%	83	3.6%	95	3.7%
春日区	186	8.6%	182	7.8%	194	7.6%
諏訪区	12	0.6%	13	0.6%	15	0.6%
津有区	54	2.5%	51	2.2%	48	1.9%
三郷区	16	0.7%	13	0.6%	14	0.5%
和田区	46	2.1%	63	2.7%	59	2.3%
高士区	24	1.1%	17	0.7%	27	1.1%
直江津区	208	9.6%	268	11.5%	294	11.5%
有田区	124	5.7%	104	4.5%	79	3.1%
八千浦区	37	1.7%	35	1.5%	50	2.0%
保倉区	20	0.9%	35	1.5%	33	1.3%
北諏訪区	17	0.8%	16	0.7%	14	0.5%
谷浜・桑取区	14	0.6%	16	0.7%	19	0.7%
安塚区	37	1.7%	39	1.7%	49	1.9%
浦川原区	47	2.2%	45	1.9%	50	2.0%
大島区	23	1.1%	25	1.1%	34	1.3%
牧区	24	1.1%	32	1.4%	39	1.5%
柿崎区	120	5.5%	129	5.5%	158	6.2%
大潟区	103	4.8%	126	5.4%	132	5.2%
頸城区	102	4.7%	118	5.1%	115	4.5%
吉川区	45	2.1%	59	2.5%	69	2.7%
中郷区	45	2.1%	51	2.2%	68	2.7%
板倉区	85	3.9%	90	3.9%	105	4.1%
清里区	47	2.2%	34	1.5%	40	1.6%
三和区	60	2.8%	63	2.7%	81	3.2%
名立区	34	1.6%	37	1.6%	41	1.6%
無記入	56	2.6%	36	1.5%	30	1.1%
母数	2,168	100.0%	2,336	100.0%	2,554	100.0%

(7) 上越市とのかかわり

	今回 H30		前回 H26 設問なし	前々回 H22 設問なし
	票数	構成比		
上越市内の出身で、市外に転出することなく、ずっと上越市内で暮らしている	843	38.9%		
上越市内の出身で、進学や就職などで市外に転出したことはあるが、戻って暮らしている	709	32.7%		
上越市外の出身で、上越市内で暮らしている	469	21.6%		
その他	42	1.9%		
無記入	105	4.8%		
母数	2,168	100.0%		

3-2 クロス集計表（性別・年齢・家族構成・地域区分）